

# 成法寺遺跡

—八尾市光南町1丁目29番地の調査—

1983・8

(財)八尾市文化財調査研究会



# 成法寺遺跡

——八尾市光南町1丁目29番地の調査——

1983・8

(財)八尾市文化財調査研究会



## はじめに

成法寺遺跡は河内平野の中央部に位置しており、現在でも、ここは市役所等の公共建物が密集する地域であります。いわば八尾市の中枢部に所在しているといえるでしょう。

今回、出土をみた弥生時代から古墳時代における多くの遺構・遺物は私たちの祖先の生活を知る貴重な資料であり、それが從来、遺跡の存在さえ確認されていなかったこの地点において発見されたことは、私たちにとって大きな驚きであります。八尾市域では現在のところ周知の遺跡が69ヶ所あり、その面積をみると市域の半分以上にもなります。それだけ八尾市は古くから開けた土地であり、数多くの歴史を持っているわけです。八尾市ではこうした遺跡の保護・活用を図る為、八尾市教育委員会に文化財室をおき、文化財保護法に基づく行政指導の徹底を行うとともに、昭和57年7月1日にはこの様な遺跡等の文化財を調査・研究する為の機関として財団法人八尾市文化財調査研究会が発足しました。本書は教育委員会が実施した発掘調査の整理報告業務の一部を当調査研究会が受託し、その成果として作成されたものであり、この度、ようやく刊行の運びとなりました。実際に調査・整理業務に携わった調査関係者の労苦は想像を絶するものであります、こうして作成された本書が今後の学問の発展と一般の方々への啓蒙に寄与できることとなれば幸いです。最後に調査に協力いただいた日本電信電話公社及びその関係者の方々、また現地説明会等を通じて埋蔵文化財発掘調査に御理解と御声援をいただいた市民の方々に深く感謝の意を表します。

昭和58年8月

財団法人 八尾市文化財調査研究会  
理 事 長 山脇 悅 司

## 例　　言

1. 本書は、八尾市光南町1丁目29番地に所在する日本電信電話公社・近畿電気通信局の新八尾電話局建設に伴う発掘調査の報告書である。
2. 本調査は、八尾市教育委員会が、日本電信電話公社の委託を受けて実施したものである。
3. 本調査に要した費用は、すべて日本電信電話公社が負担した。
4. 本調査は、昭和57年7月10日～同年9月25日までの間実施した。
5. 本調査は、八尾市教育委員会社会教育部文化財室、山本昭が担当し、現地調査は調査員高萩千秋・原田昌則・高木真光が当たった。調査補助員として野田雅彦・中野慶太・浅井賛二・酒井雅代諸氏の参加を得た。整理作業は、調査終了後継続して行い、昭和57年7月1日以降は、跡八尾市文化財調査研究会が、八尾市教育委員会の委託を受けて実施した。整理に際しては、中谷曉子・池田まゆみ・木曾直美他諸氏の協力を得た。
6. 本書は、高萩千秋・原田昌則・成海佳子・米田敏幸が、編集・執筆を行った。なお、土器の胎土分析については刑部小学校教諭奥田尚氏のより御寄稿を頂いた。
7. 調査記録には、実測図・写真的他、カラースライドを作成した。広く利用されることを望む。

# 成法寺遺跡

## 本文目次

第 1 章	調査の経過	1
第 1 節	調査の契機	1
第 2 節	調査の方法	3
第 3 節	調査日誌	4
第 2 章	成法寺遺跡周辺の環境	7
第 3 章	層序	10
第 4 章	遺構・遺物	11
第 1 節	遺構について	11
1	弥生時代後期	11
2	古墳時代前期	12
3	古墳時代後期	14
第 2 節	遺物について	43
1	出土遺物からみた成法寺遺跡	43
2	方形周溝墓出土の土器群	43
a	S X 1 出土遺物	43
b	S X 2 出土遺物	43
c	S X 3 出土遺物	43
d	S X 4 出土遺物	44
3	土器溜め出土の土器群	44
a	SW 1 出土遺物	44
b	SW 2 出土遺物	44
c	SW 3 出土遺物	44

4	土括出土の土器群.....	45
a	S K 13出土遺物 .....	45
b	S K 15出土遺物 .....	45
c	S K 28出土遺物 .....	45
d	S K 29出土遺物 .....	46
5	成法寺遺跡における庄内式成立期の土器の様相.....	46
6	観察表.....	53~89
<b>第 5 章</b>	<b>土器の胎土観察 .....</b>	<b>114</b>
<b>第 1 節</b>	<b>はじめに .....</b>	<b>114</b>
<b>第 2 節</b>	<b>各類型の構成砂礫種 .....</b>	<b>114</b>
a	I 類型.....	114
b	II 類型.....	115
c	III 類型.....	116
d	IV 類型.....	117
e	V 類型.....	117
f	VI 類型.....	118
g	VII 類型.....	118
h	VIII 類型.....	119
<b>第 3 節</b>	<b>砂礫の採取地 .....</b>	<b>119</b>
a	I 類型.....	119
b	II 類型.....	119
c	III 類型.....	120
d	IV 類型.....	120
e	V 類型・VI 類型・VII 類型.....	120
<b>第 4 節</b>	<b>おわりに .....</b>	<b>120</b>

## 挿図目次

図 1	調査地の位置図	2
図 2	調査区割図	3
図 3	遺跡分布図	9
図 4	標準層序図	10
図 5	刑部 3 丁目出土資料	49

## 実測図版目次

PL 1	遺構全体図	26
PL 2	S X 1・S X 2 遺構平面・断面図	27
PL 3	S X 1・S X 2 土層断面図	28
PL 4	S X 3・S X 4 遺構平面・断面図	29
PL 5	S X 3・S X 4 土層断面図	30
PL 6	S B 1・S B 2 遺構平面・断面図	31
PL 7	S B 3・S B 4 遺構平面・断面図	32
PL 8	S B 5 遺構平面・断面図	33
PL 9	S B 6 遺構平面・断面図	34
PL 10	S B 7 遺構平面・断面図	35
PL 11	S B 8 遺構平面・断面図	36
PL 12	SW 1・SW 2 遺物出土状況	37
PL 13	S K 8・S K 15 遺物出土状況	38
PL 14	S K 1~7 遺構平面・断面図	39
PL 15	S K 8~14 遺構平面・断面図	40
PL 16	S K 15~21 遺構平面・断面図	41
PL 17	S K 22~32 遺構平面・断面図	42
PL 18	遺物実測図(S X 1・2)	90
PL 19	遺物実測図(S X 2・3)	91
PL 20	遺物実測図(S X 4)	92

PL21	遺物実測図( S X 4 )	93
PL22	遺物実測図( S X 4 + SW 1 )	94
PL23	遺物実測図( SW 1 )	95
PL24	遺物実測図( SW 1 + 2 )	96
PL25	遺物実測図( SW 2 + 3 )	97
PL26	遺物実測図( SW 3 )	98
PL27	遺物実測図( SW 3 + SE 1 )	99
PL28	遺物実測図( SK 1 + 3 + 4 + 5 + 7 + 8 )	100
PL29	遺物実測図( SK 13 + 14 + 15 )	101
PL30	遺物実測図( SK 15 + 16 + 17 + 19 + 23 + 24 )	102
PL31	遺物実測図( SK 24 + 28 )	103
PL32	遺物実測図( SK 28 )	104
PL33	遺物実測図( SK 29 + 32 + 河道 )	105
PL34	遺物実測図( SP )	106
PL35	遺物実測図( A 区包含層 )	107
PL36	遺物実測図( B 区包含層 )	108
PL37	遺物実測図( B 区包含層 )	109
PL38	遺物実測図( C 区 + D 区包含層 )	110
PL39	遺物実測図( D 区包含層 )	111
PL40	遺物実測図( D 区包含層 )	112
PL41	木の本 1 丁目 83 出土資料(八尾南遺跡 I 期)	113
PL42	遺構配置図	134

## 表 目 次

表1 方形周溝墓一覧表.....	16
表2 建物一覧表.....	16
表3 土壙一覧表.....	17
表4 土器溜め・井戸一覧表.....	18
表5 ピット一覧表.....	19
表6 土器の胎土・器種・時期.....	119
表7 土器胎土の観察表.....	122

## 観 察 表 目 次

S X 1 .....	53	S K 16・17・23 .....	72・73
S X 2 .....	53	S K 24 .....	73
S X 3 .....	55	S K 28 .....	75
S X 4 .....	55	S K 29 .....	77
S W 1 .....	59	S K 32 .....	78
S W 2 .....	62	河道 .....	78
S W 3 .....	64	S P .....	78
S E 1 .....	67	A 区包含層 .....	80
S K 1 .....	67	B 区包含層 .....	82
S K 3・4・5・7・8 .....	68・69	C 区包含層 .....	85
S K 13・14 .....	69・70	D 区包含層 .....	86
S K 15 .....	70		

## 写 真 目 次

図版	1 現地説明会風景	三 1 SE 1 完掘状況(東より)
	2 現地説明会風景	2 SE 1 断面検出状況(北より)
二	1 全 景(北より)	四 1 SK 8 土器出土状況(東より)
	2 全 景(西より)	2 SK15 土器出土状況(北より)
三	1 SX 1 検出状況(西より)	五 1 SK31 完掘状況(西より)
	2 SX 1 南溝断面状況(西より)	2 SK31 断面検出状況(東より)
四	1 SX 2 検出状況(東より)	六 1 SK32 検出状況(南より)
	2 SX 2 北溝断面状況(東より)	2 SP178 土器出土状況(南より)
五	1 SX 3 検出状況(東より)	七 1~3 SX 2 7 SX 4
	2 SX 3 南溝断面状況(東より)	4~6 SX 3
六	1 SX 3 東溝土器出土状況	八 8~11 SX 4 12·13 SW 1
	2 SX 4 検出状況(南より)	14~20 SW 1
七	1 SX 4 西溝断面状況(北より)	21·22 SW 1 23~28 SW 2
	2 SX 4 東溝土器出土状況(南より)	29~31 SW 2 32~35 SW 3
八	1 SB 2 検出状況(北より)	36~41 SW 3
	2 SB 3 検出状況(南より)	42 SK 5 44·45 SK 8
九	1 SB 5 検出状況(西より)	43 SK 7 46~50 SK13
	2 SB 5 柱根検出状況(南より)	51~53 SK15 56 SK24
一〇	1 SB 6 検出状況(北より)	54 SK16 57 SK28
	2 SB 7 検出状況(南より)	55 SK17
一一	1 SB 4 根石検出状況(南より)	58~65 SK28
	2 SW 1 土器出土状況(東より)	66 SK32 69~71 A区包含層
一二	1 SW 2 土器出土状況(南より)	67 SP140 72 B区包含層
	2 SW 2 土器出土状況(東より)	68 SP178
一二三	1 SK 1 検出状況(北より)	73~79 B区包含層
	2 SK 2 検出状況(西より)	80~82 B区包含層
一二四	1 C地区 遺構検出状況(北より)	83~87 D区包含層
	2 SE 1, SK31, SK32 検出状況 (西より)	

# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査の契機

成法寺遺跡は、從来遺跡の存在すら確認されていなかった。いわゆる「周知の遺跡」外の土地であった。昭和56年3月12日、八尾市文化財事務取扱い要綱により八尾市光南町1丁目29番地においてビル建築を計画している旨の事前協議書が、日本電信電話公社・近畿電気通信局第2建築部から八尾市教育委員会文化財室に経由された。八尾市教育委員会では、当該計画地が弥生時代～古墳時代の集落遺跡である東郷遺跡に近接していることと、建築規模が大きく顯著な地下構造を有する為、事前に試掘調査を実施することとした。昭和56年5月11日、当該ビル建設予定地内に3ヶ所の試掘坑を掘削し、断面観察を行った結果、地表下2.5～3.3mを測る地層に、弥生時代～古墳時代の土器が多量に包含されている状況を確認した。

八尾市教育委員会は早急に遺跡発見届を文化庁に通知し、日本電信電話公社と当該遺跡の保存について協議した。その結果、文化庁に当該事業計画を通知するとともに、建築工事によって遺構の破壊が予想される1900m<sup>2</sup>を対象として、事前に発掘調査を実施し、調査・記録と出土遺物の保存をはかるよう決定した。なお、調査に用する諸費用は全て日本電信電話公社が負担し、八尾市教育委員会において調査記録及び出土遺物を保管することにした。現地調査にあたっては、建設工事の施工にあたる安藤建設が、鋼矢板打ち込み・機械掘削・人力掘削等の調査工事を受け持ち、八尾市教育委員会から調査指導及び記録作成の為に調査員・調査補助員・事務員等を派遣した。

調査は、昭和56年7月10日～7月18日に土止めの為の矢板を調査区周囲に打ち付けた後、昭和56年7月20日から調査員立会のもとで機械による表土掘削を行い、同年7月25日から人力掘削及び精査による本格的な発掘調査を開始した。その後調査によって、多くの遺構・遺物が予想以上に検出された為、若干の期間延長を行ったが、昭和56年9月25日に現地における発掘調査を終了した。なお、調査成果の一般への啓蒙をはかる為、調査終了前に新聞発表を行い、9月19日に現地説明会を開催した。

現地調査終了後は、八尾市教育委員会文化財整理室において遺物洗浄・土器復元・実測等の作業を実施していたが、昭和57年7月1日に財団法人八尾市文化財調査研究会が発足した為、整理業務の残りを同研究会に委託し、報告書作成作業にあたることとなった。

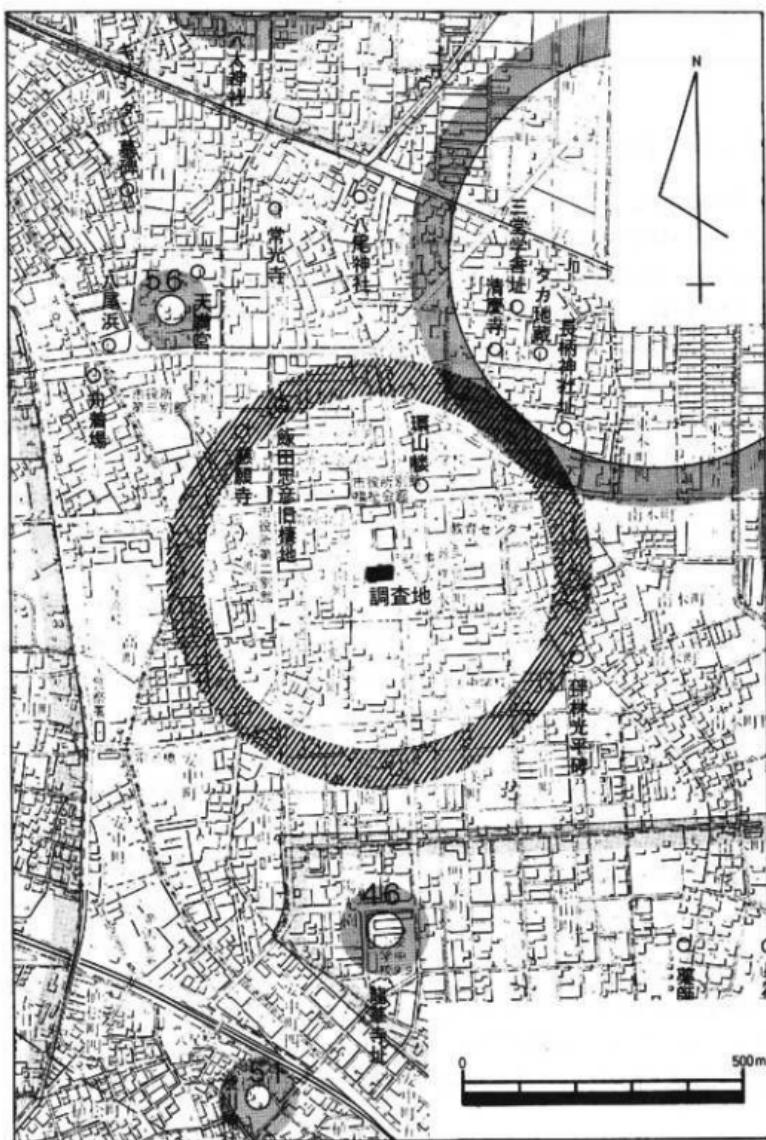


図1 調査地の位置図

## 第2節 調査の方法

現地での発掘調査の方法としては、土止めの鋼矢板・囲い塀等の準備工事を行なった後、本調査に着手した。遺構・遺物の埋没する土層上面までの表土約2.5mを機械掘削し、以下は人力掘削による精査を実施した後、実測・写真撮影等の記録の作成を行なった。

調査の実測基準線ならびに地区割は、調査区の中心部を基準点にして、計画建造物の方位にあわせて割り付けを行った。地区割は大きく北西より右回りでA～D区の4区画に大別する。そして、基準点より10m四方の小地区に細分し、東西方向は西から1. 2. 3. ……の数字、南北方向は北からa. b. c. ……のアルファベットの記号で表して、遺物の取り上げ等を行った。

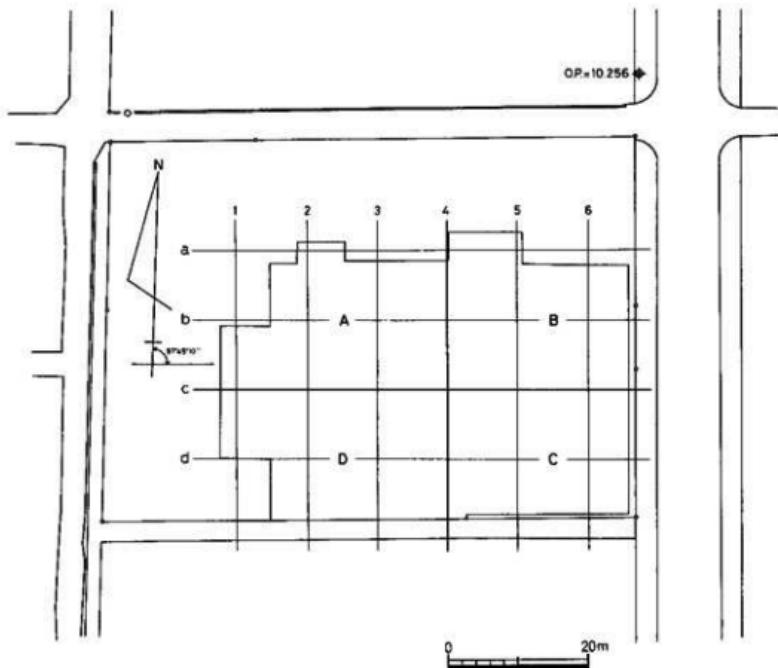


図2 調査区割図

### 第3節 調査日誌

昭和56年7月10日～18日（晴れ）

- 調査地（建設予定地）に鋼板等を打ち付け作業
- 調査地の周囲に鋤い塀を設置

器出土） ○ A・B・D区の包含層掘削、遺構出作業

7月20日～24日（晴れ）

- 調査員の立会のもと、約2.5mを表土機械掘削作業

8月10日（晴れ）

- S X 1 周溝のセクション図作成、写真撮影
- B・C区の包含層掘削、遺構検出作業

7月25日（晴れ）

- 午前10時、文化財室山本昭より作業員へ発掘調査にあたっての訓示
- 調査器具器材の搬入
- 調査地の区割（A～D区に区分、1a～7eの細区分）
- ベルトコンベヤー等設定

8月11日～12日（曇り／晴れ）

- C区 S X 1 周溝の掘り込み
- A区の包含層掘削

7月27日～28日（晴れ）

- C・D区の包含層掘削
- 側壁に排水溝の掘削

8月13日（晴れ）

- C区 S X 1 周溝の掘り込み ○ D区西側、南側の包含層掘削
- A区の S X 1・S E 2 の掘り込み（近世） ○ S E 1 断面実測図作成

7月29日～8月1日（晴れ）

- A～D区の包含層掘削（弥生時代後期・古墳時代後期の遺物が多く出土）
- C区より中世河道を検出

8月14日～17日（晴れ）

- 盆休み

8月3日（晴れ）

- 中世河道の掘り込み ○ C区よりコの字形の溝（S X 1 周溝）を検出 ○ C・D区の遺構検出作業（土壌・ピット等を検出）

8月18日（晴れ）

- C区の精査、遺構の白線引き
- D区の S K 8 土器・括平面図（S = 1%）作成、写真撮影、取り上げ
- A区にローリングタワー5段を設定し、夕方、C区遺構全景・部分の写真撮影

8月4日～5日（晴れ）

- A・D区の遺構検出作業

8月20日（晴れ）

- C区の割り付け、平面実測図（S = 1%）作成
- D区 S X 2 周溝の掘り込み
- D区 S X 2 墓丘上の遺構検出作業

8月6日～8日（晴れ・曇り／雨）

- C区 S X 1 周溝の掘り込み（上層で弥生式土器・須恵器、下層で弥生式土器・布留式土

8月21日（晴れ）

- C区の平面実測図作成、レベル記入
- D区 S X 2 周溝の掘り込み

- 8月22日（曇り時々雨）
- C区北西側に下層遺構確認の為、 $2.5 \times 0.5$ mの試掘溝を掘る（遺構・遺物検出できず）
  - D区 S X 2周溝断面実測図作成 ( $S = \frac{1}{10}$ )
  - 写真撮影
- 8月24日（晴れ）
- D区 S X 2周溝・土壤・ピットの掘り込み
  - A区の包含層掘削
- 8月25日（晴れ時々曇り）
- D区 S K15土器出土状況の写真撮影
  - D区遺構の掘り込み ○ A区の包含層掘削
- 8月26日（晴れ）
- D区 S K15土器一括平面実測図 ( $S = \frac{1}{10}$ ) 作成 ○ 土器取り上げ ○ D区遺構の掘り込み
  - A区の包含層掘削
- 8月27日（晴れ時々曇り）
- D区の精査、遺構の白線引き
  - B区にローリングタワー5段を設定し、夕方、D区遺構全景・部分写真撮影
- 8月28日（雨）
- 現場作業中止 ○ 内業（土器洗浄・図面整理）
- 8月29日（曇り）
- D区の割り付け、平面実測図 ( $S = \frac{1}{10}$ ) 作成
  - A区の包含層掘削
- 8月31日（晴れ）
- D区の平面実測図作成
  - A区の遺構検出作業 (S X 3周溝検出)
- 9月1日（晴れ）
- D区の平面実測図作成
  - A区遺構掘り込み
- 9月2日（晴れ）
- D区の平面実測図レベル記入
  - A区 S X 3周溝の掘り込み
  - A区土壤・ピットの掘り込み
- 9月3日（晴れ時々曇り）
- A区 S X 3周溝・土壤・ピットの掘り込み
  - B区の包含層掘削
- 9月4日（曇り）
- A区 S X 3周溝・土壤・ピットの掘り込み
  - PM 2:30より電々公社への現場説明会
- 9月5日（晴れ）
- 前夜の雨で調査区に水が溜り、水取り作業を行う ○ A区土器溜一括 (SW 1) 平面実測図 ( $S = \frac{1}{10}$ ) 作成
  - D区土壤断面実測図 ( $S = \frac{1}{10}$ ) 作成
- 9月7日（晴れ時々曇り）
- A区の遺構掘り込み ○ SW 1 土器取り上げ ○ A区土器溜一括 (SW 2) 平面実測図 ( $S = \frac{1}{10}$ ) 作成、写真撮影、取り上げ
  - A区 S X 3周溝の断面実測図 4ヶ所 ( $S = \frac{1}{10}$ ) 作成、写真撮影
  - B区遺構検出作業
- 9月8日（曇り時々雨）
- A区の精査、白線引き
  - B区の包含層掘削

○ C 区にローリングタワー 5 段を設定し、 A 区の遺構全景・部分の写真撮影	9月17日（晴れ） ○ 調査区全体の精査 ○ 新聞発表
9月9日（雨/曇り） ○ B 区の遺構検出作業（ S X 4 周溝を検出）	9月18日（晴れ） ○ 調査区全体の精査、 遺構の白線引き ○ 調査区西側にローリングタワー 6 段を設定 ○ 夕方、 北側の電々公社ビル屋上より調査区全景を写真撮影
9月10日（曇り時々雨） ○ B 区の遺構掘り込み	9月19日（曇り/雨） ○ 午前中、 西側より調査区全景・部分写真の撮影 ○ PM 2：00～4：00 現地説明会
9月11日（曇り） ○ A 区の割り付け ○ 調査区の東西・南北断面実測図（ S = 1% ）作成 ○ B 区の遺構掘り込み（ S X 4 周溝・土壙・ピット等）	9月21日（晴れ時々曇り） ○ 調査区全体の精査、 白線引き ○ ローリングタワーの設定 ○ S X 1 ～ S X 4 、 建物址・土壙等の部分写真撮影
9月12日（晴れ） ○ A 区の平面実測図（ S = 1% ）作成 ○ 調査区の東西・南北断面実測図作成、 写真撮影 ○ B 区の遺構検出作業	9月22日（晴れ） ○ B 区割り付け、 平面実測図（ S = 1% ）作成
9月14日（晴れ） ○ A 区の平面実測図作成 ○ B 区の遺構（ S X 4 周溝・土壙・ピット等）掘り込み	9月23日（晴れ） ○ B 区の平面実測図作成、 レベル記入
9月15日（晴れ） ○ A 区の平面実測図作成、 レベル記入 ○ B 区の遺構掘り込み	9月24日（晴れ） ○ S X 3 ～ S X 4 の墳丘断ち割り ○ B 区 SW 3 土器取り上げ
9月16日（晴れ） ○ B 区の遺構掘り込み ○ B 区 S X 4 周溝セクション実測図（ S = 1% ）作成、 写真撮影 ○ 東西・南北セクションの除去	9月25日（晴れ） ○ S X 3 ～ S X 4 の断ち割り断面実測図（ S = 1% ）作成 ○ 下層の確認をし、 発掘調査を終了する

## 第2章 成法寺遺跡周辺の環境

河内平野は、東を海拔648mの生駒山と最高峰とする生駒山脈の急峻な斜面に遮切られ、南を羽曳野丘陵の台地群、西を南北に細長い上町台地によって囲まれた盆地状の地形を呈している。この平野の南半分は、紀伊山地・笠置山脈を水源とし、大和盆地から亀ノ瀬峡谷を経て、流入する大和川の沖積作用によって形成されたものである。現在の大和川は、宝永元年(1704)の付け替え工事により、羽曳野丘陵の北辺を東西に横切り、上町台地を横断して堺に至っているが、それ以前の大和川は、八尾市の二俣より長瀬川と玉串川に分流して上町台地の北辺へ注いでいたもので、古代には河内湖も存在していた。この両河川は、自然堤防による微高地を形成している為、その後背地は低湿地となり、さらに楠根川・恩智川・平野川といった中小河川が低湿地の中央を流れている。現在みられるこういった地形が、古代の河内平野のままであるとは言い難いが、旧大和川のたび重なる氾濫が、現在の地形を形成してきたことは紛れもない事実である。

さて、河内平野の歴史は古く、大阪市長原遺跡においては、すでに旧石器時代から人が住み始めていることが最近の調査であきらかとなっており、生駒山西麓の東大阪市山畠や六万寺遺跡などからもナイフ形石器や有尖頭器が採集されている。縄文時代の遺跡としては、羽曳野丘陵北端の藤井寺市国府遺跡や八尾市恩智遺跡が前期から晩期に至るまで存続する他、上町台地先端の大阪市森の宮遺跡、生駒西麓の東大阪市繩手遺跡が、中期から晩期に至る遺跡として知られる。また後期以降出現する遺跡は、上記遺跡の他、生駒西麓の東大阪市鬼塚遺跡・馬場川遺跡をはじめ、羽曳野丘陵縁の大坂市長原遺跡・八尾市八尾南遺跡・柏原市船橋遺跡などが有名である。このように縄文時代までの遺跡は河内平野周辺の丘陵縁辺や扇状地に立地していることがわかる。河内平野低平地に遺跡が形成されるのは弥生時代前期以後である。これは、大和川の沖積作用による汀線の後退と、それによって形成された湿润な土地の上に、水田農耕を主体とする集団が居住を始めたことを示す。東大阪市瓜生堂遺跡・八尾市山賀遺跡・美園遺跡・鬼井遺跡・田井中遺跡・跡部遺跡・東弓削遺跡などが前期から中期にかけて出現する。これらの集落は、大和川の氾濫が残した肥沃な土壤と豊かな水量を利用して発展していくのである。河内平野低平地がとりわけ大きな展開を示すのは弥生時代後期から古墳時代初頭にかけてである。この時代の遺跡には前述した遺跡に加え、東大阪市西岩田遺跡・小若江遺跡・若江遺跡・八尾市中田遺跡・小阪合遺跡・佐堂遺跡・久宝寺遺跡などが出現し、河内平野低平地の集落数は倍増する。成法寺遺跡もまた、この時期に出現する集落遺跡である。これらの遺跡は、最近の大規模な開発や建築工事に伴う緊急発掘調査により、その全容があきらかになりつつあ

る。またその中には、従来遺跡の存在すら知られなかった遺跡も數多くある。最近の河内低平地部では、近畿自動車道関連遺跡の発掘調査によって多くの事実が判明した。<sup>(注1)</sup> 瓜生堂・巨摩遺跡では弥生時代中期～後期の多数の方形周溝墓が発掘されており、弥生時代集落的一大墓域の存在があきらかになっているし、山賀遺跡では石蹴がささったままの人骨が葬られた弥生時代中期の「戦士の墓」が検出されている。また龜井遺跡では弥生時代集落の環濠の規模が確認された。これらの遺跡からは銅鋸破片や銅鏡、銅戈「貨泉」などの青銅器や鑄造に用いた鋳型や、瀬戸内地方から持ち運ばれた可能性のある土器類が出土し、弥生文化を理解する上で貴重な資料である。長原遺跡等からは削平された古墳群が検出され、龜井遺跡の古墳では主体部が残存していた為、甲冑・鞍・術・鉄鏡など目を見張る副葬品が出土している。その他若江北遺跡や山賀遺跡などからは弥生時代や古墳時代の水田が検出された。このような河内平野における考古学上の成果が全国的な関心を集めているなかで、成法寺遺跡の発掘調査が実施されたのである。<sup>(注2)</sup>

成法寺という名称は、建武3年(1336)に河内国貞法寺という文字が勅修寺文書にみられ、最近までこの付近に成法寺という地名が残っていた。今回の調査地は現在では光南町1丁目であるが、この地点より500m南の陽光園2丁目では平安時代の瓦や鎌倉時代の遺物群が出土している。<sup>(注3)</sup> この付近において弥生時代後期の土器が出土することはすでに山本博氏が「竜田越」の中で述べておられるが、その出土状況や土器の所在があきらかではなかった為、それ以後もこの時代の遺跡として認識されていなかった。成法寺遺跡東方2kmで昭和47年に実施された区画整理事業に伴う中田遺跡の発掘調査における古墳・平安・鎌倉時代の数多くの遺構遺物の検出は、<sup>(注4)</sup> この付近で最初に実施された大規模な発掘調査として注目すべき成果をあげている。<sup>(注5)</sup> 昭和56年以来、当遺跡北方500mの東郷遺跡で行った近鉄八尾駅前のビル建設に伴う発掘調査の成果は、成法寺遺跡発見につながる契機となった。この東郷遺跡では多数の竪穴式住居・掘立柱建物・井戸・溝などの集落遺構を検出している。これらは古墳時代の集落構造を知る上で貴重な資料であり、この遺跡の範囲の確定が重要な課題であった。当初成法寺遺跡は東郷遺跡の延長ではないかと考えていたが、当該調査終了後は、便宜上別の遺跡として取り扱っている。

なお、その後現在までの間、昭和57年3月に本町1丁目の市立八尾小学校のプール部分及び昭和57年6～7月に清水町2丁目の市立成法中学校校舎部分でそれぞれ発掘調査を実施しているが、本町1丁目では古墳時代前期の布留式の遺構・遺物を、清水町2丁目では7～8世紀頃の遺構・遺物を検出している。この為、成法寺遺跡は弥生時代後期より奈良・平安・鎌倉に至るまで若干の移動をしながらも、ほぼ継続的に営まれた集落遺跡であることは間違いない。

【注記】

- 1 「河内平野を掘る——近畿自動車道関連遺跡の発掘成果を中心として——」 須大阪文化センター 1981他
- 2 『八尾市史 史料編』 八尾市 1960
- 3 山本 博「竜田越」 学生社 1971
- 4 「中田遺跡北区発掘調査概要」「中田遺跡南区発掘調査概要」 中田遺跡調査会 1974
- 5 八尾市教育委員会文化財室「古代の集落を掘る」「河内どんこう」 第6巻16号 八尾文化協会 1982
- 6 八尾市教育委員会 健八尾市文化財調査研究会が調査 昭和58年3月現在整理中

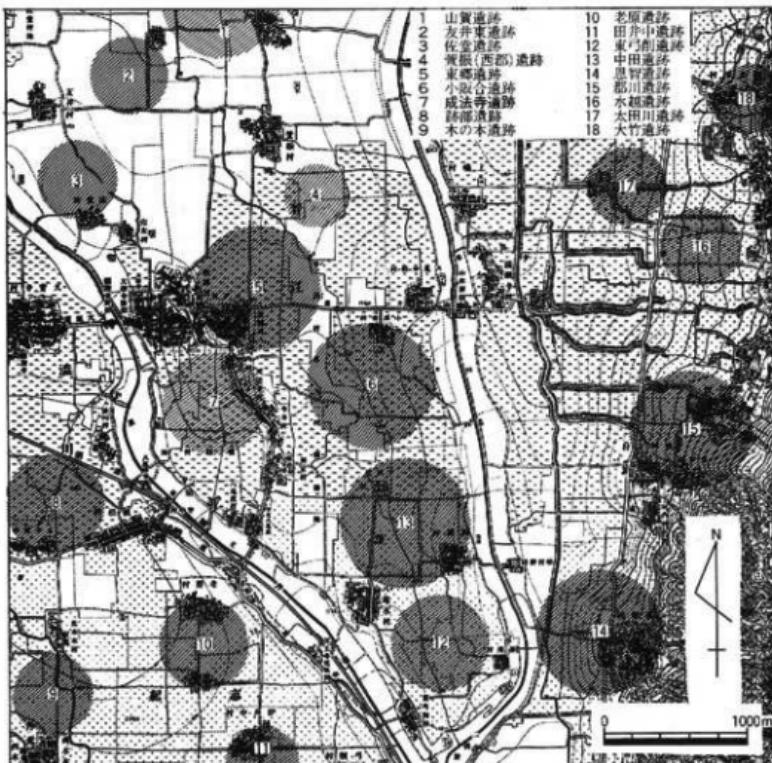


図3 遺跡分布図

## 第3章 層序

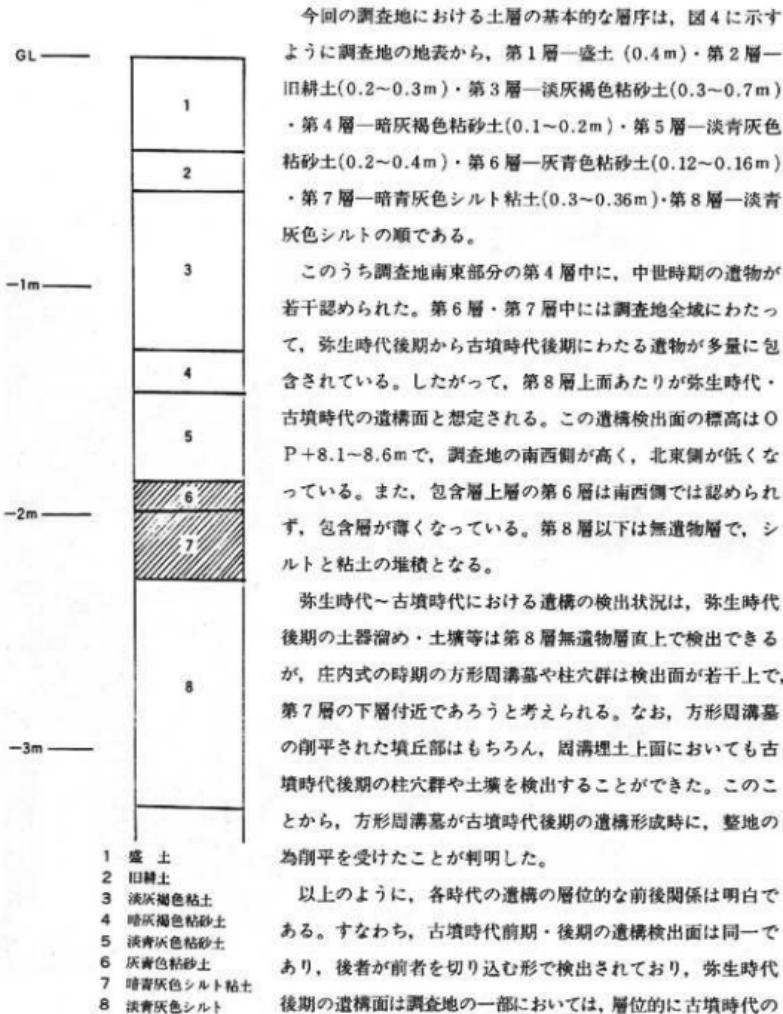


図4 標準層序図

## 第4章 遺構・遺物

### 第1節 遺構について

今回の調査で注目すべき成果は、弥生時代後期末・古墳時代初期・後期の3時期の遺構がほぼ同一面で検出され、各々の時代によって土地利用が異なっていることである。これらの変遷をあきらかにするには、各時代の遺構について、復元しなければならない。しかし、検出した弥生時代後期・古墳時代前期の遺構は、古墳時代後期の遺構によって削平・破壊を受けている関係にある。ここで検出した各時代の遺構について述べたいと思う。

#### 1. 弥生時代後期

##### 土器溜め（SW）

第8層淡青灰色シルト上面をベースとする土器の集積を3ヶ所で検出した。これらを土器溜め状遺構（SW）として取り扱った。これらの土器溜め状遺構は明確な土壤状を呈していないため、性格は不明である。しかし、同時性の高い土器が一括で出土したことから単なる遺物の集積とは思われず、廻収場所や祭祀遺構などの可能性が考えられる。

**SW1**：調査区西部付近に位置し、遺構として明確な掘形を持たない。壺・小型鉢・甕等が南北に長く集積した状態で出土した。

**SW2**：調査区中央部付近に位置し、弓形を呈したわずかな窪みが見られる。中央部にはS X 4 西溝が掘り込まれ、北西端部は近世の井戸（S E 2）に削平されている。出土状況は西側で甕が並べられた状態で、東部では壺を主体とした土器片が重なりあっていった。

**SW3**：調査区北部付近に位置する東西方向に細長い遺構で、わずかな窪みを持つ。遺構内から、完形に近い壺・鉢・高杯・甕が互いに密着した状態で検出された。

##### 土壤（SK）

ここでは大型の落ち込み・窪みなど性格不明の遺構を土壤（SK）とした。検出した土壤の総数は32基で、弥生時代後期～庄内式古相のものは25基を数える。これらは平面的な形状から以下のように分類することができる。

不定形を呈するもの……………SK 1・SK 2・SK 3・SK 4・SK 5

SK 6・SK 8・SK 10・SK 11・SK 12

SK 14・SK 15・SK 16・SK 17・SK 20

円形・橢円形を呈するもの……………SK 7・SK 25・SK 27・SK 28

- 溝状を呈するもの……………SK9・SK24  
方形を呈するもの……………SK8・SK19・SK22・SK31

これらの土壤のうち、いくつかの遺構について概説する。

**SK8**：調査区南部に位置し、東西に長い不定形を呈する土壤である。土壤の東部から、高坏・甕・手培り形土器が堆積した状態で出土している。

**SK15**：調査区南西隅に位置し、南部が調査区域外に至る大型の土壤である。内部に堆積する黒灰色粘砂土の下層から、破碎された甕・高坏・台付鉢・甕が一括で出土している。

**SK24**：調査区北西部付近に位置する溝状の土壤で、南側はSX3北溝によって削平されている。内部に堆積する黒灰色粘土内から、壺・小型壺・鉢・甕等が一括して出土した。

**SK28**：調査区中央北部付近に位置し、平面橢円形を呈する七塘で、SX4北溝によって北側を削平されている。内部に堆積する暗灰褐色粘土内から、甕・高坏・甕・ミニチュア甕等が散乱した状態で出土した。

## 2. 古墳時代前期

### 方形周溝墓（SX）

**SX1**：調査区の南東隅で検出した方形周溝墓で、調査区外へ至る東部を除いて約半分を確認した。墳丘は南北長14mを測り、方向は南北軸に対してN-29°-Eを示す。周溝の幅は南溝と北溝が2.1~2.8mを測るのに対して西溝は約5mと不揃いであるが、底部は一様に水平で深さは40cm前後とはば一定している。なお、周溝南西隅部は西側へ拡がった形で検出したが、この部分に関しては上層に位置する中世の河道によって南北方向に搅乱を受けており、構築当時形状はとどめていない。

一方、周溝底部には黒灰色粘土がレンズ状に堆積しており、構築後の一定期間は帶水状態が保たれていたことを示している。遺物もこの土層を中心に、弥生時代後期末から古墳時代前期に比定される鉢(1)・高坏(2)・甕(3~12)が出土したが、大半が細片で出土量も少ない。

墳丘の基底部は青灰色シルト層であるため、盛土である黄灰色シルトと明確に区別できるが、上部はほとんどが6世紀中葉に削平を受けていて、墳丘の盛土が10~20cm程度遺存していることを一部で確認したにすぎない。また、現存する墳丘の上面全域には不定形の土壤ならびに多数のビット群が認められたが、大半が弥生時代後期末と6世紀中葉の集落に伴うものであり、方形周溝墓に直接関係するものは見い出せなかった。ただ、北周溝の北東隅で検出したSK32は、完全に埋没した周溝の上層から切り込まれていて、内部から布留式古相に比定される壺が出土していることから、この時期には方形周溝墓としての機能が完全に失なわれていたことは明瞭である。

**S X 2**：調査地の南西隅に位置する方形周溝墓で、墳丘西辺に陸橋部を有する。墳丘は南側が調査区外に至るため全体の規模は不明であるが、墳丘部の平面は方形を呈し、墳丘長は残存する北辺で11.8mを測る。陸橋部は墳丘西辺から3m程度張り出して構築されているが、南側は擾乱を受けていて幅等は不明である。周溝は幅3.3～4.3mで深さは0.3～0.5mを測る。周溝内は主にシルトと粘土から成る堆積状況を示し、上層からは古墳時代後期を中心とする遺物、下層からは古墳時代前期に比定される遺物が出土した。

なお、平面実測図では周溝北西隅からさらに西側へ溝が続き、一見周溝が陸橋部をも囲繞するかと思われるが、北周溝の北西隅部が明瞭な角を持って屈曲していることや、北西隅の周溝と西側へ延びる溝とは底部の比高差が10cm前後を測ることから、本来は八尾南遺跡S X 2と同様に一辺の中央で周溝がとされる形態の方形周溝墓であったと推定される。また、北周溝の位置する一帯の地形は、わずかに窪むことが起因してか、6世紀の中葉にも再度溝造構として利用されていることから、西側へ続く溝造構もこの時期に開溝されたものと推定される。

一方、他の3基の方形周溝墓がシルトを基盤とする土層上に築造されているのに対し、本方形周溝墓は明らかに河川流出土が堆積する微高地上に位置し、他の3基とは明らかに比高差が認められる。墳丘の盛土も、基底部同様すべて粗砂を中心とする土質であるため、基底部と盛土との判別はし難い。

S X 1同様、上面には築造前の遺構である弥生時代後期末の土壤と、6世紀のビット群が混在しており、各時期における土地利用のあり方を示唆している。

**S X 3**：調査地の北西部で検出した方形周溝墓で、平面的にはほぼ完存しているが、墳丘東辺と東周溝で近世井戸(S E 1・S E 2)の擾乱を受けている。墳丘は平面形で隅丸方形を呈し、幅は東西13.5m・南北12mを測る。方向は南北軸に対してN-12°-Eを示す。周溝は東側の一部が外へ拡がる他は、幅2～2.5m・深さ0.4mを測るが、周溝四隅は一様に幅狭で、他の辺部分の周溝底に対して比高が高い。なお、北周溝中央には土壤状の落ち込みが認められるが、性格は不明である。

周溝内の上層堆積は、まず墳丘の盛土であるシルト質土層が周溝の肩部から底部にかけて堆積した後、中央に粘土層がレンズ状に堆積することから、構築当初から帶水を意図した周溝ではなかったものと推定される。周溝内からは供獻土器と推定される甕(1)が南東隅、甕(2)が北東隅、壺(4)が南西隅からそれぞれ出土している。

墳丘は他と同様削平されていて、主体部は遺存していないが、青灰色シルトの墳丘基底部上に20cm前後の黄灰褐色シルトの盛土が認められた。

**S X 4**：調査区の中央部で検出した方形周溝墓で、S X 1とS X 3の中間を占地している。墳丘は平面方形を呈し、幅は東西10m・南北11.7mを測る。方向は東西軸に対してN-23°-E

を測り、S X 1に近似している。周溝幅は1.5m前後を測るが、東周溝のみ約2.5mと幅広である。深さも0.48~0.68mを測るが、東周溝の南部で他の溝底より一段高くなる部分が認められる。周溝内には主にシルト層が堆積し、他の3基で確認された渟水状況を示す黒色系の粘土層は認められなかった。

遺物は周溝南東隅から口縁部のみ遺存する壺(1)・甕(2)が出土した他、東周溝中央で大型甕(12)、西周溝北部で甕(4)、南周溝で直口壺(7)がそれぞれ溝底部から出土している。

墳丘はS X 3同様、青灰色シルトの基底部上に盛土である黄灰褐色シルトが10cm前後遺存していた。なお、上面に遺存する遺構から、この周溝墓は弥生時代後期後半に比定されるS W 2を切り込んで古墳時代初期に構築した後、他と同様6世紀中葉にはS B 7等の掘立柱建物等によって削平を受けており、遺跡全体の推移にはば照応している。

### 3. 古墳時代後期

#### 掘立柱建物（S B）

**S B 1**：調査区西部付近に位置し、2間×1間の規模を持つ平面方形の東西方向の建物である。桁行3.55m・梁行3.0mを測り、復元床面積は10.65m<sup>2</sup>である。柱穴は径0.6~0.9m・深さ0.14~0.32mを測り、平面円形ないし横円形を呈する。

**S B 2**：調査区南部に位置し、2間×2間の規模を持つ平面長方形の純柱建物である。桁行4.1m・梁行3.1mを測り、復元床面積は12.72m<sup>2</sup>である。柱穴は径0.36~1.24m・深さ0.14~0.4mを測り、平面円形ないし横円形を呈する。S P 190・S P 192・S P 240では、径0.2~0.3mを測る柱の痕跡が確認できた。

**S B 3**：調査区中央部に位置し、2間×1間の規模を持つ平面長方形の南北方向の建物である。桁行3.3~3.5m・梁行2.45mを測り、復元床面積は8.09m<sup>2</sup>である。柱穴は径0.36~0.66m・深さ0.13~0.28mを測り、平面円形を呈する。

**S B 4**：調査区東部に位置し、2間×1間以上の規模を持つが、西側の一部は調査区域外に至る。桁行4.25m・梁行2.3m以上を測る。柱穴は径0.26~0.64m・深さ0.08~0.3mを測り、平面横円形を呈する。なお、S P 151には24×18×14cmを測る凝灰岩質砂岩の根石を据えている。

**S B 5**：調査区北東部に位置し、3間×2間の規模を持つ平面長方形の東西方向の建物である。桁行6.22m・梁行3.9mを測り、復元床面積は24.26m<sup>2</sup>である。柱穴は径0.46~0.9m・深さ0.2~0.45mを測り、平面円形ないし隅丸方形を呈する。なお、S P 135には、径8cm・長さ48cmを測る柱根が残存している。

**S B 6**：調査区北部に位置し、2間×2間の規模を持つ純柱建物である。桁行3.8m・梁行

3.35mを測り、復元床面積は12.73m<sup>2</sup>である。柱穴は径0.38~1.3m・深さ0.24~0.52mを測り、平面円形ないし隅丸方形を呈する。なお、S P62・S P64・S P74では、径0.2~0.4mを測る柱の痕跡が確認できた。

**S B 7**：調査区中央部S B 3の北側に位置し、2間×1間の規模を持つ平面長方形の南北方向の建物である。桁行3.8m・梁行3mを測り、復元床面積は14.4m<sup>2</sup>である。柱穴は径0.36~0.96m・深さ0.25~0.42mを測り、平面円形・楕円形・隅丸方形を呈する。なお、S P112・S P119・S P127・S P177では、径0.1~0.4mを測る柱の痕跡が確認できた。

**S B 8**：調査区北部に位置し、2間×2間以上の規模を持つが、北側の一部は調査区外に至る。柱穴は径0.26~1.08m・深さ0.18~0.42mを測り、平面楕円形を呈する。なお、S P48・S P50では、径0.15~0.3mを測る柱の痕跡が確認できた。

まとめ：建物の規模は、2間×2間のものが多く、S B 5の3間×2間が最大で、S B 3の2間×1間のものが最小であった。

建物の方向は、磁北を基準にすると、S B 1・S B 3・S B 4・S B 5・S B 6・S B 7は北から17°~30°東を指し、さほど大きな差異は認められないが、S B 2のみ北より30°西を指し、他の建物とは異なっている。

柱穴の掘形は、平面円形ないし楕円形を呈するものがほとんどで、わずかに隅丸方形のものもある。規模には、径0.9~1.3mを測る大型のものもあるが、大半は径0.26~0.64mを測るこれらの一帯の堆積土内からは、わずかに6世紀代に比定できる須恵器片が出土している。

柱の配列からみると、S B 2・S B 6は2間×2間の規模を持つ総柱の建物であることから、高床の建物であったと考えられる。

6世紀代の掘立柱建物を主体とする集落は、付近では友井東遺跡等で検出されているが、今回の調査のように比較的まとまって検出された例は始めてである。これらは今後、中河内の古代社会を復元するうえで基礎的な資料となり得るものであろう。

#### 【注 記】

注1 『八尾南遺跡—大阪電気軌道2号線建設に伴う発掘調査報告書』八尾南遺跡調査会1981

注2 『友井東遺跡現地説明会資料』鶴大阪文化財センター1981

(注2)

表1 方形周溝墓一覧表

遺構名	墳		丘		周		溝		(m)		平面形	出土遺物	備考
	規模(m)	方	向	東溝(幅深さ)	西	溝	南	溝	北	溝			
S X 1	15×15	N	-29°-E	未確認	5	0.45	2.8	0.45	2.1	0.34	方形	V様式 庄内～布留	周溝の南北コーナーが幅11mと広くつきである。
S X 2	12.5×12.5	N	-25°-E	3.4	0.4	不明	未確認	4	0.3	n	V様式 庄内～布留	周溝の南北コーナー部の幅が狭く、浅い。	
S X 3	13.5×12	N	-12°-E	3.7	0.4	2	0.4	2.5	0.4	n	V様式 庄内～布留	周溝の南北コーナー部の幅が狭く、浅い。	
S X 4	10 ×11.7	N	-23°-E	2.5	0.48	1.8	0.68	1.2	0.4	1.7	0.61	n	周溝の南北コーナー部の幅が狭い(後述部に記載)。

表2 遺物一覧表

遺構名	種類		柱		間		横面		柱		穴	深さ(cm)	備考		
	方向	物	柱間数	W/E×N/S	W	E	N	S	横面	柱面					
S B 1	東西	N-26-E	2×1	3.65×3	北側 1.8	1.75	3	10.65	円形	50~90	14~32	6 C			
S B 2	南北	N-30°-W	2×2	3.1×4.1	南側 2	1.5	1.6	2	2.1	円形	36~124	14~40	6 C	倉庫	
S B 3	南北	N-37°-E	1×2	2.45×3.3	2.45	東側 1.6	1.95	西側 1.9	1.4	8.09	円形	36~66	13~28	6 C	礫石(24×18×14)
S B 4	南北	N-17°-E	1×2	2.3×4.25	2.3	2.25	2	9.68	柱形	26~64	8~30	柱體(48×8)			
S B 5	東西	N-20°-E	3×2	6.22×3.9	2.23	1.95	2	1.9	24.26	円形	46~90	20~45	6 C	倉庫	
S B 6	南北	N-27°-E	2×2	3.8×3.35	1.9	1.9	1.6	1.75	円形	12.73	38~130	24~32	6 C		
S B 7	南北	N-29°-E	1×2	3×3.8	1.7	2.1	1.55	1.8	隅丸形	2.6	2.2	14.40	36~96	25~42	6 C
S B 8	南北	N-27°-E	2×2	4.9×4.2	2.55	2.35	2	20.58	椿円形	25~108	18~40	6 C			

表3 土壙(SK)一覧表

造構名	平面形	規 模cm	断面形	深さ cm	出土遺物	備 考
		長径×短径				
SK1	不定形	630×120	逆台形	34	PL28	V様式
SK2	"	270×180	"	38	—	
SK3	"	100×95	"	20	PL28	
SK4	"	200×60	"	8	PL28	
SK5	"	150×57	U字形	44	PL28	
SK6	"	164×90	皿状形	32	—	
SK7	橢円形	86×78	逆台形	23	PL28	庄内式
SK8	不定形	570×160	"	22	PL28	
SK9	"	340×70	皿状形	7	—	
SK10	"	183×44	逆台形	10	—	
SK11	"	168×40	"	17	—	
SK12	"	310×72	"	12	—	
SK13	"	670×100	皿状形	16	PL29	古墳時代後期
SK14	"	106×100 以上	逆台形	30	—	
SK15	"	680×214	皿状形	48	PL29~30	
SK16	"	368×134	逆台形	46	PL30	V様式
SK17	"	600×380	皿状形	10	PL30	V様式
SK18	隅丸方形	106×105	逆台形	47	—	
SK19	"	170×160	"	48	—	
SK20	不定形	292×138	"	21	—	

表3 土壙(SK)一覧表

遺構名	平面形	規 模cm	断面形	深さcm	出土遺物	備 考
		長径×短径				
SK21	不 定 形	174×64	逆台形	18	—	
SK22	隅丸長方形	146×60	"	19	—	
SK23	不 定 形	118×82	"	32	PL30	古墳時代後期
SK24	長 横 円 形	182×126 以上	"	28	PL30~31	
SK25	横 円 形	134×105	"	58 以上	—	中世
SK26	不 定 形	160×80	"	50	—	
SK27	横 円 形	278×120	"	38	PL31~32	
SK28	"	300×180	"	44	PL33	庄内式古相
SK29	不 定 形	278×120	"	16	—	
SK30	"	128×110	"	14	—	
SK31	隅丸方 形	310×230	皿状形	68	—	
SK32	横 円 形	148×124	逆台形	62	—	庄内式~布留式

表4 土器溜(SW)・井戸(SE)一覧表

遺構名	平面形	規 模cm	断面形	深さcm	出土遺物	備 考
		長径×短径				
SW1	長 横 円 形	280×100	—	0	PL22~24	庄内式古相
SW2	不 定 形	420×140	逆台形	10	PL24~25	V様式
SW3	長 横 円 形	500×100	皿状形	20	PL25~27	V様式
SE1	横 円 形	350×320	皿状形	110	PL27	庄内式
SE2	円 形	274×244	長 形	200 以上	瓦	近世
SE3		250	"	200 以上	—	近世

表5 SP-観表①

遺構名	平面形	規模cm 長径×短径	深さ cm	柱 径cm	柱根 残存	出土遺物	備考
SP 1	楕円形	48×37	20				
SP 2	円形	34×32	22				
SP 3	"	54×50	33				
SP 4	"	56	30				
SP 5	楕円形	60×52	16				
SP 6	円形	35×24	37				
SP 7	楕円形	50×43	11			須恵器(环身)	古墳時代後期
SP 8	"	38×30	20				
SP 9	不定形	96×52	17				
SP 10	楕円形	80×58	39	22			
SP 11	円形	28	20				
SP 12	"	100×96	24	22×16			
SP 13	"	64	10				
SP 14	"	64×60	25	22			
SP 15	楕円形	60×53	15				
SP 16	"	54×32	15				
SP 17	"	36×28	14				
SP 18	円形	62×60	12				
SP 19	楕円形	64×56	21				
SP 20	"	80以上×82	25				
SP 21	"	76×68	33				
SP 22	"	46×42	49				
SP 23	円形	64×60	20				
SP 24	隅丸方形	50×48	12				
SP 25	円形	46×44	34				
SP 26	"	60×56	30				
SP 27	"	44	15				
SP 28	楕円形	63×52	27				
SP 29	円形	64×60	28	38×24			
SP 30	隅丸方形	52×35	15		有	須恵器(高环)	柱根23.5×6.5古墳時代後期
SP 31	円形	59×58	29	16×14		V様式(腰・手筋り)	弥生後期
SP 32	"	48	22		須恵器(縦)		古墳時代後期
SP 33	楕円形	45×35	20				SX 4を切る
SP 34	PJ形	36×33	19				
SP 35	楕円形	31×21	15				
SP 36	PJ形	60×58	39		有		
SP 37	隅丸方形	38×38	26				
SP 38	楕円形	62×42	41				
SP 39	円形	52	38				
SP 40	楕円形	61×50	30	31×26			

表5 SP-1類表②

遺構名	平面形	規 模cm 長径×短径	深さ cm	柱 坑 径cm	柱根 残存	出 土 遺 物	備 考
SP 41	隅丸方形	85×75	48	13		V様式(甕)	弥生時代後期
SP 42	円 形	70	32			須恵器(环身)	古墳時代後期
SP 43	楕 円 形	58×40	36	20×16			
SP 44	"	40×28	16				
SP 45	円 形	48	18	14			
SP 46	楕 円 形	50×38	15				
SP 47	"	51×42	37	24		須恵器	古墳時代後期
SP 48	隅丸方形	55×44	35	32×24			
SP 49	円 形	26×24	16				
SP 50	楕 円 形	44×34	27	12			
SP 51	円 形	100	40				
SP 52	隅丸方形	43×37	21				
SP 53	楕 円 形	108×88	43				
SP 54	円 形	60×58	22				
SP 55	隅丸方形	50×43	20				
SP 56	楕 円 形	54×46	15				
SP 57	"	118×60	26			須恵器(甕)	古墳時代後期
SP 58	円 形	72	40	37×30			
SP 59	楕 円 形	76×67	51				
SP 60	長楕円形	91×52	20				
SP 61	円 形	1130×120	24			須恵器(环身)	古墳時代後期
SP 62	楕 円 形	72×60	33	48×38		庄内甕	庄内式
SP 63	円 形	40×37	23				
SP 64	卵 形	66×54	32				
SP 65	円 形	62	19				
SP 66	楕 円 形	69×57	36				
SP 67	隅丸方形	45×36	36				
SP 68	"	74×58	50				
SP 69	卵 形	72×50	9			V様式(甕)	弥生時代後期
SP 70	楕 円 形	68×52	37				
SP 71	"	60×53	15				
SP 72	"	42×25	19	有		柱根36×12.5cm	
SP 73	"	48×28	11				
SP 74	万 形	54×44	35	24×18			
SP 75	楕 円 形	52×46	7				
SP 76	隅丸方形	60×57	37			P L 34~5	弥生時代後期
SP 77	円 形	50×48	29				
SP 78	楕 円 形	60×46	15				
SP 79	"	50×45	19				
SP 80	"	37×32	9				

表5 SP一覧表(3)

遺構名	平面形	規模cm 長径×短径	深さ cm	柱 径cm	柱根 残存	出土遺物	備考
SP 81	楕円形	58×52	15				
SP 82	円形	52×48	19			須恵器(环身)	古墳時代後期
SP 83	楕円形	66×44	15				
SP 84	"	86×82	37				
SP 85	"	58×48	51			庄内甕	
SP 86	隅丸円形	64×32以上	26			須恵器(壺)	古墳時代後期
SP 87	円形	70×28以上	20				
SP 88	楕円形	44×42	22				
SP 89	"	42×36	16				
SP 90	卵形	100×78	31			P L34-7・8	弥生時代後期
SP 91	円形	45×44	14				
SP 92	"	44×40	18			P L34-9	古墳時代後期
SP 93	楕円形	78×68	24				
SP 94	"	76×63	47			須恵器(甕)	古墳時代後期
SP 95	円形	114×110	25				
SP 96	不定形	106×100	25				
SP 97	円形	54×52	15				
SP 98	楕円形	44×42	20				
SP 99	円形	72×70	32				
SP 100	"	50×48	31				
SP 101	"	62×60	21				
SP 102	楕円形	36×30	13				
SP 103	"	39×30	13				
SP 104	"	36×30	15				
SP 105	"	40×36	14				
SP 106	"	32×26	18				
SP 107	"	34×22	15				
SP 108	"	72×67	31	42			
SP 109	円形	56×52	23				
SP 110	楕円形	64×58	28	40×32			
SP 111	円形	74	31	42×40		須恵器(环フタ)	古墳時代後期
SP 112	楕円形	68×62	39	44×36			
SP 113	"	74×66	30	38×25			
SP 114	"	84×77	34	52×48			
SP 115	"	96×74	29				
SP 116	"	66×60	24				
SP 117	"	67×46以上	16				
SP 118	"	80×64	46	10	有		
SP 119	"	63×47	29	20		P L34-10	古墳時代後期
SP 120	隅丸方形	47×46	24			須恵器	古墳時代後期

表5 SP一覧表④

遺構名	平面形	規 模cm 長径×短径	深さ cm	柱 痕 径cm	柱根 径cm:残存	出土 遺物	備 考
SP 121	格 円 形	76×70	39				
SP 122	"	53×46	24	28×23			
SP 123	"	98×71	26	60×48			
SP 124	円 形	43×34以上	18				
SP 125	"	80×78	26				
SP 126	隅丸方形	72×67	44	48×46			
SP 127	長 方 形	72×35	32	40×32			
SP 128	不 定 形	102×48	40			須恵器(甕)	古墳時代後期
SP 129	卯 形	98×72	22				
SP 130	円 形	38	15				
SP 131	格 円 形	44×42	18				
SP 132	隅丸方形	52×52	20				
SP 133	格 円 形	36×29	15				
SP 134	隅丸方形	40×37	17				
SP 135	"	70×61	45		有		長さ46径7
SP 136	卯 形	80×71	33	57×44			
SP 137	円 形	54	34				
SP 138	隅丸方形	54×45	21				
SP 139	格 円 形	60×54	31				
SP 140	隅丸方形	80×30以上	42			PL 34-11~18	弥生時代後期
SP 141	格 円 形	31×27	19				
SP 142	"	73×60	41			PL 34-19	
SP 143	円 形	60	26			PL 34-20	
SP 144	"	42×40	22				
SP 145	"	44×42	30				
SP 146	"	44×43	15				
SP 147	隅丸方形	82×68	14			須恵器(甕)	古墳時代後期
SP 148	"	30×24	25				
SP 149	格 円 形	63×46	29	42×41			
SP 150	隅丸方形	45×39	20				
SP 151	"	46×46	14				礎石(21×18×15)
SP 152	"	62×61	28	60×42			
SP 153	"	45×35	12				
SP 154	"	26×24	19	14×13			
SP 155	格 円 形	57×48	14				
SP 156	"	72×66	26				
SP 157	長格円形	74×42	18				
SP 158	円 形	52×48	16				
SP 159	不 定 形	96×86	24				
SP 160	円 形	29×28	17				

表5 SP…覽表⑤

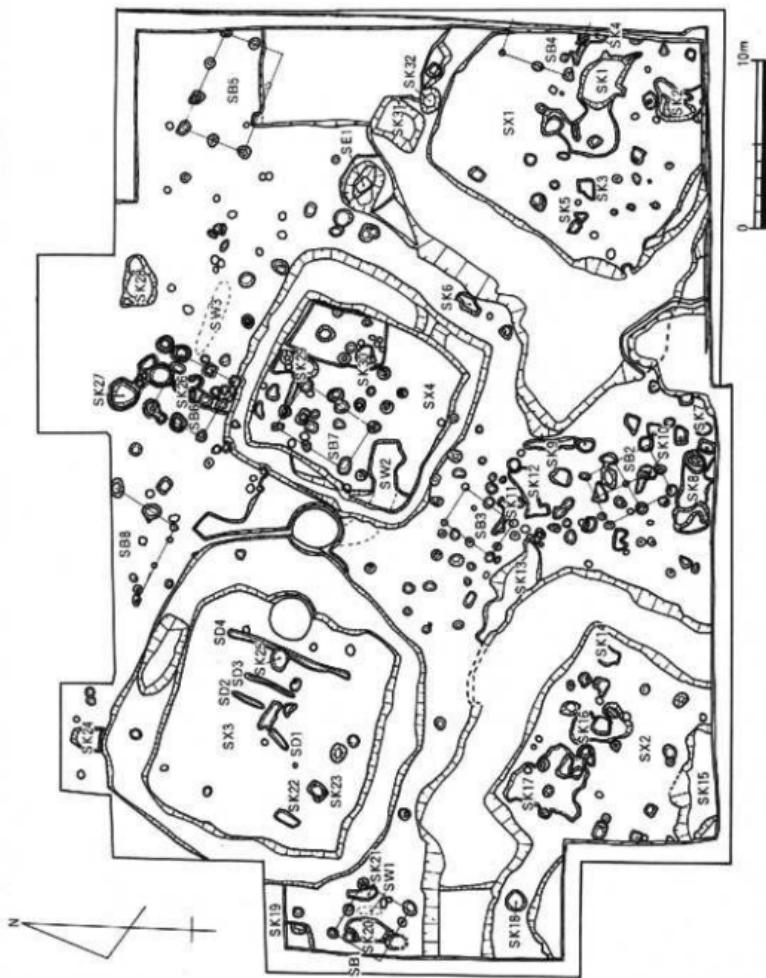
造構名	平面形	規 模cm 長径×短径	深さ cm	柱 痕 柱根 径cm	柱根 残存	出 土 遺 物	備 考
SP 161	楕円形	58×46	24	20×17		須恵器(壺)	古墳時代後期
SP 162	不定形	64×34	14			P L34-22	弥生時代後期
SP 163	楕円形	22×20	19				
SP 164	不定形	100×76	26			須恵器(壺坏)	須恵器片
SP 165	隅丸方形	36×36	17			コシキ	古墳時代後期
SP 166	"	42×36	27	13			
SP 167	"	36×35	20				
SP 168	"	80×78	35	42×18			
SP 169	楕円形	36×30	17				
SP 170	円 形	80×30以上	22				
SP 171	不定形	71×48	15				
SP 172	楕円形	62×61	19				
SP 173	"	46×39	40	29×20			
SP 174	隅丸方形	48×30	37				
SP 175	楕円形	44×32	30				
SP 176	"	53×49	19	32×30			
SP 177	円 形	44×42	56	23×19			
SP 178	隅丸方形	60×50以上	23			P L34-24	弥生時代後期
SP 179	円 形	31×30	19				
SP 180	隅丸方形	70×67	41	27×20		P L34-25	古墳時代後期
SP 181	円 形	38	19				
SP 182	"	52×51	17				
SP 183	楕円形	43×40	21				
SP 184	不定形	100×70	20				
SP 185	隅丸方形	87×65	43				
SP 186	楕円形	54×50	25				
SP 187	隅丸方形	100×80	30	26×22			
SP 188	"	64×54	37	16			
SP 189	"	85×52以上	25				
SP 190	"	90×84	37	31×20		須恵器(环身)	古墳時代後期
SP 191	楕円形	62×59	25				
SP 192	"	66×58	30	30×22			
SP 193	円 形	59×58	24	38×22			
SP 194	"	68×65	21				
SP 195	"	33×32	11				
SP 196	楕円形	60×41	15				
SP 197	"	76×52	24				
SP 198	円 形	50×48	21				
SP 199	楕円形	51×40	17			須恵器(壺)	古墳時代後期
SP 200	円 形	50	18				

表5 SP一覧表⑥

遺構名	平面形	規 模 cm 長径×短径	深さ cm	柱 軸 径 cm	柱根 残存	出土 遺物	備 考
SP 201	格 円 形	33×24	20				
SP 202	円 形	43×40	24			須恵器(甕)	古墳時代後期
SP 203	卵 形	64×50	35	21×16			
SP 204	格 円 形	40×36	23	26×20		須恵器(甕)	古墳時代後期
SP 205	長 棚 円 形	110×57	18				
SP 206	"	140×82	24				
SP 207	不 定 形	126×64	16				
SP 208	円 形	53×47	17				弥生時代後期
SP 209	"	52×47	13				
SP 210	"	97×90	15				SP211に切られる
SP 211	格 円 形	46×38	23	20			SP210を切る
SP 212	"	85×58	28			P L 34-26・27	弥生時代後期
SP 213	"	44×38	19				
SP 214	円 形	50×48	25	36×20			
SP 215	"	47×46	25				
SP 216	格 円 形	64×44	16			須恵器	古墳時代後期
SP 217	"	52×40	26				
SP 218	"	74×54	20			P L 34-28	
SP 219	"	62×44	11			須恵器(环身・高环)	古墳時代後期
SP 220	"	126×94	20				
SP 221	"	114×88	26	20×16			
SP 222	円 形	38×37	26				
SP 223	"	74	21			上漆器	古墳時代後期
SP 224	"	25	6				
SP 225	不 定 形	83×55	23	18			
SP 226	格 円 形	37×29	14				
SP 227	"	48×42	11	20×18			
SP 228	不 定 形	57×50	20				
SP 229	格 円 形	46×41	28				
SP 230	隅 丸 方 形	44×32	12				
SP 231	円 形	51×48	16				
SP 232	格 円 形	44×38	31				
SP 233	円 形	75	30				
SP 234	格 円 形	74×45	30				
SP 235	隅 丸 方 形	64×48	21				
SP 236	格 円 形	68×55	25	33×22			
SP 237	"	50×42	29				
SP 238	隅 丸 方 形	65×60	20				
SP 239	格 円 形	64×60	18				
SP 240	円 形	30×28	10				

表5 SP一覧表⑦

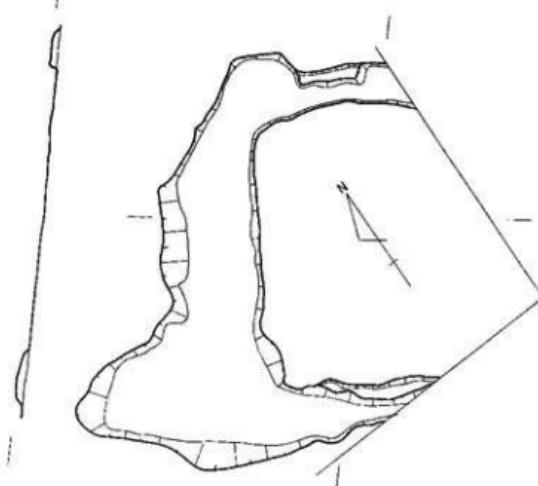
遺構名	平面形	規格cm 長径×短径	深さ cm	柱 径cm	柱根 径cm・残存	出土遺物	備考
SP 241	円 形	46×35	14				
SP 242	楕円形	48×36	15				
SP 243	"	59×48	24				
SP 244	"	50×44	25				
SP 245	"	69×54	10				
SP 246	円 形	38×36	10				
SP 247	"	45×42	11				
SP 248	椭円形	60×55	15	32×28			
SP 249	"	85×68	20				
SP 250	円 形	46×45	30				
SP 251	楕円形	43×32	5				
SP 252	"	44×36	14				
SP 253	隅丸長方形	92×50	30				
SP 254	楕円形	72×52	12				
SP 255	円 形	22×20	12				
SP 256	"	44×40	15				
SP 257	楕円形	64×48	28				
SP 258	"	74×70	18				
SP 259	不定形	54×52	30				
SP 260	隅丸方形	68×67	38	30×18			
SP 261	不定形	90×65	25	60×30	PL 34-30	弥生時代後期	
SP 262	椭円形	41×36	14				
SP 263	不定形	98×83	50		PL 34-29	古墳時代後期	
SP 264	椭円形	36×31	12				
SP 265	円 形	26×24	10				
SP 266	不定形	70×60	25				
SP 267	円 形	50×46	36				
SP 268	椭円形	56×50	19	38×18	須恵器(环身)	古墳時代後期	
SP 269	"	92×64	35				
SP 270	隅丸長方形	43×27	30				
SP 271	椭円形	82×72	16				
SP 272	円 形	48×46	14				
SP 273	卵 形	42×37	9				
SP 274	椭円形	60×50	16				
SP 275	隅丸長方形	102×59	44		須恵器(環)	古墳時代後期	
SP 276	隅丸方形	64×62	46	20			
SP 277	円 形	38×37	10				
SP 278	隅丸方形	73×60	48	有	須恵器(环身)	柱根24×12 古墳時代後期	
SP 279	不定形	50×35以上	18		須恵器(环身)	古墳時代後期	



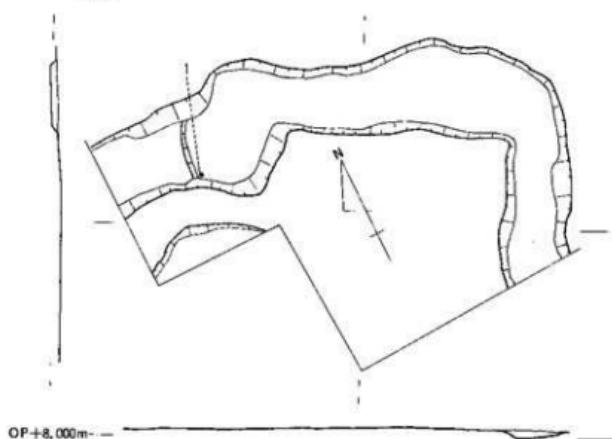
遺構全体図

SX1

PL. 2



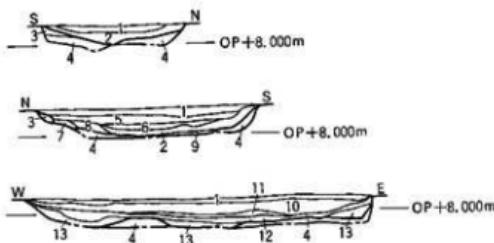
SX2



0 10m

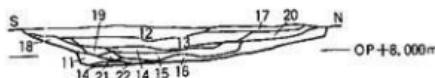
SX1・SX2 造構平面・断面図

SX1



- |             |              |                          |
|-------------|--------------|--------------------------|
| 1 黒基褐色シルト粘土 | 6 暗灰色シルト粘土   | 11 暗灰綠色シルトと黒灰色シルト粘土のブロック |
| 2 黒灰色粘土     | 7 暗灰色シルト     | 12 黒灰色シルト粘土              |
| 3 暗灰色シルト    | 8 暗灰色シルト     | 13 暗灰綠色まじり粘土             |
| 4 暗青色シルト    | 9 黒灰色粗砂まじり粘土 |                          |
| 5 暗灰色シルト粘土  | 10 暗灰綠色シルト   |                          |

SX2



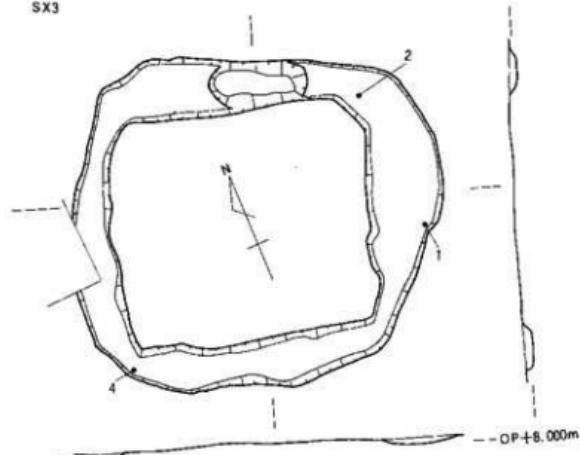
- |           |                   |                    |
|-----------|-------------------|--------------------|
| 1 暗青色粗砂土  | 9 暗灰綠色砂質土         | 17 暗黃色シルト(粗砂を含む)   |
| 2 黑灰褐色粗砂土 | 10 淡灰黃色粗砂土        | 18 暗青色シルト          |
| 3 淡灰黃色粗砂土 | 11 淡黃灰褐色粗砂土       | 19 暗色シルト           |
| 4 淡灰褐色粗砂土 | 12 暗黃色シルト(粗砂を含む)  | 20 暗灰青色と灰色シルトのブロック |
| 5 暗灰褐色粗砂土 | 13 暗灰褐色シルト(粗砂を含む) | 21 淡灰青色シルト         |
| 6 灰色粗砂土   | 14 暗灰褐色粘土         | 22 暗青色粗砂まじりシルト     |
| 7 暗灰褐色粗砂土 | 15 暗灰青色シルト        | 23 暗黃色粗砂土          |
| 8 暗灰褐色砂粘土 | 16 淡灰黃色シルト        |                    |



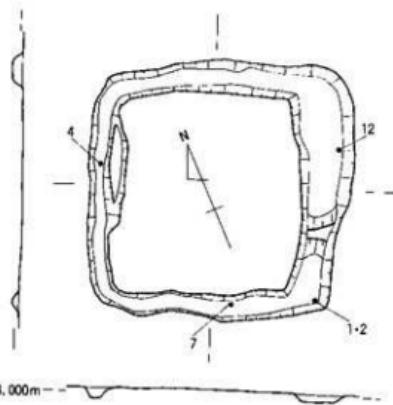
SX1・SX2 土層断面図

PL. 4

SX3



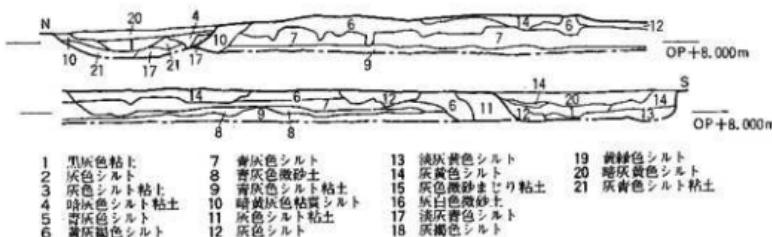
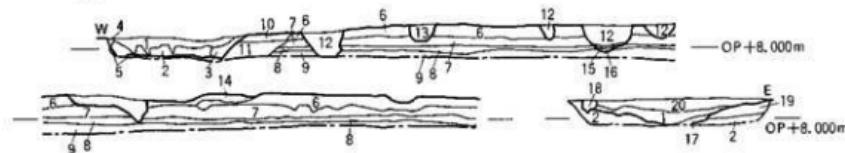
SX4



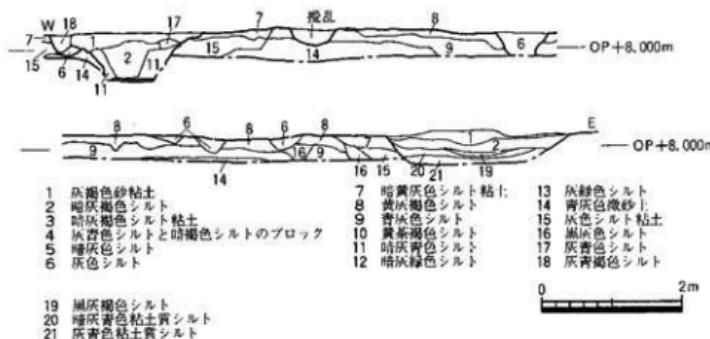
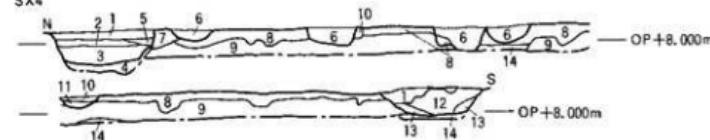
0 10m

SX3・SX4 遺構平面・断面図

SX3

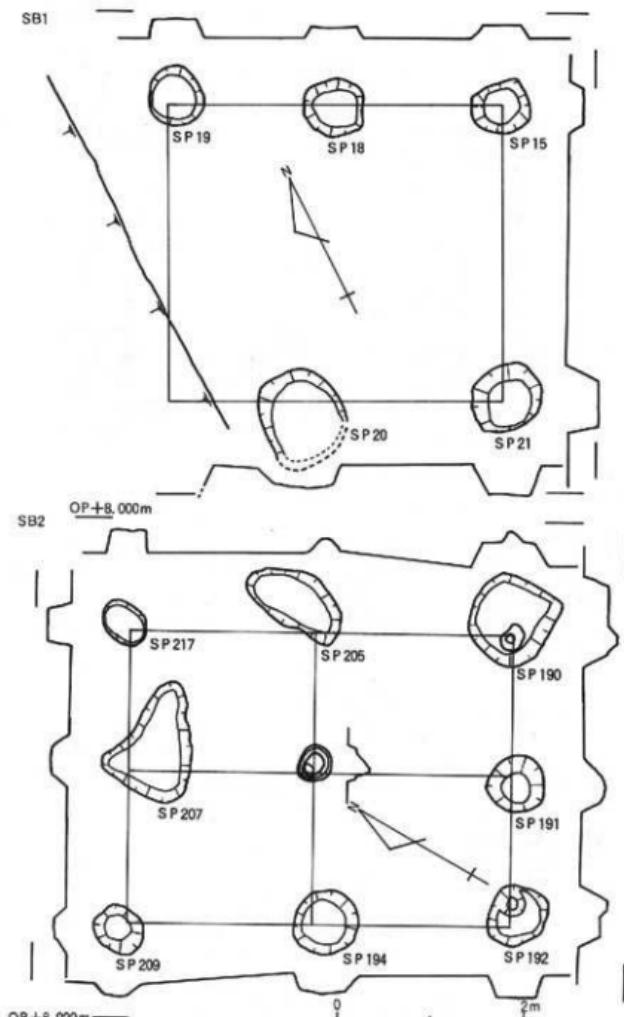


SX4



SX3・SX4 土層断面図

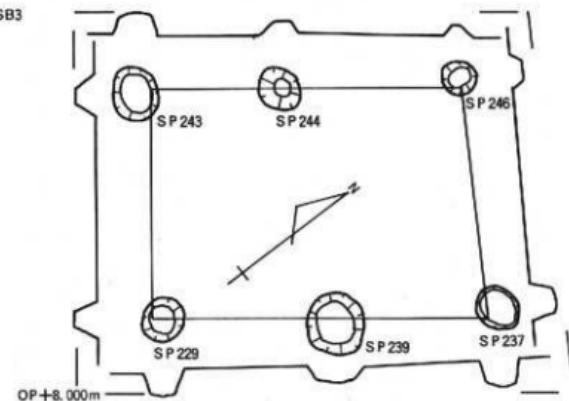
PL. 6



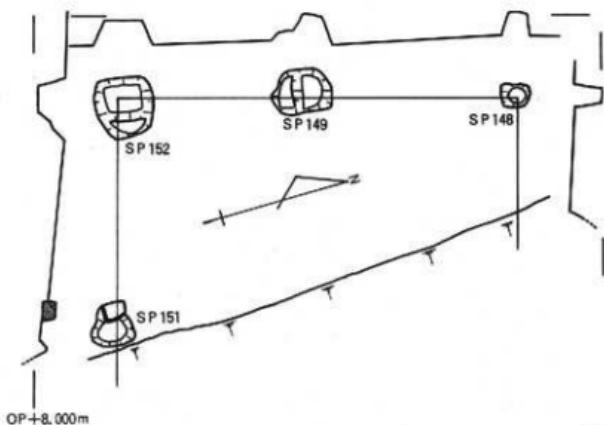
SB 1・SB 2 造構平面・断面図

PL. 7

SB3

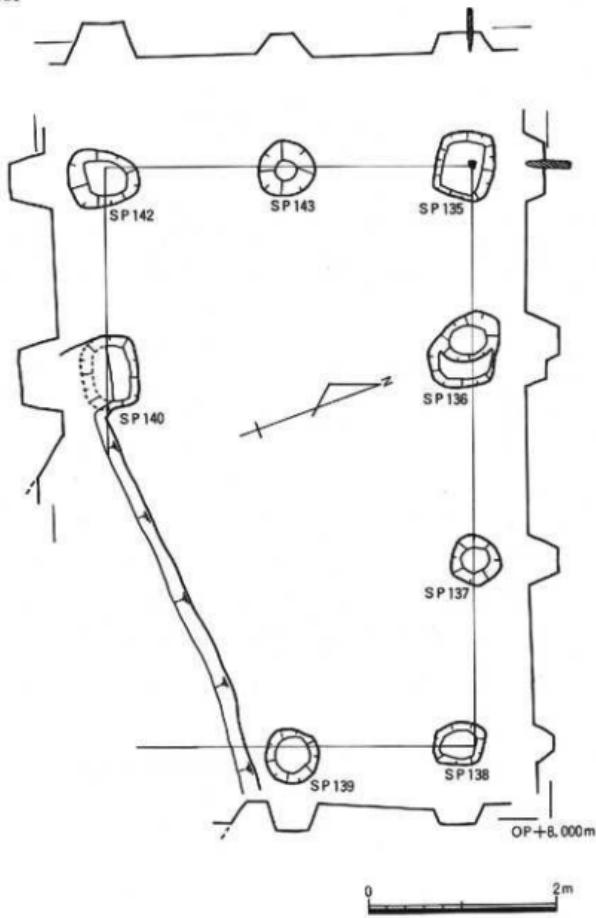


SB4



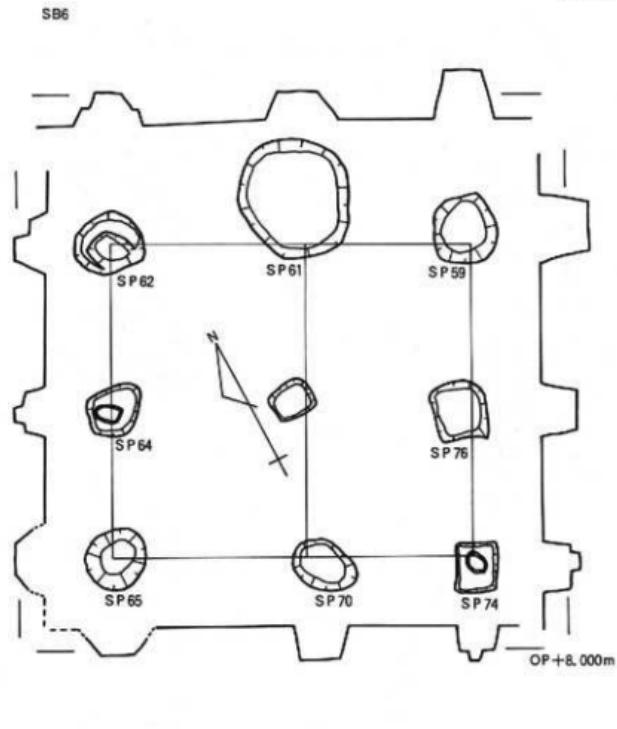
SB 3・SB 4 造構平面・断面図

SB5



SB 5 造構平面・断面図

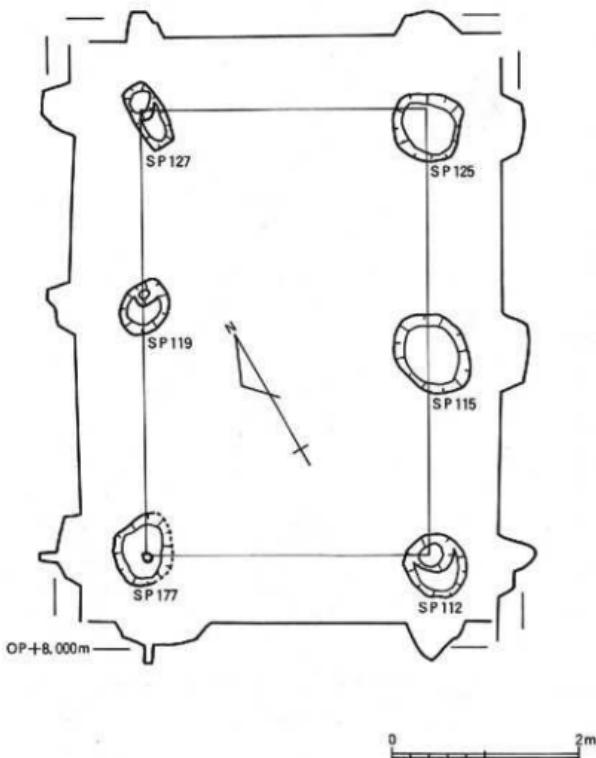
**PL. 9**



SB 6 遺構平面・断面図

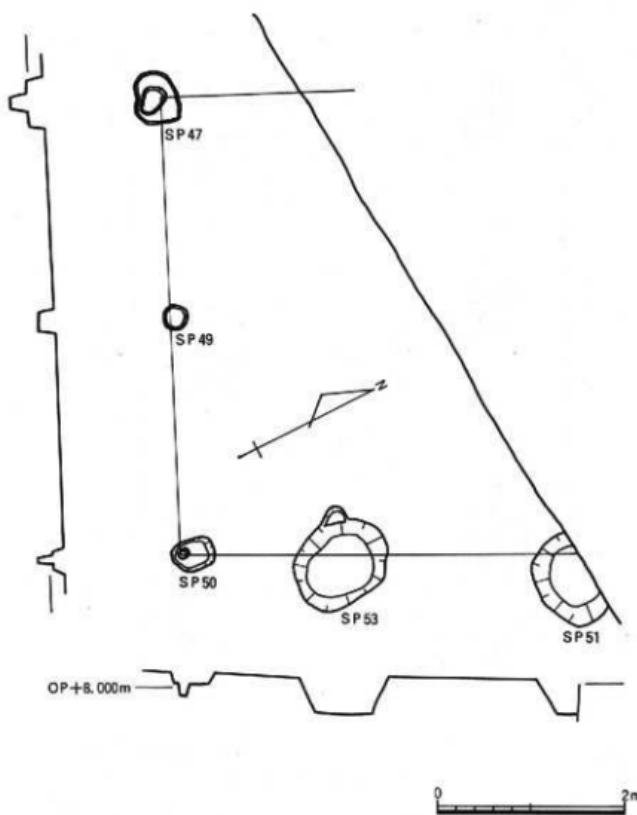
PL. 10

SB7

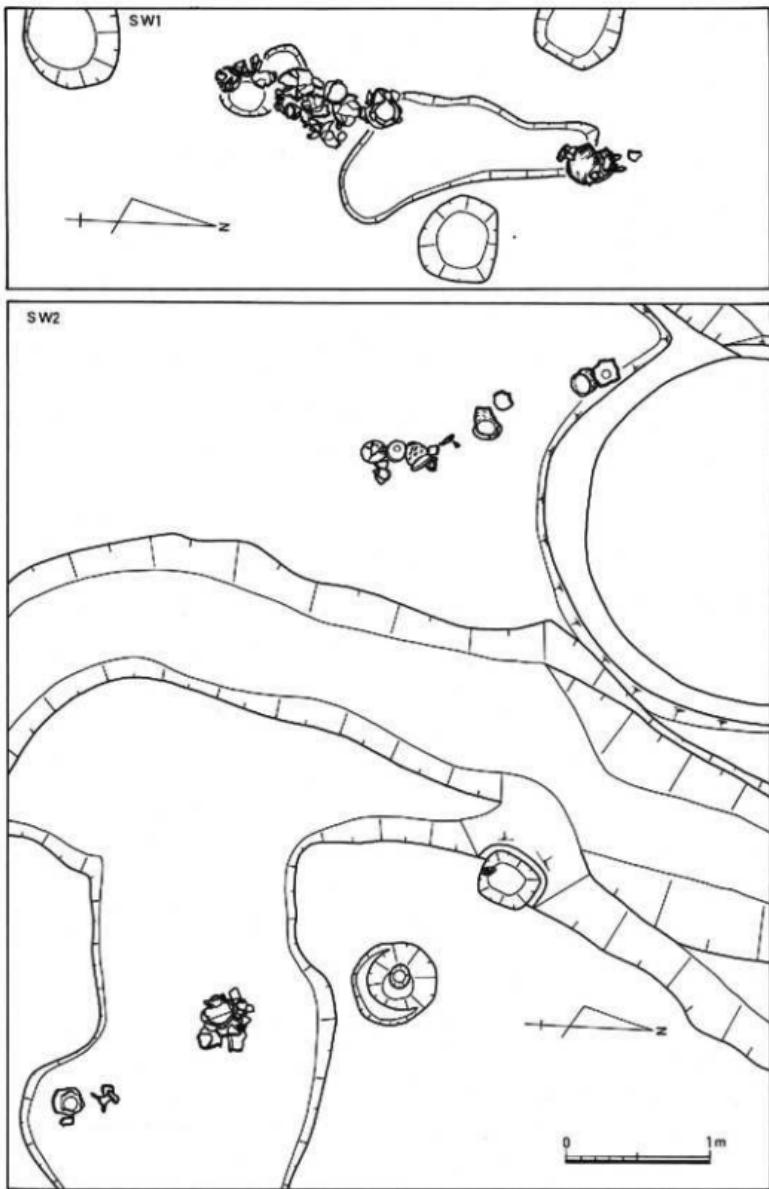


SB7 遺構平面・断面図

SB8

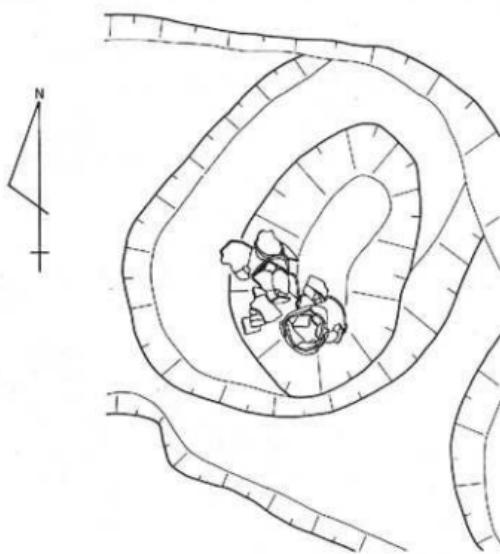


SB8 造構平面・断面図

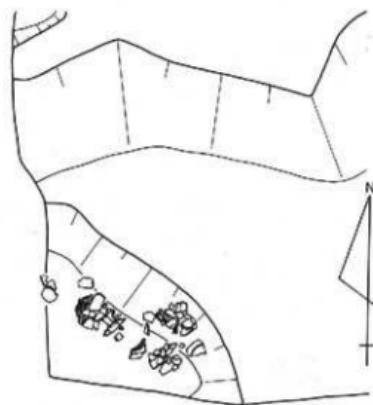


SW 1 · SW 2 遺物出土状況

SK8



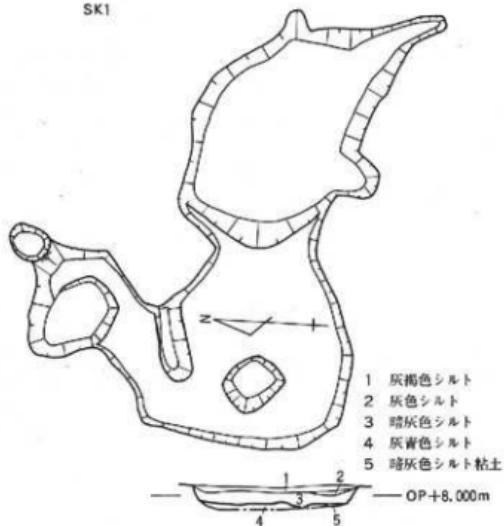
SK15



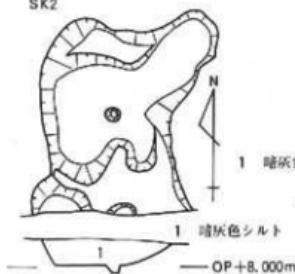
0 1m

SK8・SK15 遺物出土状況

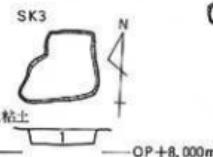
SK1



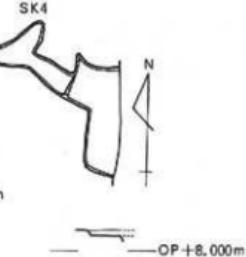
SK2



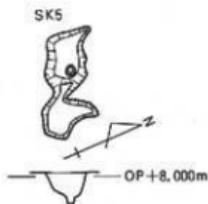
SK3



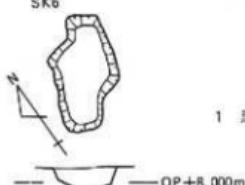
SK4



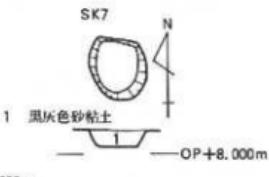
SK5



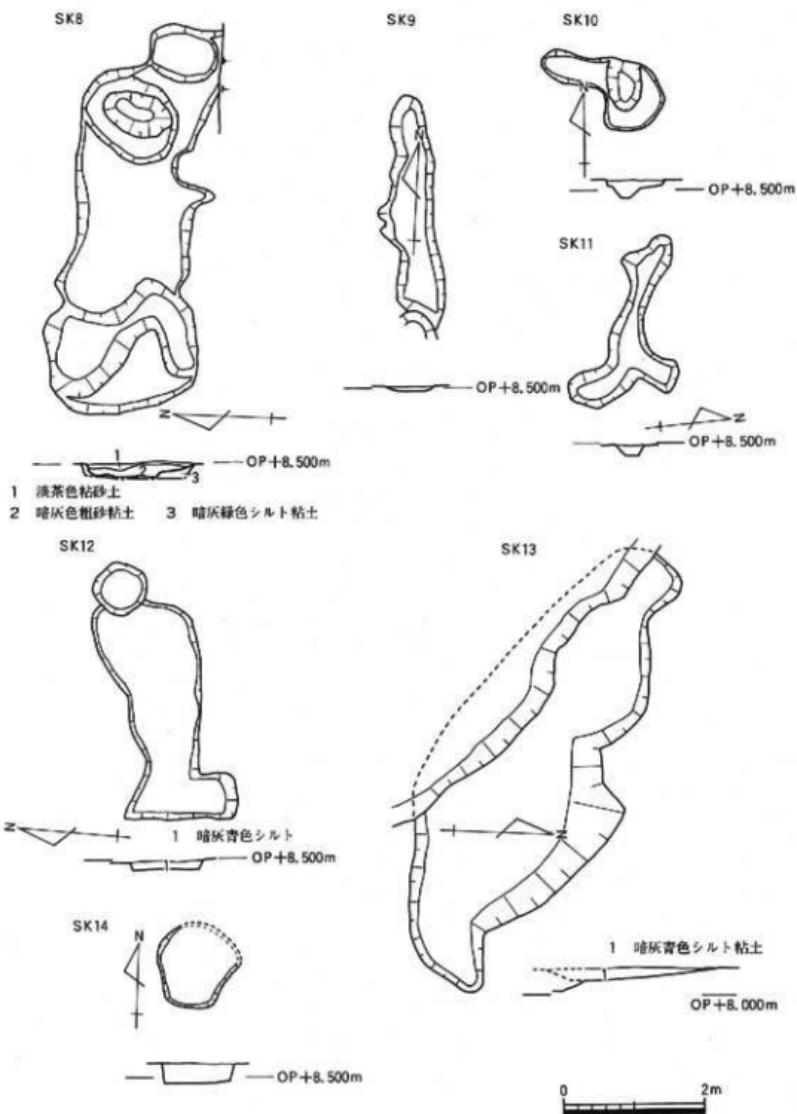
SK6

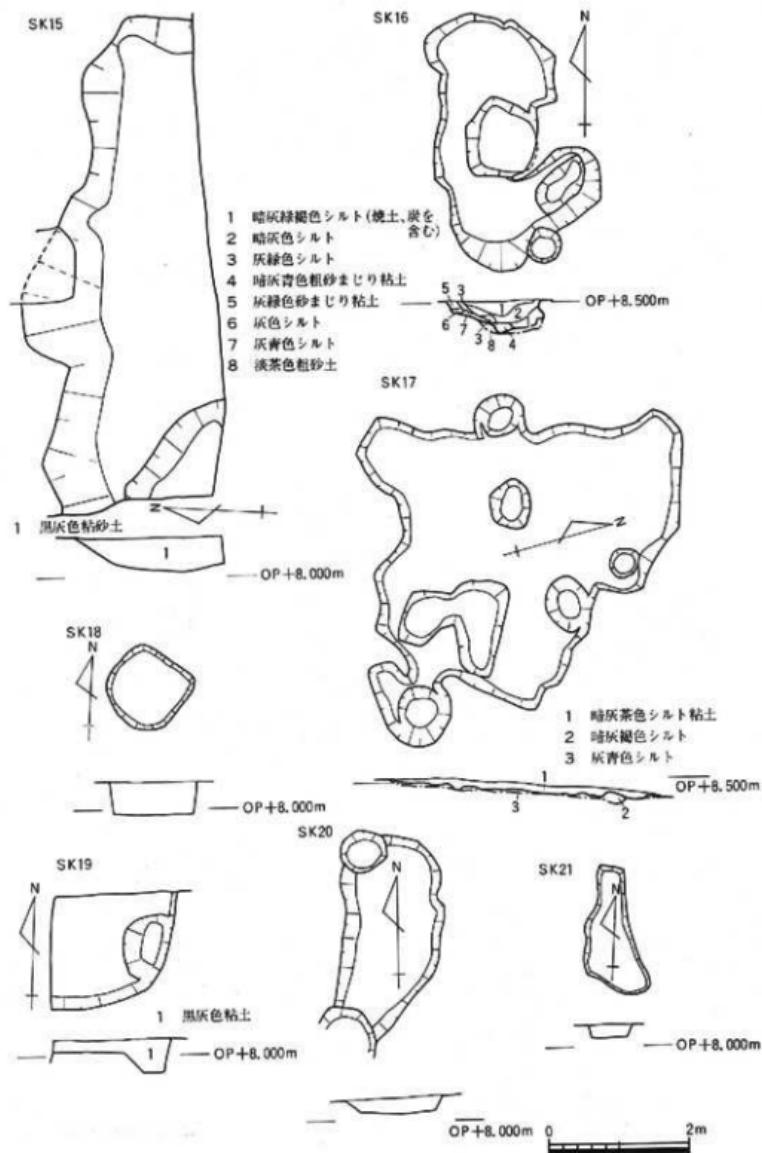


SK7

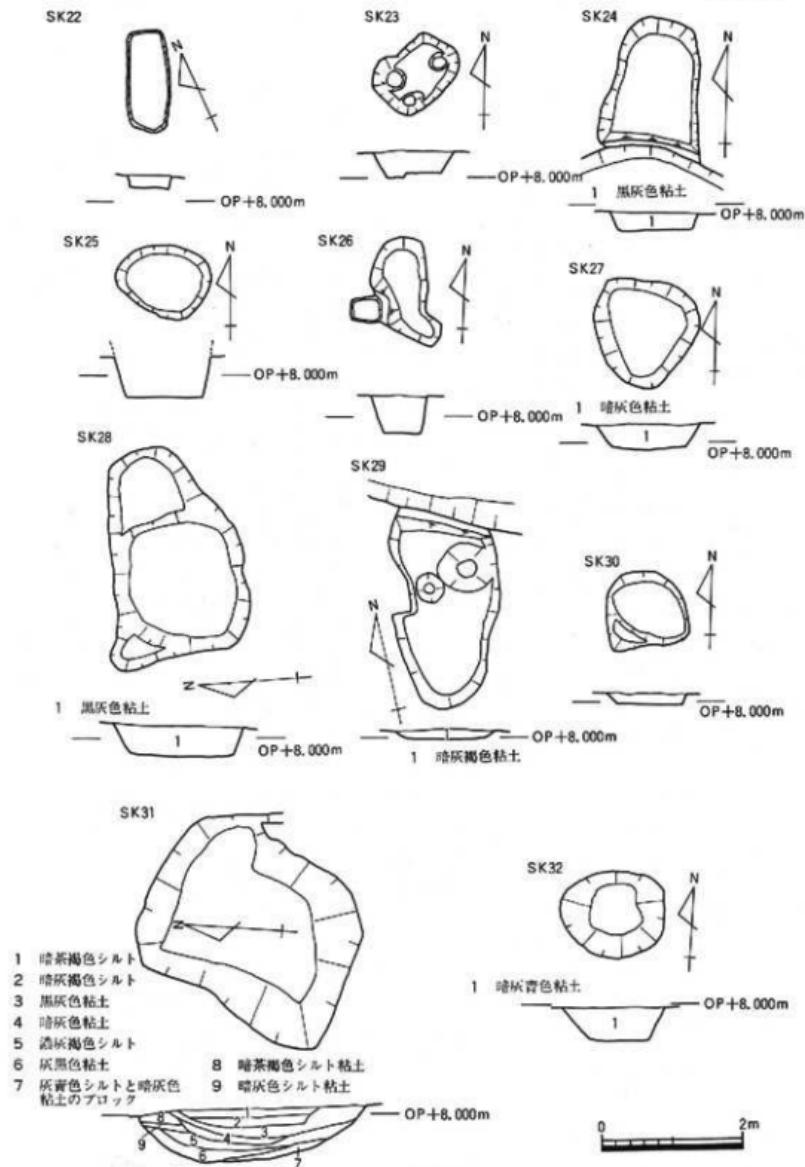


SK 1~ 7 造構平面・断面図





SK15~21 造構平面・断面図



### S K22-32 遺構平面・断面図

## 第2節 遺物について

### 1. 出土遺物からみた成法寺遺跡

当遺跡より出土した遺物は土器がほとんどで、時代的には弥生時代後期末から古墳時代後期に及ぶものである。これらの土器は注目すべきことに遺構の性格によってその年代が異なっている。土器留め状遺構から出土する遺物は畿内第V様式末から庄内式古相の時期の土器のみである。この時期の遺物は土壙・包含層などからも普遍的に出土している。方形周溝墓からは庄内式新相の土器が供獻された状況で出土しており布留式土器と思われるものも周溝内から破片で出土している。また須恵器が出土するのは柱穴群・土壙・包含層である。このことから当遺跡は、それぞれの時代によって全く異なる用途に利用されていたことが推測できる。したがって土器の出土量には時代によって大きな隔差がみられる。ここでは土器の形態、技法、胎土の分析を通じて、それぞれの土器群の性格を追求する。

### 2. 方形周溝墓出土の土器群

S X 1 出土遺物：器種には鉢・高環・甕がある。鉢(1)は浅い小型のもので、口縁が屈曲して内脇ぎみに開き内外面に細かいヘラミガキがみられる。高環(2)は環底部より彎曲して開く口縁を持つ。内面にヘラミガキ暗文を附す。甕には口縁が内側し端部が肥厚ぎみとなるいわゆる布留式甕(3)と口縁端部をつまみあげる庄内甕(5・7・8)及び外反する口縁を持つ弥生時代畿内第V様式系の甕(以下V様式甕)(6・4)が出土している。しかしいずれも破片であり、この方形周溝墓に明確に伴うものは見当らない。しかし以上の資料より周溝の埋没時期が庄内ー布留式の時期であることは間違いない。

S X 2 出土遺物：器種には壺・手焙り形土器・高環・甕がある。壺には口縁部がまっすぐにのびるもの(1)、外反するもの(2)、外反した後端部が垂下するもの(3)がある。(1)は球形の体部を持ち外面に細かいヨコ方向ヘラミガキがみられる。手焙り形土器(7)は扁球形の体部に小さな平底を持つ。高環(8)は口縁が環底部より屈曲し大きく開く。甕には布留式甕の特徴を持つもの(9)、庄内甕の特徴を持つもの(10・15)、V様式甕(9・14)が出土している。なおこの土器群中には完形品に近い直口壺や手焙り形土器が出土している。これらが遺構に供獻されたものと考えれば、庄内式を遺構の時期として比定できよう。

S X 3 出土遺物：器種には短頸壺と甕がある。甕(1・2)は、いずれも庄内甕で完形品である。外面は、極細の叩きを上半に残し、下半からのハケは口頭部まで及ぶものがある。内面は

顕著にヘラケズリし、ほぼ中位に体部最大径を持つ。短頸壺(4)は丸底球形から直立する口縁部を持つ。外面はハケまたはナデ調整する。これらの土器は方形周溝墓に供獻されたと考えられる状況で出土している。これらは庄内式の新相の特徴を持つものである。

S X 4 出土遺物：(1～4・7)は出土状況よりみて供獻土器であろう。(7・12)も同様遺構に伴う可能性がある。器種は壺と甕である。甕には口縁部が外反するもの(1)とまっすぐのもの(3)があり、小形の直口甕(7)と複合口縁甕(10)は外面にヨコ方向へラミガキがみられる。

甕には庄内甕(2・4)と複合口縁甕(2)がある。庄内甕はS X 3 同様庄内式の新相の特徴を持つ。複合口縁甕は大型のもので、内面へラケズリと外面全体ハケを有するのが特徴である。他の土器はほとんどがV様式末から庄内式古相のもので小破片であることから二次的に遺構内に入り込んだものと解釈できる。

### 3. 土器溜め出土の土器群

S W 1 出土遺物：器種には壺・甕・鉢がある。壺(1～4)はいずれも外反する口縁に球形にふくらむ胴をもつ。外面をハケまたはヘラミガキにより調整する。内面をヘラケズリするもの(2)もある。甕の多くは外面に叩きを密にほどこし内面をヘラケズリするいわゆる庄内甕の特徴を持っているが、口縁部がまっすぐで端部のつまみ上げが顕著ではないこと、胴下半部にも叩きが顕著に残り、ハケ調整が部分的なものにとどまっていることなど、古相の庄内甕の特徴がみられる。また弥生時代第V様式の特徴を持つ甕(5・7・8)もみられる。この甕は突出しない平底を有し、球形の体部を呈している。鉢(1)は短く外反する口縁と球形の体部・突出平底を持つものである。この土器群は甕の特徴より松原市上田町I層出土資料(文献1)や八尾南遺跡古墳時代前期のI期(文献2)に併行する時期に比定できる。

S W 2 出土遺物：器種には壺・高坏・甕がある。壺には外反する口縁に扁球形の胴を持つもの(1・3)と口縁端部に竹管円形浮文、肩部を刻み目突帯で加飾した壺(2)がある。いずれも外面にタテ方向のヘラミガキが認められる。またミニチュアの甕(4)もみられる。高坏には坏底部より屈曲外反して開く口縁を持つ長脚の高坏(8・9・11)と坏底部より内巻しながら口縁に至る短脚の高坏(10・12)がある。どちらもタテ方向に細かくヘラミガキする。甕の多くはふくらんだ胴部に突出あるいは突出ぎみの平底を持ち、斜上方へ外反する口縁を有するもので、外面は上半と下半に分割された粗い叩きを残し内面はヘラナデにより調整している。

S W 3 出土遺物：器種には壺・鉢・高坏・甕がある。壺には口縁に沈線と竹管円形浮文を附

し、肩部に波状文がめぐる加飾する壺(1)と外反する口縁を持ち加飾をしないもの(2)がある。いずれもタテ方向のヘラミガキまたはナデによって器面を調整する。壺(6)は突出しない平底中央に1孔をあけるもので、甕の底部を転用したものかと思われる。鉢(7)は口縁が屈曲して開くもので、外面を顯著にヘラミガキする。高环は口縁部が环底部より屈曲後直立する短脚のもの(8)と环底部より屈曲外反して開くもの(9~11)がある。両者にも細かいタテ方向ヘラミガキがみられる。甕の多くは上外方へ外反する口縁とふくらんだ胴部、突出あるいは突出ぎみの平底を持つもので、外面は上半と下半に分割して粗い叩きをはどこしている。内面はいずれもヘラナデで、ケズリをするものは全くない。(15)は台付の甕で体部外面下半にヘラナデを行い叩きを消している。

SW2・SW3の土器群は畿内第V様式後半に位置づけられる資料で、長頸壺が土器群中に含まれないことからその消滅期にあたっているものと思われる。甕や高环の形態からみると、東大阪市北島池遺跡出土の土器群(文献3)や柏原市船橋遺跡第9トレンチ出土の土器群(文献4)と同時期か若干古相を呈するものかと考えられる。

#### 4. 土壌出土の土器群

SK13出土遺物：出土した土器は全て須恵器蓋環である。蓋(1~5)は丸い天井部より棱を持って垂下し口縁部に至る。棱は純く弦線になる。口縁端部は内側に段を持つ。身(2~4)は丸い底部より斜上方へのびる受け部を持つ。口縁のたちあがりは内傾する。これらの特徴は陶邑編年(文献5)によるII型式1段階に比定できよう。

SK15出土遺物：器種には壺・高环・甕がある。壺(1)は外反する口縁に球形の体部を持つ。外面には細かいタテ方向ヘラミガキがみられる。高环(2)は平たい环底部より屈曲外反して開く口縁と中空の長い脚柱部及び屈曲して開く平たい脚根部を持つ。器面はていねいにタテ方向のヘラミガキにより調整する。甕は外反する口縁に突出または突出ぎみの平底を持つ。叩きはやや密なものと粗目のものがある。これらは高环・甕の特徴よりSW2・SW3と同時期に比定できる。

SK28出土遺物：器種には壺・高环・鉢・甕・土錘がある。壺は外面をハケ調整するもの(1)とていねいなヘラミガキで調整するもの(2~3)がある。(1)は外反してたちあがる口縁に下ぶくれの体部を持ち、外面には叩きによる成形痕が残る。(2~4)は扁球形の体部に突出または突出ぎみの小さな平底を持つもので(2)は内側する口縁を持ち瓢形を呈する。外面のヘラミ

ガキはていねいで、ヨコ方向のミガキが体部にみられる。高环は平たく小さな坏底部より屈曲して大きく開く口縁を持つもの(5)と坏底部より内彎してたちあがる口縁を持つもの(6)がある。脚部(7・8)は中空でなだらかに開き四方に円孔を持つ。体(9・10)は球形の体部に屈曲する短かい口縁がつき底部は尖がりぎみ丸底かわずかな平底。甕は内面へラケズリをしないもの(12)とヘラケズリするもの(13~19)がある。(12)は外面の叩きをハケでていねいに消しており、底部は突出しない平底である。(13~19)は口頭部が鋭く屈曲し、口縁がまっすぐ開く。叩きは比較的密でありいわゆる庄内甕に属するものであろう。(22・23)は管状土錐である。当遺構出土の土器は、甕や高环の特徴から時期的に八尾南遺跡古墳時代前期のⅠ期併行期(文献2)に比定できよう。

S K29出土遺物：器種には壺・高环・甕がある。高环(3・4)は、口縁部が坏底より内彎してたちあがるもので、ていねいなヘラミガキ調整がみられる。甕(5~10)は外反する口縁に粗い叩きを持つ。内面はヘラナデ調整する。時期的にはSW2・SW3と同様弥生時代後期に比定できよう。

#### 5. 成法寺遺跡における庄内式成立期の土器の様相

弥生時代から古墳時代への社会の発展に伴い畿内各集落の生活様式に大きな変化があったことは、この時代の土器形式が短期間に激変していることからうかがえるであろう。すでに現在の研究では、弥生時代後期の土器は、小林行雄氏が行った西之辻遺跡における分析(文献6)を先駆として、都出比呂志氏(文献7)森岡秀人氏(文献8)寺沢薰氏(文献9)等によっていくつかの段階に細分されており、田中琢氏が提唱した庄内式(文献10)もまた「纏向」遺跡の報告書(文献11)を契機として各地で編年が試みられている段階にある。さて中河内という限定された地域において、この時期の土器を編年的に位置づける為には、都出氏が提唱された西之辻I式・西之辻E(D)式・上六万寺式・北鳥池式・上田町I式・上田町II式といった形式変遷があげられる。その後の資料の増加をみた現在においてもこの編年観に准拠することが最も妥当であると思われる。しかし当該時期における土器群の様相はきわめて複雑である。特に庄内式成立の要因や過程の解明、各集落間における土器形態の比較等はほとんどなされていない。我々は以前に八尾南遺跡(文献2)において、庄内式の時期の土器を分析することにより、その集落における在地の土器の変遷の過程を明らかにすることができた。すなわちよりV様式的な同遺跡における在地の土器群が生駒西麓庄内甕を移入することによってその影響を受けていく段階(八尾南古墳時代前期Ⅰ・Ⅱ)より生駒西麓庄内甕の普及により甕の大量移入が行われ、在地では甕の製作をやめ、在地における他器種の形態変化も進む段階(八尾南古墳時代前期Ⅲ・

IV)へと移行している。八尾南遺跡では、生駒西麓地域からの特定土器の移入が、その集落の伝統的生活様式を除々に変化させていると思われる所以である。このように考えると中河内という狭い範囲にあっても、土器の使われ方や形態の変化が各集落によって微妙にちがってくる可能性が考えられる。緊急発掘調査の増加によって多量の資料が得られた現在、こういった形での資料操作が急がれ、それを分析するのも不可能ではないわけであるが、年々増加する埋蔵文化財の破壊に対処するだけで精一杯の今日では充分な整理研究もできずに山積みになった遺物箱を見上げているだけである。

当該調査で検出した土器溜めや土壙(S K15・S K28)より出土する良好な一括土器群は、弥生時代第V様式から庄内式へと推移していく過程の中で、その接点にあたる時期を解明する為のきわめて重要な資料である。

ここにみられる土器群は、壺・鉢などの器種に比べ變形土器が圧倒的に多いのを特徴としている。それらは變形土器の内面ヘラケズリの有無によって2つの時期に大別することが可能である。内面ヘラケズリを持つ壺を含まない土器群はSW2・SW3・SK15であり内面ヘラケズリを持つ壺を主体とする土器群はSW1・SK28である。前者は弥生時代後期の北烏池式以前の時期に、後者は庄内式古相の上田町I式あるいは八尾南古墳時代前期I併行の時期にそれぞれ属していると思われる。しかも両者は同様の遺構から出土しており、時間的に近接する同様な営みの結果、土器がいくつかの地点に集積されたことは容易に想像できる。このことは、庄内式土器出現の過程を解明する上で重要な手掛りとなるであろう。先ずここにみられる土器群には次のような特徴がみられる。

- (1) 各土器群を比較すると器種構成がきわめて類似していることがわかる。いずれも變形土器が圧倒的に多く、壺・鉢・高杯が数点ずつである。にもかかわらず内面ヘラケズリの有無、同一器種間の形態差によって明確に弥生時代後期と庄内式古相とに分けられる。
- (2) 庄内式古相の土器群は、變形土器のうちほとんどが内面ヘラケズリを行っており、内面ヘラケズリをしないものは少数である。
- (3) 庄内式古相の土器群中には生駒西麓の胎土を持つ庄内壺に対して、在地産の庄内壺と推定されるものも多くある。つまりこの遺跡においては、在地で庄内壺の製作を行っていることが明白であり、庄内壺そのものの移入よりも、庄内壺の製作技術を在地の土器づくりにとり入れていることがわかる。

さて上記(2)(3)の内容は、同じ庄内式古相の八尾南遺跡におけるI期の状況と若干異なっている。八尾南遺跡では、伝統的なV様式系の壺が圧倒的に優勢であり、庄内壺の多くは生駒西麓よりの搬入である。在地で内面ヘラケズリを行うものはほんの少数である。しかもこれは

一般化しないものと思われる。つまり在地の土器のあり方としては、弥生時代後期からの継続性がきわめて強いと思われる。しかし成法寺遺跡をみると、庄内式古相における變形土器の内面へラケズリの技法及び底部の極小化、口縁の直線化傾向は突然に出現するかのようである。またこれとともに變形土器外におけるハケ調整の多用も注目すべきものである。これらの要素はV様式末の土器群の變にはほとんど認められない革新的な特徴である。

すなわち弥生時代V様式の變においては、胴部がふくらみ底部が小さくなっていくのは、普遍的な進化の方向性である。しかしこの進化は基本的には分割成形、底部輪台技法をもとに発展しているものである。したがってV様式變自体には、製作技法や形態上特にきわだった変化はみられず、庄内期になども遺跡によっては伝統的V様式變がひきつづき存続する。しかし庄内變における内面へラケズリ、底部尖底技法の出現はあまりにも突然変異的で、弥生時代のV様式變の系譜の延長とするにはきわめてむずかしい問題がある。両者が系譜的に同一のものであるとするならば、何故大和と河内の一部地域のみでしか庄内變が発生しなかったのであろうか。V様式變と庄内變とでは多くの点で技術的系譜を異にしているのは明らかである。

それについて示唆的だと思われるのは八尾市刑部3丁目出土・八尾南I期併行の一括土器群(文献12)である。本資料は管路埋設に伴う立会調査という不幸な条件により出土したものであるが、調査時の充分な記録はないが、溝または土壤状の遺構より出土した良好な資料であることは確実である。<sup>(注3)</sup>この土器群は驚くべきことに出土土器の大半が中部瀬戸内系と思われる他地方の土器の形態を呈している。それに比べ在地の形態を持つ土器は少数である。この中部瀬戸内系の土器群には壺・甕・高環・鉢など全ての器種が含まれており、岡山県倉敷市の上東遺跡などにおいて才の町II式に編年されている土器群に酷似している。在地系の土器の中には、北島池式に属すると思われる突出ぎみまたは突出しない平底を持つV様式系變と破片ではあるが、内面へラケズリをする古相の庄内變が共伴している。この土器群をみると、弥生時代後期と庄内式との接点の時期の中河内の一画に古代吉備より渡來した集団が居住していたとしか考えようがない。ところで才の町II式にあたる時期の吉備系の變形土器は、すでに底部の極小化及び内面へラケズリによる器壁の極薄化を弥生時代後期以来の発展の過程で達成しているのである。この事実は、庄内變が中河内、特に生駒西麓付近のV様式の變が発展して出現したものであるとしても、その形態や技法の特徴には少なからず吉備の土器が影響を及ぼした可能性をもののがたっている。こうして出現した庄内變は短期間のうちに中河内の各集落に普及していることは本調査結果が示すとおりである。しかし当初においては、成法寺遺跡と八尾南遺跡の相異のように、同じ中河内の集落においてさえも庄内變の受容のあり方に差異が認められることは注意を要する。例えば庄内變の受容が遅れた集落においては、北島池式のような弥生時代後期末の土器群が庄内式とある時点において併存する可能性も考えられなくはないからである。今後さ

らに遺跡ごとにおけるこの時期の土器群を分析する必要があろう。

庄内式古相段階では成法寺遺跡においても製作されていた庄内甕の製作地は、やがて中河内でも良質な粘土と混和材が採取できる生駒西麓地域に限られてくる。そしてこの地域の特産品として攝河泉をはじめ西日本各地に流通するようになるのである。庄内式新相段階に比定できる成法寺遺跡の方形周溝墓に供献された甕は、いずれも生駒西麓の胎土を呈している。成法寺遺跡も庄内式新相の時期では、生駒西麓産庄内甕を在地の甕にかわって一方的に移入する集落になるのである。以上が成法寺遺跡出土土器群の分析結果である。

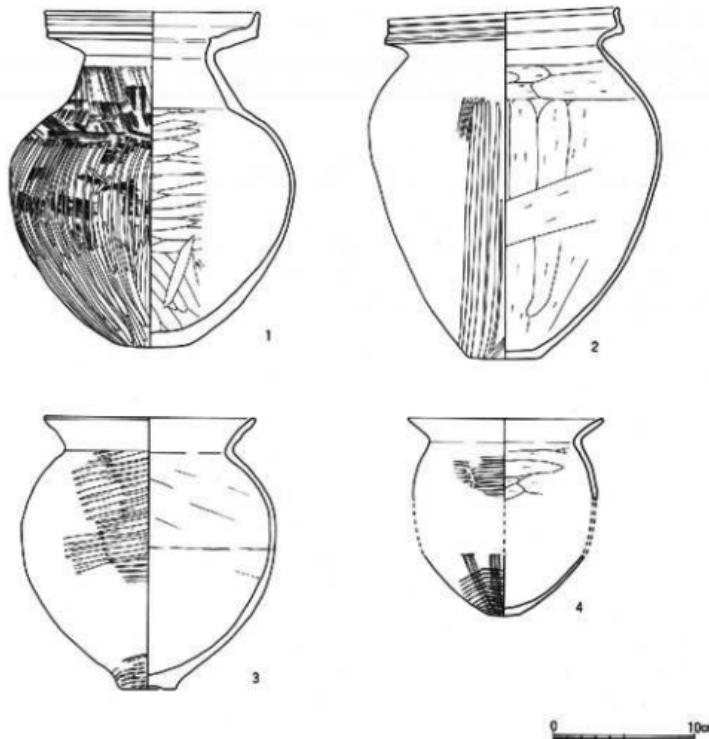


図5 刑部3丁目 出土資料 〈文献12より〉

#### 【参考文献】

- 1 原口正三『大阪府松原市上田町遺跡の調査』大阪府立島上高等学校研究紀要3 1968
- 2 『八尾南遺跡－大阪電気軌道2号線建設に伴う発掘調査報告書』八尾南遺跡調査会 1981
- 3 『河内古代遺跡の研究』大阪府立花園高等学校地歴部 1970
- 4 『大和川環境整理備事業柏原地区高水敷整正工事に伴う船橋遺跡試掘調査報告書』関大阪文化財センター 1976
- 5 『陶邑Ⅲ』大阪府文化財調査報告書第30 大阪府教育委員会 1978
- 6 小林行雄他『弥生式土器集成』資料編I 1958
- 7 都出比呂志「古墳出現前夜の集団關係」『考古学研究』第20卷4号 1974
- 8 『大師山』関西大学文学部考古学研究第5冊 関西大学 1977
- 9 『六条山遺跡』奈良県文化財調査報告書第34集 奈良県立橿原考古学研究所編 1980
- 10 田中琢「布留式以前」『考古学研究』第12卷2号 1965
- 11 『繩向』奈良県立橿原考古学研究所編 1976
- 12 『昭和53・54年度 八尾市埋蔵文化財調査年報』八尾市教育委員会 1980

#### 【注記】

- 1 八尾南遺跡S E10の資料などがあげられるが、近年の同遺跡出土資料にも同時期のものが存在する。(P L41)
- 2 八尾南遺跡S E23の資料では庄内窯を模した在地窯があるが、つくりも稚拙でこういったものはごく小数と考えられる。
- 3 出土状況については調査に参加した高木真光氏による。

## 観察表凡例

### 形態の表記例

#### (壺・甕・鉢底部)

- 平底：底部が平坦で凹凸がないもの。弥生時代の土器に一般的にみられるもの。
- くぼみ底：底部中央がくぼんでおり、底部輪台技法による上げ底状となっているもの。
- 突出する底：平底またはくぼみ底の底部が逆円錐台の体部下半より突出するもの。
- 突出しない底：逆円錐台の体部下半の器壁よりそのまま続く平底またはくぼみ底。
- 突出ぎみ底：底部が極端に突出せず、わずかに突出するもの。上記二種の中間形態。
- 小さな平底：平底部の極小化により、わずかに平坦面を残すだけの平底。
- 尖りぎみ丸底：庄内型にみられるように平底を残さないが底部を意識した丸底。
- 尖り底：逆円錐状に尖るもの。

#### (壺・甕・鉢体部)

- 扁球形：胴中位が張る扁平な球形。
- 卵球形：胴部上半がふくらむ縦長の球形。
- ふくらむ：胴部のふくらみが強いもの。

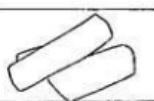
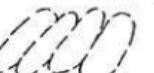
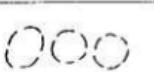
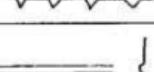
#### (高杯口縁部)

- 屈曲外反する：杯底部より綫をもって屈曲し、外反して口縁端部に至るもの。
- 彎曲内彎する：杯底部より綫をもたずながらにたち上がり内彎して口縁に至るもの。

#### (高杯・器台脚部等)

- 屈曲して聞く：脚柱部より屈曲し、鈍角に聞く裾をもつもの。
- なだらか：脚柱部より屈曲しないで外反しておりますもの。
- ハの字に聞く：円錐状を呈し脚柱部をもたないもの。

調整の表記例

平 タ キ 行	器形を整える為、平行溝のある板で器面を連續的に叩く。	
ヘラミガキ	ヘラ状工具等を用い、器面をていねいに磨く。	
ヘラナデ	ヘラ状工具、板などを用いゆるく器面をナデる。砂粒の動きは不明瞭。	
ヘラケズリ	ヘラ状工具、板などで強く器面を削る。砂粒の動きが認められる。	
ユビナデ	指先を用いて器面をナデる。	
指 頑 痢	指先で器面を圧迫する。	
ハケナデ	櫛状工具により器面を搔く。	
刻 み 月	ヘラ状工具などにより縦線上に刻みを入れる。	
沈 線	ヘラ状工具などの先端を用いて直線を引く。	
ヨコナデ、 ていねいな ナデ その他	器面に明瞭な痕跡を持たないもの。	原則として表記しない。

## S X 1

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL18) 1	鉢	口縁部 休部	内寄ぎみに開く 浅くまるい	ヨコナデ ヘラミガキ	ヨコナデ後 ヘラミガキ	口径 18.5cm 乳褐色
(PL18) 2	高杯	杯部	口縁部 弧曲内寄する 底部 まるい	ヨコナデ 指頭痕	ヘラミガキ	口径 14.0cm 赤褐色
(PL18) 3	甕	口縁部 休部	内寄する 端部 内傾する面をも ち内に肥厚する 球形	ヨコナデ 不規	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 15.0cm 赤褐色
(PL18) 4	甕	口縁部	外反する 端部 外に面をもち肥 厚する	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 18.0cm 黄褐色
(PL18) 5	甕	口縁部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.4cm 黄褐色
(PL18) 6	甕	口縁部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 14.8cm 灰褐色
(PL18) 7	甕	口縁部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.8cm 暗褐色
(PL18) 8	甕	口縁部 休部	まっすぐ 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ	口径 14.8cm 暗茶褐色
(PL18) 9	甕	底部	突出する平底	タタキ ヘラオサエ	ヘラナデ後 ユビナデ	底径 5.0cm 灰褐色
(PL18) 10	甕	底部	突出するくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.8cm 赤褐色
(PL18) 11	甕	底部	突出ぎみ平底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.4cm 淡褐色
(PL18) 12	甕	底部	突出しない平底	ナデ	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡褐色
(PL18) 13	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	ナデ 指頭痕	ナデ	底径 3.8cm 黄褐色

## S X 2

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL18) 1	直口壺	口縁部 休部	まっすぐのびる 端部 まるい 球形	ハケナデ後 ヘラミガキ ハケナデ後 ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラナデ	口径 15.0cm 器高 19.5cm 乳褐色
(PL18) 2	壺	口縁部	外反してのびる 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 12.4cm 暗茶褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL18)	壺 3 (図版19) 1	口縁部	外反する 端部 垂下する	ヘラミガキ	ハケナデ	口径 17.0cm 黄褐色
(PL18)	壺 4	体部 底部	球形 丸底	ナデ ハケナデ	ユビナデ ナデ	赤褐色
(PL18)	壺 5	底部	突出する平底	ナデ	ヘラナデ	口径 6.0cm 黄褐色
(PL18)	壺 6 (図版19) 1	口縁部 体部	内寄きみにのびる 壠部 まるい まるくふくらむ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 19.0cm 赤褐色
(PL18)	手培り型 土器 7 (図版19) 3	口縁部 体部 底部	外反する 壠部 刻み目 扇球形 中位の突帯に 刻み目を有する 突出ぎみ平底	ヨコナデ ナデ ユビナデ	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 19.5cm 暗赤褐色
(PL19)	高坏 8	坏部	口縁部 扇曲外反する 端部 外側に面をもつ 底部 浅く内寄する	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	赤褐色 口径 17.6cm
(PL19)	甕 9	口縁部 体部	外反する 壠部 上につまむ わずかにふくらむ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	黄褐色 口径 12.0cm
(PL19)	甕 10	口縁部 体部	外反する 壠部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ	黄褐色 口径 20.0cm
(PL19)	甕 11	口縁部	外反する 壠部 外に面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	黄褐色 口径 15.8cm
(PL19)	甕 12	口縁部 体部	内寄する 壠部 内傾する面をも ち肥厚する	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	淡褐色 口径 16.0cm
(PL19)	雍 13	口縁部	外反する 壠部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	淡赤褐色 口径 14.0cm
(PL19)	甕 14	口縁部 体部	外反する 壠部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ	暗黄褐色 口径 13.0cm
(PL19)	甕 15	口縁部	外反する 壠部 外に面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 13.6cm 淡褐色
(PL19)	甕 16	底部	突出する平底	タタキ ナデ	ヘラナデ	底祥 4.6cm 淡褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL19) 17	甕	底 部	突出するくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 3.4cm 淡褐色
(PL19) 18	甕	底 部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ハケナデ	底径 4.4cm 赤褐色
(PL19) 19	台付鉢	脚台部	なだらかにたち上がる	ヨコナデ	ナデ	底径 8.6cm 淡褐色

#### S X 3

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL19) 1  (図版19) 4	甕 (供獻土器)	口縁部 体 部 底 部	内脣ぎみ 端部 つまみ上げる 卵球形 尖りぎみ丸底	ユビナデ後 ヨコナデ タタキ後 ハケナデ	ハケナデ ヘラケズリ 指頭痕	口径 13.8cm 器高 17.9cm 淡茶褐色
(PL19) 2  (図版19) 5	甕 (供獻土器)	口縁部 体 部 底 部	まっすぐ聞く 端部 つまみ上げる 球形 尖りぎみ丸底	ヨコナデ タタキ後 ハケナデ 不明	ヨコナデ ヘラケズリ ヘラケズリ	口径 14.8cm 器高 17.6cm 淡茶褐色
(PL19) 3	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 上につまむ	ヨコナデ タタキ	ナデ ヘラナデ	口径 8.8cm 乳褐色
(PL19) 4  (図版19) 6	甕 (図版19) 6	口縁部 体 部 底 部	外反ぎみに聞く 球形 丸底	ヨコナデ ハケナデ後 ヘラナデ ハケナデ	ヨコナデ ハケナデ ヘラナデ	口径 9.6cm 器高 15.0cm 黄褐色

#### S X 4

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL20) 1  (図版19) 7	壺	口縁部 体 部	外反する 端部 下に肥厚する	ハケナデ後 ヨコナデ ハケナデ	ヨコナデ ハケナデ	口径 16.0cm 淡赤褐色
(PL20) 2  (図版20) 8	甕	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 つまみ上げる	ヨコナデ 指頭痕 タタキ後 ハケナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 17.2cm 茶褐色
(PL20) 3	亞	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 内に肥厚する	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ 指頭痕	口径 14.4cm 暗茶褐色

番号	器 國版番号	種 類	部 位	形 態	外 面 調 整	内 面 調 整	備 考
(PL20) 4		甕	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 つまみ上げる 卵球形	ヨコナデ タタキ後 ハケナデ ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 15.0cm 暗茶褐色
	(國版20) 9		体 部	尖りぎみ丸底		ヘラケズリ	
(PL20) 5		鉢	口縁部	内寄する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ ハケナデ	ヨコナデ	口径 25.0cm 淡黄褐色
(PL20) 6		壺	口縁部	まっすぐ 端部 垂下する 波紋状	ヨコナデ	不明	口径 18.5cm 灰褐色
(PL20) 7		壺	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 尖る 球形	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 7.0cm 器高 10.7cm
	(國版20) 10		底 部	丸底	ヘラミガキ ヘラミガキ	ナデ ユビナデ	茶褐色
(PL20) 8		瓶	口縁部	外反する 端部 外傾する面をもつ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 17.0cm 淡褐色
(PL20) 9		壺	口縁部	外反する 端部 沈線をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 11.8cm 茶褐色
(PL20) 10		甕	口縁部	複合口縁 端部 まっすぐ開いて 尖る	ヘラミガキ	ヨコナデ後 一部ヘラミガ キ	口径 12.5cm 淡茶褐色
(PL20) 11		壺	口縁部	外反する 端部 まるい	ナデ	ナデ	口径 14.0cm 暗褐色
(PL20) 12		壺	口縁部 (國版20) 11	複合口縁 端部 外に肥厚する ふくらむ	ヨコナデ ハケナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 27.0cm 乳褐色
(PL20) 13		壺	口縁部	端部 垂下する 平行沈線 竹管浮文	ナデ	ナデ	口径 20.0cm 淡褐色
(PL20) 14		壺	底 部	突出する平底	ヘラミガキ	ヘラミガキ	底径 6.4cm 淡褐色
(PL20) 15		瓶	底 部	突出ぎみくぼみ底	ヘラミガキ	ヘラミガキ	底径 4.0cm 淡褐色
(PL20) 16		壺	底 部	突出する平底	ハケナデ後 ヘラミガキ	ヘラミガキ	底径 6.4cm 淡褐色
(PL21) 17		高壺	环 部	口縁部 脊曲外反する 端部 上につまむ 底部 内寄して開く	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラミガキ	口径 27.0cm 赤褐色

番号	器 岡版番号	種 類	部 位	形 態	外 面 調 整	内 面 調 整	備 考
(PL21) 18	高坏	坏	部	口縁部 屈曲外反する 端部 上につまむ 底部 内脣して聞く	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ	口径 22.0cm
(PL21) 19	高坏	坏	部	口縁部 屈曲外反する 端部 上につまむ 底部 内脣して聞く	ヘラミガキ	不明	口径 21.0cm 淡褐色
(PL21) 20	高坏	坏	部	口縁部 屈曲外反する 端部 垂下する 底部 外反ぎみに聞く	ヘラミガキ	ヨコナデ	口径 18.0cm 淡赤褐色
(PL21) 21	高坏	坏	部	口縁部 屈曲外反する 端部 沈線をもつ 底部 内脣して聞く	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 18.0cm 黄褐色
(PL21) 22	高坏	脚	部		ナデ	ナデ	底径 6.0cm
(PL21) 23	台付鉢	台	部	ハの字に聞く 三方に孔をもつ	ナデ	ナデ	底径 8.0cm 乳褐色
(PL21) 24	高坏	脚	部	柱部 中空 根部 屈曲して聞く 四方に孔をもつ	ヘラミガキ	しばり目 ヘラナデ	底径 12.8cm 灰褐色
(PL21) 25	台付鉢	台	部	ハの字に聞く 三方に孔をもつ	ナデ	ナデ	底径 7.0cm 淡褐色
(PL21) 26	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 つまみ上げる 平行沈線	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ		口径 16.0cm 淡赤褐色
(PL21) 27	甕	口縁部 休 部	外反する 端部 上につまむ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ		口径 16.2cm 茶褐色
(PL21) 28	甕	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 外側に沈線をも つ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ		口径 19.0cm 淡褐色
(PL21) 29	甕	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 まるい	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ 指頭痕		口径 16.2cm 灰褐色
(PL21) 30	甕	口縁部 体 部	内脣ぎみ 端部 尖る	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラケズリ		口径 11.0cm 赤褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL21) 31	甕	口縁部 体部	内弯きみ 端部 尖る	ナデ タタキ	ナデ ナデ	口径 14.5cm 淡茶褐色
(PL21) 32	甕	口縁部 体部	外反ぎみ 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ	口径 19.4cm 乳褐色
(PL21) 33	甕	口縁部 体部	まっすぐ 端部 上につまむ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 12.5cm 淡茶褐色
(PL21) 34	甕	口縁部 体部	外反する 端部 沈線をもつ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ	口径 15.2cm 灰褐色
(PL21) 35	甕	口縁部 体部	まっすぐ 端部 まるい	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヨコナデ	口径 17.6cm 淡褐色
(PL21) 36	甕	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.2cm 淡褐色
(PL21) 37	甕	口縁部 体部	内弯きみ 端部 まるい	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 13.0cm 淡褐色
(PL21) 38	甕	口縁部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 16.1cm 淡赤褐色
(PL21) 39	甕	口縁部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 13.8cm 淡褐色
(PL21) 40	甕	口縁部	外反ぎみ 端部 まるい	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 15.6cm 黄褐色
(PL21) 41	甕	口縁部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.5cm 乳褐色
(PL21) 42	甕	口縁部 体部	まっすぐ 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ハケナデ	口径 14.4cm 乳褐色
(PL21) 43	甕	底部	突出する平底	タタキ 指頭板	ヘラナデ 指頭板	底径 5.0cm 黒灰色
(PL21) 44	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ハケナデ	底径 4.0cm 灰褐色
(PL21) 45	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	ヨコナデ	ヘラナデ 指頭板	底径 5.6cm 灰褐色
(PL21) 46	甕	底部	突出するくぼみ底	タタキ ユビナデ	ヘラナデ	底径 3.6cm 淡赤褐色
(PL22) 47	甕	底部	突出するくぼみ底	タタキ	ナデ	底径 4.2cm 赤褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL22) 48	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 3.4cm 淡赤褐色
(PL22) 49	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ナデ	底径 4.6cm 淡黄褐色
(PL22) 50	甕	底部	突出ぎみ平底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.0cm 灰褐色
(PL22) 51	甕	底部	突出するくぼみ底	タタキ	ナデ	底径 3.6cm 灰褐色
(PL22) 52	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	ナデ	ヘラナデ	底径 3.2cm 赤褐色
(PL22) 53	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.4cm 茶褐色

### SW1

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL22) 1	壺 (図版20) 12	口縁部 体部	外反する 端部 肥厚する 球形	ヨコナデ タタキ後 ハケナデ	ヨコナデ ハケナデ 指頭痕	口径 17.0cm 淡褐色
(PL22) 2	壺	口縁部 体部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 18.0cm 淡褐色
(PL22) 3	壺 (図版20) 13	口縁部 体部	まっすぐ 端部 まるい 球形	ハケナデ ハケナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 16.4cm 淡褐色
(PL22) 4	壺 (図版21) 14	口縁部 体部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ ヘラ底のこる ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 18.4cm 乳褐色
(PL22) 5	甕 (図版21) 15	口縁部 体部 底部	外反する 端部 まるい 卵球形 突出ぎみくぼみ底	ヨコナデ タタキ タタキ後ナデ	ハケナデ後 ヨコナデ ハケナデ ハケナデ	口径 13.6cm 器高 17.0cm 淡赤褐色
(PL22) 6	甕 (図版21) 16	口縁部 体部 底部	外反する 端部 つまみ上げる 卵球形 小さな平底	ヨコナデ タタキ ハケナデ	ヨコナデ ヘラケズリ ヘラケズリ	口径 16.3cm 器高 17.7cm 淡茶褐色
(PL23) 7	甕	口縁部 体部	外反ぎみ 端部 上につまむ ふくらむ	ヨコナデ タタキ後ナデ	ナデ ヘラナデ	口径 23.4cm 暗茶褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL23) 8	甕 (図版21) 17	口縁部 体 部	外反する 端部 まるい ふくらむ	ヨコナデ タタキ後ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 15.4cm 黄灰褐色
(PL23) 9	甕 (図版21) 18	口縁部 体 部 底 部	まっすぐ 端部 まるい 卵球形 突出ぎみ平底	ヨコナデ ナデ タタキ後ヘラナデ	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 12.0cm 乳褐色 煤付着
(PL23) 10	鉢 (図版21) 19	口縁部 体 部 底 部	外反する 端部 尖る 球形 突出する平底	ヨコナデ ナデ 指頭痕	ハケナデ後 ヨコナデ ナデ	口径 10.4cm 器高 8.3cm 淡褐色
(PL23) 11	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ タタキ後 ハケナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 10.4cm 淡褐色
(PL23) 12	甕 (図版21) 20	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 上につまむ	ヨコナデ タタキ 一部ハケナデ	ハケナデ後 ヨコナデ ヘラケズリ	口径 19.0cm 乳黃褐色
(PL23) 13	甕 (図版22) 21	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 尖る	ヨコナデ タタキ後 ハケナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 14.0cm 黄褐色
(PL23) 14	甕	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ後 ハケナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 18.0cm 赤黄褐色
(PL23) 15	甕	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 尖る	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 17.7cm 晴茶褐色
(PL23) 16	甕 (図版22) 22	口縁部 体 部	外反ぎみ 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ後 ハケナデ	ハケナデ後 ヨコナデ ヘラケズリ	口径 12.6cm 赤褐色
(PL23) 17	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 17.5cm 赤褐色
(PL23) 18	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ	口径 16.6cm 淡赤褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL23) 19	甕	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ タタキ	ハケナデ後 ヨコナデ ヘラケズリ	口径 14.2cm 淡褐色
(PL23) 20	甕	口縁部 体 部	外反ぎみ 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ハケナデ後 ヨコナデ ヘラケズリ	口径 18.0cm 赤黄褐色
(PL23) 21	甕	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ハケナデ ヘラケズリ	口径 14.0cm 赤黄褐色
(PL24) 22	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 まるい	ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ ナデ	口径 14.4cm 灰褐色
(PL24) 23	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ	口径 13.1cm 淡茶褐色
(PL24) 24	甕	口縁部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 12.6cm 淡褐色
(PL24) 25	甕	底 部	小さな平底	タタキ後 ハケナデ	ヘラケズリ 指頬痕	底径 3.2cm 赤褐色
(PL24) 26	台付甕	休 部 台 部		ナデ ヨコナデ	ヘラナデ 指頬痕 ヘラナデ	底径 7.0cm 灰褐色
(PL24) 27	甕	底 部	小さな平底	タタキ後 ハケナデ	ヘラケズリ	底径 1.8cm 暗赤褐色
(PL24) 28	甕	底 部	小さな平底	タタキ後 ハケナデ	ヘラケズリ	底径 2.6cm 暗茶褐色
(PL24) 29	甕	底 部	突出する平底	タタキ	ヘラナデ	底径 3.2cm 淡赤褐色
(PL24) 30	甕	底 部	突出ぎみくぼみ底	ヘラミガキ	ナデ	底径 3.2cm 乳褐色
(PL24) 31	甕	底 部	突出する平底	ナデ ユビナデ	ヘラナデ	底径 4.2cm 茶褐色
(PL24) 32	甕	底 部	小さな平底	タタキ後 ハケナデ	ヘラケズリ	底径 2.8cm 赤褐色

## SW 2

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL24) 1	壺 (図版22) 23	口縁部 体 部 底 部	まっすぐたちあがり 途中で外反する 端部 外傾する面をもつ 瘤球形で下にすぼむ 突出ぎみ平底	ヘラミガキ	不明 端部 ヨコナデ	口径 14.4cm 器高 23.2cm 淡赤褐色
(PL24) 2	壺 (図版22) 24	口縁部 体 部	外反する 端部 垂下する 竹管浮文 頸部 刻み目突帯	ヘラミガキ後 ヨコナデ	ヘラミガキ 端部 ヨコナデ 下部 ナデ	口径 22.6cm 淡赤褐色
(PL24) 3	壺	口縁部 体 部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヘラミガキ ヘラナデ	不明 ユビナデ	口径 15.8cm 赤褐色
(PL24) 4	小型甕 (図版22) 25	口縁部 体 部 底 部	外反する 端部 まるい 瘤球形 突出するくぼみ底	ヨコナデ 不明 指頭痕	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 6.0cm 器高 7.3cm 赤褐色
(PL24) 5	壺	口縁部	外反する 端部 外に肥厚する	ナデ	ナデ	口径 14.8cm 乳褐色
(PL24) 6	壺	底 部	突出ぎみくぼみ底	ナデ	ナデ	底径 3.0cm 淡黄褐色
(PL24) 7	壺	底 部	小さな平底	ヘラミガキ	ヘラナデ	底径 2.3cm 淡黄褐色
(PL24) 8	高环	坏 部	口縁部 屈曲外反する 端部 まるい 底部 内彎する	ハケナデ後 ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 19.2cm 淡褐色
(PL24) 9	高环	坏 部	口縁部 屈曲外反する 端部 外側に面をもつ 底部 内彎する	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 16.4cm 淡黄褐色
(PL24) 10	高环	坏 部	口縁部 弧曲内彎する 端部 まるい 底部 浅く内彎する	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 15.2cm 淡黄褐色
(PL24) 11	高环	脚 部	柱部 短く中空 裾部 なだらか 三方に円孔	ヘラミガキ ヘラミガキ	しばり日 ハケナデ	底径 16.4cm 淡褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL24) 12	高環  (図版22) 26	環部 脚部	口縁部 弧曲内凹する 端部 まるい 底部 深く内凹する 柱部 短く中空 根部 なだらか 四方に凹孔	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ ナデ	口径 10.7cm 器高 10.0cm 淡赤褐色
(PL24) 13	甕  (図版22) 27	口縁部 体部 底部	まっすぐ 端部 まるい ふくらむ 突出ぎみ平底	ヨコナデ タタキ タタキ 指頭痕	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 12.8cm 器高 13.2cm 淡灰褐色
(PL25) 14	甕  (図版22) 28	口縁部 体部 底部	外反する 端部 つまみ上げる 卵球形 突出する平底	ヨコナデ タタキ 指頭痕 タタキ 指頭痕	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 15.4cm 器高 18.6cm 淡褐色
(PL25) 15	甕  (図版23) 29	口縁部 体部 底部	内凹ぎみ 端部 上につまむ 卵球形 突出ぎみくぼみ底	ヨコナデ タタキ 指頭痕 タタキ	ヨコナデ ヘラナデ ナデ	口径 14.8cm 灰褐色 煤付着
(PL25) 16	甕	口縁部 体部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ 不明 つなぎ目がみ られる	口径 16.0cm 淡黄褐色
(PL25) 17	甕  (図版23) 30	口縁部 体部	外反する 端部 外側に面をもつ ふくらむ	ヨコナデ後 ハケナデ タタキ後ナデ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 16.4cm 淡赤褐色
(PL25) 18	甕	体部 底部	突出する平底	タタキ タタキ後 ユビナデ	ヘラナデ ヘラナデ	底径 4.1cm 淡赤褐色 煤付着
(PL25) 19	甕  (図版23) 31	体部 底部	卵球形 突出する平底	タタキ 指頭痕	ヘラナデ ヘラナデ	底径 4.4cm 淡黄褐色
(PL25) 20	甕	口縁部 体部	まっすぐ 端部 尖る	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 15.0cm 淡褐色
(PL25) 21	甕	口縁部 体部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ 不明	口径 15.0cm 淡褐色 煤付着

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL25) 22	壺	底部	突出ぎみくぼみ底	ヘラミガキ	ヘラミガキ	底径 3.5cm 黄褐色
(PL25) 23	甕	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.9cm 淡黄褐色
(PL25) 24	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ後 ユビナデ	ヘラナデ	底径 4.8cm 赤褐色
(PL25) 25	甕	底部	突出する平底	指頭痕	ハケナデ	底径 6.8cm 淡茶褐色
(PL25) 26	甕	底部	突出ぎみ平底	タタキ後 指頭痕	ヘラナデ	底径 5.4cm 暗灰褐色

SW 3

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL25) 1	壺	口縁部	外反する 端部 垂下する 平行沈線 竹管浮紋	ハケナデ ヨコナデ	ヘラミガキ	口径 15.0cm 淡赤褐色
	(図版23) 32	体部	肩部に波状紋	ヘラミガキ	ヘラナデ後 指頭痕	
(PL25) 2	壺	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 12.6cm
	(図版23) 33	体部	扁球形 下にすばむ	上部 ヘラナデ 下部 ナデ	上部 ナデ 下部 ヘラナデ	器高 21.8cm 淡茶褐色
		底部	突出する平底	ナデ	ヘラナデ	
(PL25) 3	壺	口縁部	外反する	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 12.0cm
		体部	端部 つまみ上げる	ナデ	指頭痕	淡黄褐色
(PL25) 4	壺	底部	突出する平底	ナデ	ヘラミガキ	底径 8.0cm
						淡赤褐色
(PL25) 5	壺	体部		ハケナデ後 ヘラミガキ	ヘラナデ	底径 4.4cm
		底部	突出する平底	ハケナデ後 ヘラミガキ	ヘラナデ	淡茶褐色
(PL26) 6	底部有孔 鉢	口縁部	まっすぐ 端部 尖る	タタキ	ヘラナデ	口径 17.0cm
	(図版23) 34	体部	下にすばむ	タタキ	ヘラナデ	茶褐色
		底部	突出ぎみ平底 孔をもつ	タタキ	ヘラナデ	

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL26) 7	鉢	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 外に肥厚する 内彎する	ヨコナデ後 ヘラミガキ ハケナデ後 ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 28.8cm 淡黄褐色
(PL26) 8	高坏 (図版23) 35	坏 部 脚 部	口縁部 扇曲まっすぐ 底部 深く内彎する 裾部 なだらか 四方に円孔	ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 11.5cm 器高 11.2cm 茶褐色
(PL26) 9	高坏	坏 部	口縁部 扇曲外反する 端部 外側に沈線をもつ 底部 浅く内彎する	ヨコナデ後 ヘラミガキ	ヨコナデ	口径 21.0cm 茶褐色
(PL26) 10	高坏	坏 部	口縁部 扇曲外反する 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 21.0cm 淡赤褐色
(PL26) 11	高坏	坏 部	口縁部 扇曲まっすぐ 底部 浅く内彎する	不明 ヘラミガキ	ヘラミガキ 不明	口径 26.0cm 乳褐色
(PL26) 12	高坏	脚 部	柱部 短い中空 裾部 なだらか 三方に円孔	ナデ	ナデしばり目	底径 12.0cm 淡赤褐色
(PL26) 13	高坏	脚 部	柱部 短い中空 裾部 なだらか 三方に円孔	ヘラミガキ ヘラミガキ	ナデ ナデ	底径 10.0cm 淡黄褐色
(PL26) 14	甕 (図版24) 36	口縁部 体 部 底 部	外反する 端部 まるい 卵球形 突出ぎみくぼみ底	ヨコナデ 上部 タタキ後 ハケナデ タタキ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 14.5cm 器高 27.3cm 底径 5.0cm 乳褐色 煤付着
(PL26) 15	台付甕 (図版24) 37	口縁部 体 部 台 部	まっすぐ 端部 まるい ふくらむ	ハケナデ 上部 ハケナデ 中央部 タタキ 下部 ヘラミガキ タタキ後ヘラナデ	ハケナデ ヘラナデ ナデ	口径 17.0cm 器高 20.2cm 底径 8.0cm 茶褐色
(PL26) 16	甕 (図版24) 38	口縁部 体 部 底 部	外反する 端部 外側に面をもつ 卵球形 突出するくぼみ底	ヨコナデ タタキ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 15.5cm 器高 17.4cm 底径 4.0cm 赤褐色 煤付着

番号	器 図版番号	部 位	形 態	外 面調整	内 面調整	備 考
(PL26) 17	甕  (図版24) 39	口縁部 体 部 底 部	まっすぐ 端部 まるい 卵球形 突出ぎみくぼみ底	ハケナデ タタキ 中央部 ハケ ナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 15.5cm 器高 17.0cm 底径 4.0cm 暗茶褐色 煤付着
(PL26) 18	甕  (図版24) 40	口縁部 体 部 底 部	外反する 端部 まるい 卵球形 突出する平底	ヨコナデ タタキ ナデ	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 14.2cm 器高 22.5cm 淡茶褐色 煤付着
(PL27) 19	甕  (図版24) 41	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 外側に面をもつ ふくらむ	ヨコナデ タタキ 指頭痕	ヨコナデ ヘラナデ ユビナデ	口径 14.0cm 淡黄褐色 煤付着
(PL27) 20	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 18.2cm 淡黄褐色 煤付着
(PL27) 21	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 外に肥厚する 沈線をもつ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ 指頭痕	口径 13.2cm 淡褐色
(PL27) 22	甕	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 上につまむ ふくらむ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 15.0cm 淡茶褐色 煤付着
(PL27) 23	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 上につまむ	ヨコナデ 一部 タタキ タタキ ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 13.0cm 灰褐色
(PL27) 24	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ 指頭痕	口径 13.2cm 赤褐色
(PL27) 25	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 19.4cm 淡黄褐色
(PL27) 26	甕	口縁部	外反する 端部 外傾する面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 16.0cm 灰茶褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL27) 27	甕	口縁部 体部	まっすぐ 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.0cm
				タタキ	ナデ	淡茶褐色
(PL27) 28	甕	口縁部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 16.5cm 暗茶褐色
(PL27) 29	甕	底部	突出ぎみ平底	ヘラナデ	ヘラナデ	底径 4.0cm 暗茶褐色
(PL27) 30	甕	底部	突出するくぼみ底	タタキ 指頭痕	ヘラナデ	底径 5.0cm 淡黄褐色
(PL27) 31	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.4cm 灰褐色
(PL27) 32	台付鉢	体部 台部	短く聞く	ナデ 指頭痕	ヘラナデ 指頭痕	底径 4.0cm 淡灰褐色

### S E 1

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL27) 1	甕	口縁部 体部	外反する 端部 まるい	ナデ	ナデ	口径 17.6cm
				タタキ	ヘラナデ	淡黄褐色
(PL27) 2	甕	口縁部	内寄ぎみ 端部 つまみ上げる	ナデ ハケナデ	ナデ	口径 16.2cm 暗茶褐色
(PL27) 3	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ナデ	底径 4.0cm 淡褐色
(PL27) 4	甕	底部	突出する半底	ナデ 指頭痕	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡灰褐色

### S K 1

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL28) 1	甕	口縁部	外反する 端部 上につまむ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.0cm 暗茶褐色
(PL28) 2	小型壺	体部 底部	突出する平底	ナデ	ヘラナデ	底径 4.0cm
				ナデ	ナデ	茶褐色焼付着
(PL28) 3	高壺	壺部 体部	口縁部 崎曲外反する 端部 まるい	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 20.2cm
				タタキ後ナデ	ヘラナデ	暗茶褐色
(PL28) 4	高壺	壺部 脚部	底部 柱部 中空 脚部 内寄ぎみに聞く 三方に円孔	ヘラミガキ ヘマミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ナデしばり目 ヘラナデ 指頭痕	底径 14.0cm 暗茶褐色
				端部ヨコナデ		

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL28) 5	壺	口縁部	外反する 端部 外傾する面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 14.3cm 淡茶褐色
(PL28) 6	壺	口縁部	外反する 端部 尖る	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 14.0cm 赤褐色
(PL28) 7	壺	底 部	突出ぎみ平底	ナデ	ヘラナデ	底径 2.8cm 淡褐色
(PL28) 8	壺	底 部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.2cm 灰褐色 煤付着
(PL28) 9	壺	底 部	突出ぎみ平底	タタキ	ナデ	底径 4.2cm 赤褐色
(PL28) 10	壺	底 部	突出ぎみ平底	ナデ	ヘラナデ	底径 3.8cm 淡茶褐色
(PL28) 11	壺	底 部	突出ぎみ平底	ナデ	ヘラナデ	底径 3.8cm 淡褐色
(PL28) 12	壺	底 部	突出ぎみくぼみ底	ナデ 指頬痕	ヘラナデ	底径 4.4cm 淡茶褐色

## SK 3

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL28) 1 (SK 3)	壺	口縁部	外反する 端部 外傾する面をもつ	ヨコナデ 下部 ヘラオ サエ	不明	口径 13.4cm 淡赤褐色

## SK 4

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL28) 2 (SK 4)	高壺	脚 部	なだらか	ハケナデ	ナデ	底径 13.6cm 淡黄褐色
(PL28) 3 (SK 4)	小型壺	底 部	突出ぎみ平底	ヘラナデ	ヘラナデ	底径 3.4cm 淡黄褐色

## SK 5

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL28) 4	片口鉢 (図版25) 42	口縁部 体 部	外反する 注ぎ口をもつ 端部 外側に面をもつ 半球形で下にすぼむ	ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 26.2cm 淡黄褐色

## SK 7

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL28) 5	甕  (図版25) 43	口縁部	まっすぐ 端部 まるい	ヨコナデ	ハケナデ後 ヨコナデ	口径 15.2cm
		体部	卵球形	タタキ後 ハケナデ	ヘラケズリ	器高 19.7cm
		底部	小さな平底	タタキ	ヘラケズリ	底径 2.5cm 赤褐色 煤付着

## SK 8

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL28) 6	高壺	壺部	口縁部 屈曲外反する 端部 外側に面をもつ 底部 浅く内脣する	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 27.0cm 茶褐色
(PL28) 7	甕	体部 底部	突出ぎみ平底	タタキ ユビナデ	ヘラナデ ヘラナデ	底径 4.6cm 淡褐色
(PL28) 8	甕	底部	突出するくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.4cm 暗赤褐色
(PL28) 9	甕  (図版25) 44	口縁部	外反する	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.6cm
		端部	上につまむ			器高 16.2cm
		体部 底部	球形 突出するくぼみ底	タタキ タタキ	ヘラナデ ヘラナデ	底径 3.5cm 茶褐色
(PL28) 10	手培り型 土器  (図版25) 45	天井部	内脣して高い	ヘラナデ	ヘラナデ	口径 17.0cm
		口縁部	内脣ぎみ	ヨコナデ	ヨコナデ	淡褐色
		体部	端部 上につまむ 扁球形 下部の突帯に刻み目を 有する	ヨコナデ	ヘラナデ	

## SK 13

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL29) 1	环蓋  (図版25) 46	天井部	平たく内脣する	回転ヘラケズ リ	回転ナデ	口径 15.0cm
		口縁部	垂直に下がる 端部 内側に面をもつ	回転ナデ	回転ナデ	器高 5.0cm 淡灰色
(PL29) 2	环身  (図版25) 47	口縁部	内傾する 端部 垂直にたらあが り丸い	回転ナデ	回転ナデ	口径 14.5cm
		受部 底部	ななめ上方にのびる 内脣する	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ 回転ナデ	器高 4.8cm

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL29) 3	环身 (図版25) 48	口縁部 受部 底部	内傾する 端部 まるい 水平にのびる 内彎する	回転ナデ 回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	口径 14.5cm 器高 4.6cm 黄褐色
(PL29) 4	环身 (図版25) 49	口縁部 受部 底部	内傾する 端部 垂直にたちあがり尖る 水平にのびる 内彎する	回転ナデ 回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	口径 13.4cm 器高 4.6cm 淡灰色
(PL29) 5	环蓋 (SK13) (図版25) 50	天井部 口縁部	内彎する 垂直に下がる 端部 内側に沈線をもつ	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	口径 14.5cm 器高 4.6cm 淡灰色

SK14

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL29) 6	台付鉢	脚台部	ハの字に開く	タタキ	ハケナデ	底径 8.6cm 茶褐色

SK15

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL29) 1	壺	口縁部 体部 底部	外反する 端部 外側に面をもつ 球形 突出するくぼみ底	ヨコナデ ヘラミガキ ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 18.0cm 底径 6.0cm 淡赤褐色 煤付着
(PL29) 2	高環	环部 脚部	口縁部 扇曲外反する 端部 上につまむ 柱部 中空 脚部 扇曲して開く 四方に円孔	ヘラミガキ ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ しづり目 ヘラナデ	口径 19.8cm 器高 14.0cm 淡赤褐色
(PL29) 3	高环	环部	口縁部 扇曲外反する 端部 外側に面をもつ 底部 浅く内彎する	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 21.8cm 赤褐色
(PL29) 4	壺	底部	突出ぎみくぼみ底	ヘラミガキ	ヘラミガキ	底径 5.0cm 淡褐色
(PL29) 5	台付鉢	脚台部	ハの字に開く	ヘラミガキ	ヘラナデ	底径 5.0cm 黄褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL29) 6	壺	口縁部 端部	外反する 垂下する	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	口径 13.8cm 淡黄褐色
(PL29) 7	甕	口縁部 体部 (図版26) 底部	内脣ぎみ 端部 つまみ上げる 半球形 突出するくぼみ底	ヨコナデ タタキ 指頬痕	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 14.0cm 器高 11.0cm 底径 5.0cm 淡黄褐色 煤付着
(PL29) 8	甕	口縁部 体部 (図版26) 底部	外反する まるい 卵球形 突出する平底	ヨコナデ タタキ 指頬痕	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 14.4cm 器高 16.0cm 底径 5.0cm 淡赤褐色
(PL29) 9	甕	口縁部 (図版26) 体部	外反する 上につまむ 卵球形	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 15.8cm 黄褐色
(PL29) 10	甕	口縁部 体部	まっすぐ 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 14.8cm 淡赤褐色
(PL29) 11	甕	口縁部 体部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 17.0cm 淡赤褐色 煤付着
(PL29) 12	甕	口縁部 端部	外反する まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 17.8cm 淡黄褐色
(PL29) 13	甕	口縁部 体部	外反する まるい 卵球形	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ハケナデ	口径 12.0cm 黄褐色
(PL30) 14	甕	口縁部 体部	外反する つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 15.4cm 赤褐色 煤付着
(PL30) 15	甕	口縁部 体部	外反する 上につまむ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 16.0cm 淡赤褐色
(PL30) 16	甕	口縁部 体部	外反する 上につまむ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 14.0cm 灰褐色
(PL30) 17	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.3cm 赤褐色
(PL30) 18	有孔鉢	体部 底部	突出ぎみ平底	タタキ タタキ	ヘラナデ ヘラナデ	底径 3.2cm 黄褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL30) 19	甕	底 部	突出ぎくぼみ底	タタキ ナデ	ヘラナデ	底径 4.8cm 淡赤褐色
(PL30) 20	甕	底 部	突出しない平底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.6cm 赤褐色
(PL30) 21	甕	底 部	突出ぎみ平底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡赤褐色
(PL30) 22	甕	底 部	突出しない平底	ハケナデ	ヘラナデ	底径 3.2cm 黄褐色 煤付着

### SK16

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL30) 1	甕 (SK16) (図版26) ( 54 )	口縁部 体 部	外反する 端部 まるい 卵球形	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 13.0cm 淡赤褐色
(PL30) 2	小型甕 ( SK16 )	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 まるい 外側に沈線 半球形	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	口径 9.2cm 淡褐色
(PL30) 3	甕 ( SK16 )	底 部	突出するくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.8cm 淡赤褐色

### SK17

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL30) 4	甕 (図版26) ( 55 )	口縁部 体 部 底 部	外反する 端部 上につまむ 球形 突出ぎみ平底	ヨコナデ タタキ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 14.4cm 器高 12.1cm 淡赤褐色 煤付着
(PL30) 5	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 14.4cm 器高 12.1cm 赤褐色
(PL30) 6	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 上につまむ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 16.4cm 淡褐色
(PL30) 7	甕	口縁部	外反する 端部 外傾する面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.4cm 淡褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL30) 8	壺	口縁部	外反する 端部 垂下する	ヘラミガキ ヨコナデ	ヨコナデ	口径 22.0cm 淡黄褐色
(PL30) 9	鉢	底部 体部	突出するくぼみ底	指頭痕 ナデ	ナデ ヘラナデ	底径 3.8cm 淡褐色
(PL30) 10	甕	底部	突出するくぼみ底	タタキ 指頭痕	ヘラナデ	底径 4.6cm 黄褐色

## SK23

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL30) 11	取手付鉢	体部 底部	角形の取手をもつ 平たい底	ユビナデ ヘラナデ	ヘラナデ ヘラナデ	底径 8.0cm 淡赤褐色

## SK24

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL30) 1	壺	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ	ハケナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 11.8cm 暗褐色
(PL30) 2	小型壺	底部	突出しない平底	ヘラミガキ ヘラケズリ	ヘラナデ	底径 2.2cm 淡赤褐色
(PL30) 3	鉢	口縁部 体部	まっすぐ 端部 外傾する面をもつ	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 19.8cm 灰褐色
(PL30) 4	甕 (図版26) 56	口縁部 体部	まっすぐ 端部 段をもってつま み上げる	ヨコナデ 下位にハケナデ タタキ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 17.0cm 赤褐色
(PL30) 5	甕	口縁部 体部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ ヘラナデ	ヨコナデ 指頭痕後ナデ	口径 14.8cm 淡赤褐色
(PL30) 6	甕	口縁部 体部	外反する 端部 つまみ上げる	指頭痕後ナデ タタキ	ナデ ヘラケズリ	口径 13.5cm 淡黄褐色
(PL31) 7	甕	口縁部 体部	まっすぐ 端部 外傾する面をもつ	ナデ タタキ	ナデ ナデ	口径 15.0cm 淡茶褐色
(PL31) 8	甕	口縁部 体部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 14.4cm 茶褐色

番号	器 種 固版番号	部 位	形 態	外 面 調 整	内 面 調 整	備 考
(PL31) 9	腰	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 まるい	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 12.1cm 灰褐色
(PL31) 10	腰	口縁部 体 部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 15.8cm 乳褐色
(PL31) 11	腰	口縁部 体 部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ 下位 ハケナデ タタキ	ヨコナデ ナデ	口径 15.8cm 淡赤褐色
(PL31) 12	腰	底 部	突出ぎみ平底	ナデ	不明	底径 4.0cm 乳褐色
(PL31) 13	腰	底 部	突出しない平底	タタキ	ナデ	底径 3.4cm 淡黄褐色
(PL31) 14	腰	底 部	突出ぎみ平底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡黄褐色
(PL31) 15	腰	底 部	突出ぎみ平底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.6cm 淡黄褐色
(PL31) 16	腰	底 部	突出しない平底	タタキ	ヘラナデ 指頭痕	底径 3.6cm 赤褐色 煤付着
(PL31) 17	腰	底 部	突出ぎみ平底	タタキ	ヘラナデ	底径 3.8cm 乳褐色
(PL31) 18	腰	底 部	突出するくぼみ底	ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	底径 3.2cm 茶褐色
(PL31) 19	腰	底 部	突出するくぼみ底	ナデ 指頭痕	ナデ	底径 4.0cm 暗褐色
(PL31) 20	腰	底 部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡赤褐色
(PL31) 21	腰	底 部	突出ぎみくぼみ	タタキ 指頭痕	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡赤褐色
(PL31) 22	腰	底 部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.0cm 乳褐色
(PL31) 23	腰	底 部	突出する平底	ナデ 指頭痕	ナデ	底径 3.5cm 淡褐色
(PL31) 24	腰	底 部	突出する平底	ナデ	ヘラナデ	底径 4.0cm 暗茶褐色
(PL31) 25	腰	底 部	突出する平底	タタキ ユビナデ	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡赤褐色

番号	器 種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL31) 26	壺	底部	突出する平底	タタキ	ナデ	底径 4.0cm 淡赤褐色

S K 28

番号	器 種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL31) 1	壺 (図版26) 57	口縁部 体部 底部	外反する 端部 まるい 卵球形 突出するくぼみ底	ヨコナデ タタキ後 ハケナデ ハケナデ	ヨコナデ ハケナデ 口縁近く指頭痕 指頭痕	口径 15.0cm 器高 30.7cm 底径 6.0cm 淡赤褐色 煤付着
(PL31) 2	壺 (図版27) 58	口縁部 体部 底部	内寄ぎみ 端部 まるい 偏球形 突出しない平底	ヘラミガキ ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラナデ ヘラナデ	口径 9.0cm 器高 15.2cm 底径 3.5cm 黄褐色
(PL31) 3	壺	体部 底部	偏球形 突出する平底	タタキ後 ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラナデ ヘラナデ	底径 4.0cm 淡黄褐色
(PL32) 4	壺	体部 底部	偏球形 突出ぎみの平底	タタキ後 ヘラミガキ ヘラナデ	上位 指頭痕 ヘラナデ ヘラナデ	底径 4.4cm 淡黄褐色
(PL32) 5	高 壱	壺 部	口縁部 扁曲まっすぐ のびる 端部 尖る 底部 平たい	ヨコナデ ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラミガキ	口径 16.0cm 淡褐色
(PL32) 6	高 壱 (図版27) 59	壺 部 脚 部	口縁部 弧曲内寄する 端部 まるい 底部 浅く内寄する 柱部 中空	ヨコナデ ナデ ナデ	ヨコナデ ナデ ナデ	口径 12.8 淡赤褐色
(PL32) 7	高 壱 (図版27) 60	壺 部 脚 部	底部 平坦 柱部 中空 壠部 なだらか 四方に円孔	ヘラミガキ ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ナデ ヨコナデ	底径 5.2cm 淡赤褐色
(PL32) 8	高 壱	脚 部	柱部 中空で短い 壠部 弧曲して開く 四方に円孔	不明 ヘラミガキ	ヘラによるく りぬき ヘラミガキ	底径 10.0cm 淡灰褐色
(PL32) 9	壺 (図版27) 61	口縁部 体 部 底部	彎曲する 端部 尖る 半球形 小さな平底	ヨコナデ タタキ ハケナデ	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 11.2cm 器高 9.9cm 底径 1.5cm 灰褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL32) 10	瓶	口縁部 体 部 底 部	脇曲する 端部 まるい 半球形  尖り気味丸底	ヨコナデ 上位 ハケナ デ ヘラナデ	ヨコナデ 不明 ヘラナデ	口径 9.4cm 器高 8.0cm 淡赤褐色
(PL32) 11	手培り型 土 器	体 部	突帯に刻み目をもつ	ナデ	ナデ	淡褐色
(PL32) 12	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 まるい 半球形	ヨコナデ後 ハケナデ タタキ後 ハケナデ	ナデ ナデ ヘラナデ	口径 15.0cm 器高 24.0cm 乳褐色
(図版27) 62		底 部	突出しない平底	タタキ	上位 指頭痕 ヘラナデ	
(PL32) 13	甕	口縁部 (図版27) 63	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ後 ハケナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 15.0cm 乳褐色
(PL32) 14	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 外に肥厚する	ヨコナデ タタキ後 ハケナデ	ハケナデ ヘラケズリ	口径 16.5cm 暗茶褐色
(PL32) 15	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 17.0cm 暗灰褐色
(PL32) 16	甕	口縁部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ	ナデ	口径 17.0cm 淡赤褐色
(PL32) 17	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ	ハケナデ ヘラケズリ	口径 13.0cm 暗茶褐色
(PL32) 18	甕	口縁部 (図版27) 64	まっすぐ 端部 つまみ上げる	ヨコナデ タタキ後 ハケナデ	ヨコナデ 下位 ハケナデ ヘラケズリ	口径 15.0cm 暗灰褐色
(PL32) 19	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 つまみ上げる	タタキ後 ヨコナデ タタキ	ナデ ナデ	口径 17.6cm 淡褐色
(PL32) 20	壺	底 部	突出ぎみ平底	ヘラナデ	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡赤褐色
(PL32) 21	甕	底 部	突出ぎみくぼみ底	ハケナデ	ヘラナデ	底径 3.6cm 灰褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL32) 22	管状土錐 (図版27) 65		円筒形で、中心に孔が貫通している	手づくね		長さ 7.5cm 直径 2.6cm 灰褐色
(PL32) 23	管状土錐 (図版27) 65		円筒形で、中心に孔が貫通している	手づくね		長さ 7.5cm 直径 2.5cm 灰褐色

S K 29

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL33) 1	甕	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ 外側に沈線	ヨコナデ	ヘラミガキ	口径 16.4cm 淡黄褐色
(PL33) 2	甕	口縁部	外反する 端部 外傾する面をもつ 外側に沈線	ハケナデ後 ヨコナデ	ヨコナデ	口径 16.4cm 淡赤褐色
(PL33) 3	高杯	杯部	口縁部 扇曲内彎する 端部 まるい 底部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 10.2cm 淡褐色
(PL33) 4	高杯	杯部	口縁部 扇曲内彎する 端部 まるい 底部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 16.2cm 淡褐色
(PL33) 5	甕	口縁部 体部	外反する 端部 上につまむ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.0cm 淡赤褐色
(PL33) 6	甕	口縁部 体部	外反する 端部 上につまむ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 16.2cm 灰褐色
(PL33) 7	甕	口縁部 体部	外反する 端部 まるい	タタキ	ヘラナデ	口径 13.8cm 淡褐色
(PL33) 8	甕	口縁部 体部	外反する 端部 上につまむ外側 に沈線	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 17.0cm 淡黄褐色
(PL33) 9	甕	口縁部 体部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 13.0cm 淡赤褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL33) 10	壺	口縁部 体部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ 口縁下部指頭痕 タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 13.6cm 灰褐色
(PL33) 11	壺	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ナデ	底径 4.0cm 淡赤灰色 煤付着
(PL33) 12	ミニチュア壺	底部	突出ぎみ半底	タタキ	ナデ	底径 2.0cm 赤褐色
(PL33) 13	壺	底部	突出しない半底	不明	ヘラナデ	底径 3.6cm 黄褐色

### S K 32

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL33) 1	壺	口縁部 体部 球形		ヨコナデ ヘラナデ	ヨコナデ 指頭痕	底径 2.4cm 淡赤褐色
(図版28) 66		底部	丸底		ヘラナデ ヘラナデ	

### 河道

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL33) 1	高杯	杯部	口縁部 屈曲外反する 端部 まるい 外側に沈線 底部	ヨコナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 20.0cm 淡黄褐色
(PL33) 2	高杯	脚部	柱部 短く中空 底部 屈曲して内弯ぎ みに開く	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラによる くりぬき ハケナデ	底径 13.6cm 赤褐色
(PL33) 3	壺	体部 底部	突出ぎみ平底	タタキ 指頭痕	ヘラナデ ヘラナデ	底径 3.2cm 淡茶褐色

### S P

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL34) 1	台付鉢 (SP48)	脚台部	ハの字に開く	ナデ	ヘラナデ 指頭痕	底径 6.9cm 黄褐色
(PL34) 2	高杯 (SP57)	脚部	なだらかに開き、端部 回転ナデ 近くで内弯する	回転ナデ		底径 11.0cm 黄灰名
(PL34) 3	小型壺 (SP65)	底部	突出ぎみ平底	ヘラミガキ	ヘラナデ	底径 3.4cm 乳褐色
(PL34) 4	壺 (SP69)	口縁部	まっすぐ 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	底径 3.4cm 暗茶褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL34) 5	壺 (SP76)	口縁部	外反する	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 13.0cm 暗茶褐色
(PL34) 7	甕 (SP90)	底 部	突出ぎみくぼみ底	ナデ	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡赤褐色
(PL34) 8	甕 (SP90)	口縁部 体 部	外反する 端部 尖る	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 13.8cm 黄褐色
(PL34) 9	甕 (SP92)	底 部	突出する平底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡赤褐色
(PL34) 10	甕 (SP119)	底 部	突出する平底	タタキ後ナデ	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡茶褐色
(PL34) 11	小型壺 (SP140) (図版28) 67	口縁部 体 部 底 部	まっすぐ 端部 尖る 球形	ナデ ナデ 指頭痕	ナデ ユビナデ ユビナデ	口径 9.3cm 器高 7.8cm 暗茶褐色
(PL34) 12	高 壱 (SP140)	脚 部	柱部 中空 柄部 扉曲して開く 四方以上の円孔	ヘラミガキ ヘラミガキ	ナデ ヘラミガキ	底径 16.0cm 淡褐色
(PL34) 13	甕 (SP140)	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 外側に沈線	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラケズリ	口径 15.6cm 赤褐色
(PL34) 14	壺 (SP140)	口縁部	まっすぐ	ハケナデ	ハケナデ	口径 14.0cm 淡褐色
(PL34) 15	甕 (SP140)	底 部	まるい	ヨコナデ	ヘラナデ	底径 3.0cm 茶褐色
(PL34) 16	甕 (SP140)	底 部	突出しない平底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.0cm 乳褐色
(PL34) 17	甕 (SP140)	底 部	突出ぎみ平底	ハケナデ 指頭痕	ヘラナデ 指頭痕	底径 4.6cm 灰褐色
(PL34) 18	台付甕 (SP140)	脚台部	ハの字に開く	タタキ	ヘラナデ	底径 8.0cm 灰褐色
(PL34) 19	台付鉢 (SP142)	脚台部	ハの字に開く 端部 まるい	ヨコナデ ナデ	ナデ	底径 8.6cm 淡茶褐色
(PL34) 20	壺 盖 (SP143)	天井部 口縁部	高く内寄する まっすぐさがる 端部 まるい	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ 回転ナデ	底径 12.8cm 淡灰色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL34) 21	壺 (SP140)	口縁部	外反する 端部 上につまむ	ヨコナデ 一部ハケナデ	ヨコナデ ナデ	口径 15.0cm 黄褐色
(PL34) 22	壺 (SP162)	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヘラミガキ	ヨコナデ 竹管刺突文	口径 13.0cm 赤褐色
(PL34) 23	壺 (SP164)	底 部	突出するくぼみ底	タタキ ナデ	ナデ	底径 4.6cm 淡赤褐色
(PL34) 24	壺 (SP178) (図版28) 68	口縁部 体 部 底 部	外反する 端部 まるい 卵球形 突出ぎみくぼみ底	ヨコナデ タタキ タタキ	ヨコナデ ナデ 指頭痕 ナデ	口径 16.8cm 器高 26.0cm 淡茶褐色
(PL34) 25	环 身 (SP180)	口縁部 受 部 底 部	内傾する 端部 まるい 水平にのびる 浅く平坦に近い	回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	口径 12.4cm 淡灰色
(PL34) 26	壺 (SP212)	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ ユビナデ	ヨコナデ	口径 14.4cm 暗茶褐色
(PL34) 27	高 环 (SP212)	脚 部	柱部 中空 裾部 なだらか 三方に孔	ヘラミガキ ヘラミガキ	しばり日 ナデ	底径 8.8cm 淡黄褐色
(PL34) 28	壺 (SP218)	底 部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ナデ	底径 4.6cm 淡赤褐色
(PL34) 29	高 环 (SP263)	脚 部	柱部 中空 裾部 なだらか	ヘラナデ後 ハケナデ ユビナデ	しばり目	底径 11.2cm 淡赤褐色
(PL34) 30	壺 (SP261)	口縁部 体 部 底 部	まっすぐ 端部 まるい 卵球形 突出する平底	ヨコナデ ハケナデ ナデ	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 14.8cm 器高 17.8cm 赤褐色

#### A区 包含層

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL35) 1	壺 (図版28) 69	口縁部	複合口縁 竹管浮文	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 26.0cm 淡赤褐色
(PL35) 2	壺 (図版28) 70	口縁部	複合口縁 端部 竹管刺突文 屈曲部 刻み目	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	口径 13.0cm 淡赤褐色
(PL35) 3	壺	口縁部	外反ぎみ 端部 尖る	ハケナデ 指頭痕	ハケナデ 指頭痕	口径 9.6cm 淡褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL35) 4	高 壕	环 部	口縁部 屈曲外反する 端部 まるい 底部 半たい	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 31.0cm 淡赤褐色
(PL35) 5	高 壕	环 部	口縁部 外反する 端部 まるい 底部 深く内側する	ヨコナデ ハケナデ	ハケナデ後 ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 20.0cm 淡赤褐色
(PL35) 6	高 壕	环 部	口縁部 屈曲外反する 端部 外側に面をもつ 底部 内側する	ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 16.4cm 黄褐色
(PL35) 7	高 壕	脚 部	裾部 なだらか	不明	不明	底径 14.4cm 淡褐色
(PL35) 8	高 壕	环 部	口縁部 外反する 端部 まるい 底部 浅く内側する	ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 20.6cm 茶褐色
(PL35) 9	甕	口縁部 体 部	まっすぐ 端部 まるい	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ	口径 15.8cm 淡黄褐色
(PL35) 10	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ 一部ハケナデ タタキ	ヨコナデ ヘラナデ	口径 15.6cm 暗茶褐色
(PL35) 11	甕	口縁部 体 部	外反する 端部 上につまむ	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ	口径 13.0cm 黄褐色
(PL35) 12	甕	口縁部 端部	外反する 外側に面をもつ	ハケナデ後 ヨコナデ	ハケナデ後 ヨコナデ	口径 12.0cm 灰褐色
(PL35) 13	甕	底 部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ナデ 指痕	底径 5.6cm 淡黄褐色
(PL35) 14	甕	底 部	くぼみ底	タタキ	ナデ	底径 4.2cm 乳褐色
(PL35) 15	甕	底 部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ナデ	底径 4.4cm 茶褐色
(PL35) 16	甕 (図版28) 71	体 部	球形	上部 タタキ 後ナデ 下部 タタキ ユビナデ	ヘラナデ	底径 5.2cm 淡茶褐色
(PL35) 17	甕	底 部	突出する平底	ヘラケズリ	ナデ	底径 5.2cm 暗茶褐色
(PL35) 18	甕	底 部	突出するくぼみ底	タタキ	ナデ	底径 4.4cm 暗赤褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL35) 19	甕	底部	突出する平底	タタキ	ナデ	底径 5.4cm 茶褐色
(PL35) 20	甕	底部	突出しないくぼみ底	タタキ	ナデ	底径 4.0cm 淡褐色
(PL35) 21	甕	底部	突出する平底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.2cm 黄褐色
(PL35) 22	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	ヘラナデ	ヘラナデ	底径 3.4cm 淡赤褐色

B区 包含層

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL36) 1	壺	口縁部 体部 (図版28) 72	偏球形 円孔をもつ 丸底	カキメ 回転ナデ 回転ヘラケズリ 回転ヘラケズリ	回転ナデ 回転ナデ 回転ヘラケズリ 回転ヘラケズリ	口径 不明 濃灰色 底にヘラ記号 自然釉付着
(PL36) 2	壺	体部 底部	小さな平底	タタキ後 ハケナデ ハケナデ後 ヘラミガキ	ヘラナデ ヘラナデ	底径 3.6cm 淡赤褐色
(PL36) 3	壺	口縁部 体部 (図版29) 73	外反する 端部 外側に面をもつ 球形 突出ぎみのくぼみ底	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	ヨコナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 12.0cm 器高 18.0cm 底径 4.2cm
(PL36) 4	有孔鉢	口縁部 体部 底部	まっすぐ 端部 尖る 半球形 突出ぎみの平底	ナデ ナデ ナデ	ナデ ナデ ナデ	口径 17.8cm 器高 9.5cm 底径 4.4cm 黄褐色
(PL36) 5	鉢	口縁部 体部 (図版29) 74	屈曲する 端部 まるい 半球形	ヨコナデ 口縁近くに指 頭痕 ヘラミガキ 指頭痕	ヨコナデ ナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 14.6cm 器高 10.0cm 底径 4.0cm 茶褐色
(PL36) 6	鉢	口縁部 (図版29) 75	屈曲する 端部 外傾する面をもつ 半球形 突出するくぼみ底	ハケナデ後 ヨコナデ ハケナデ ナデ	ヘラミガキ ヘラナデ ヘラナデ	口径 17.0cm 器高 9.0cm 底径 3.5cm 淡赤褐色
(PL36) 7	鉢	口縁部 (図版29) 76	内凹ぎみ 端部 尖る 半球形 突出しないくぼみ底	ヨコナデ ナデ ナデ	ヘラミガキ ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 12.0cm 器高 6.0cm 底径 2.0cm 淡黄褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL36) 8	鉢	口縁部	屈曲する 端部 外傾する面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 32.0cm 淡褐色
		体 部		ヘラミガキ	不明	
(PL36) 9	鉢	口縁部	屈曲する 端部 尖る	ナデ	ハケナデ	口径 12.8cm
		体 部	半球形	ナデ	ハケナデ	器高 7.7cm
		底 部	突出ぎみのくぼみ底	指頭痕	ヘラナデ	底径 4.0cm
(PL36) 10	台付鉢	台 部	ハの字に開く	ハケナデ後 ヨコナデ	ユビナデ ヨコナデ	底径 10.0cm 黄褐色
(PL36) 11	高 环	脚 部	柱部 中空	ヘラケズリ後 ヨコナデ	しばり目	底径 10.0cm
		裾部	屈曲して開く		指頭痕	淡褐色
(PL36) 12	高 环	脚 部	柱部 中空	ヘラミガキ	しばり目	底径 11.0cm
		裾部	屈曲して開く	ヘラミガキ	指頭痕	赤褐色
(PL36) 13	高 环	环 部	口縁部 屈曲外反する 端部 外に肥厚する 底部 浅く内凹する	ナデ	ヘラミガキ	口径 21.0cm
	(図版29) 77	脚 部	柱部 中空	ヘラミガキ ヘラミガキ ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ ナデ	茶褐色
(PL36) 14	甕	口縁部	外反する	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 10.0cm
		端部	上につまむ			器高 18.3cm
		体 部	卵球形	タタキ	ヘラナデ	底径 4.8cm
		底 部	突出ぎみのくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	赤褐色
(PL36) 15	甕	口縁部	まっすぐ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 12.8cm
	(図版29) 78	体 部	端部 外側に面をもつ	タタキ	ヘラナデ	器高 14.2cm
		底 部	卵球形	タタキ	指頭痕	底径 4.0cm
			突出ぎみの平底			淡茶褐色
(PL36) 16	高 环	脚 部	柱部 中空	ヘラミガキ	しばり目	底径 13.6cm
		裾部	屈曲して開く	ヘラミガキ	ハケナデ	淡赤褐色
			四方に円孔			
(PL37) 17	甕	口縁部	外反する	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.0cm
		端部	外側に面をもつ			器高 22.0cm
		体 部	卵球形	タタキ	ヘラナデ	底径 4.0cm
	(図版29) 79	底 部	突出する平底	タタキ	ヘラナデ	淡黄褐色
(PL37) 18	甕	口縁部	外反する	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.4cm
	(図版30) 80	端部	端部 外側に面をもつ 外間に沈線			黄褐色
		体 部		タタキ	ヘラナデ	

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL37) 19	甕	口縁部	外反する 端部 上につまむ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 12.8cm 暗赤褐色 煤付着
		体 部	卵球形	タタキ	ヘラナデ	
(PL37) 20	甕	口縁部	まっすぐ 端部 上につまむ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 18.6cm 淡茶褐色
		体 部		タタキ	ヘラナデ	
(PL37) 21	甕	口縁部	外反する 端部 外傾する面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 12.2cm 淡褐色
		体 部		タタキ	ナデ	
(PL37) 22	甕	口縁部	外反する	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 17.0cm 淡黄褐色
		体 部	端部 外側に面をもつ	タタキ	ナデ	
(PL37) 23	甕	口縁部	まっすぐ 端部 上につまむ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 16.4cm 淡赤褐色
		体 部		タタキ	ナデ	
(PL37) 24	甕	体 部	ふくらむ	タタキ後 ヘラナデ	ヘラナデ	底径 3.5cm 淡黄褐色
		底 部	突出ぎみの平底	ヘラナデ	ヘラナデ	
(PL37) 25	甕	口縁部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 18.0cm 淡赤褐色
		体 部		ナデ	ナデ	
(PL37) 26	甕	口縁部	外反する 端部 外傾する面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.0cm 淡赤褐色
(PL37) 27	甕	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.0cm 淡黄褐色
(PL37) 28	甕	口縁部	まっすぐ 端部 外傾する面をもつ	ヨコナデ	ハケナデ	口径 14.0cm 淡黄褐色
(PL37) 29	手培り型 土 器	口縁部	まっすぐ 端部 外傾する面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	底径 6.0cm 淡黄褐色
		体 部	偏球形 下部に突帯をもつ	ハケナデ	ヘラナデ	
		底 部	突出しない平底	ユビナデ ヘラナデ	ヘラナデ	
(PL37) 30	小型甕 (図版30) 82	口縁部	屈曲する 端部 尖る	ヘラナデ	ヘラナデ	口径 9.4cm 器高 7.0cm 底径 5.5cm 淡黄褐色
		体 部	半球形	ナデ	ヘラナデ	
		底 部	突出ぎみ平底	ナデ	ヘラナデ	

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL37) 31	鉢	底 部	突出ぎみのくぼみ底	ナデ ユビナデ	ハケナデ	底径 4.0cm 淡黄褐色
(PL37) 32	小型甕	口縁部 体 部	屈曲する 端部 尖る	ヨコナデ	ナデ	口径 7.2cm 淡黄褐色
(PL37) 33	甕	底 部	突出する平底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡黄褐色
(PL37) 34	甕	底 部	突出するくぼみ底	不明	不明	底径 4.0cm 淡赤褐色

C区 包含層

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL38) 1	壺	口縁部	外反する	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 14.6cm 暗褐色
(PL38) 2	高 壱	脚 部	裾部 なだらか 三方に孔をもつ	ナデ	ヘラナデ	底径 15.8cm 淡赤褐色
(PL38) 3	高 壱	壺 部	口縁部 内側する 端部 まるい 底部 深く内側する	ヨコナデ 一部ハケナデ	ヘラナデ	口径 14.6cm 赤褐色
(PL38) 4	壺	口縁部	外反する 端部 外傾する面をもつ	ヨコナデ後 ヘラミガキ	ヨコナデ	口径 14.6cm 淡褐色
(PL38) 5	甕	口縁部	外反する 端部 外傾する面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 16.6cm 茶褐色
(PL38) 6	高 壱 脚 部	柱部 中空 裾部 屈曲して開く	ナデ ナデ	ヘラによるく りぬき 指頭痕 しばり目		底径 10.4cm 淡赤褐色
(PL38) 7	高 壱	脚 部	裾部 八の字に開く 四方に孔をもつ	ヘラナデ	しばり目 ヘラナデ	底径 12.0cm 淡褐色
(PL38) 8	壺	底 部	突出ぎみくぼみ底	ヘラミガキ 下部ナデ	ナデ	底径 4.6cm 淡赤褐色
(PL38) 9	鉢	口縁部 体 部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ 一部ハケナデ ナデ	口径 27.4cm 赤褐色
(PL38) 10	鉢	口縁部	屈曲する 端部 上につまむ	ヘラナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 18.4cm 黄褐色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL38) 11	壺	底部	突出する平底	ナデ 指頭痕	不明	底径 5.0cm 淡灰褐色
(PL38) 12	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.2cm 灰褐色
(PL38) 13	甕	口縁部 体部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 18.0cm 淡灰褐色
(PL38) 14	甕	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 15.5cm 淡黄褐色
(PL38) 15	甕	底部	突出ぎみ平底	ヘラナデ	ナデ	底径 4.4cm 赤褐色
(PL38) 16	甕	底部	突出する平底	指頭痕	ヘラナデ	底径 3.0cm 淡灰褐色
(PL38) 17	鉢	底部	突出する平底	タタキ 指頭痕	ヘラナデ	底径 3.6cm 淡赤褐色
(PL38) 18	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	ヘラナデ	ヘラナデ	底径 4.2cm 灰褐色
(PL38) 19	甕	底部	突出しない平底	ヘラナデ	ナデ	底径 3.6cm 暗褐色
(PL38) 20	甕	底部	突出ぎみ平底	タタキ 指頭痕	ヘラナデ	底径 4.4cm 淡赤褐色
(PL38) 21	甕	底部	突出ぎみ平底	タタキ 指頭痕	ヘラナデ	底径 4.4cm 灰褐色

#### D区 包含層

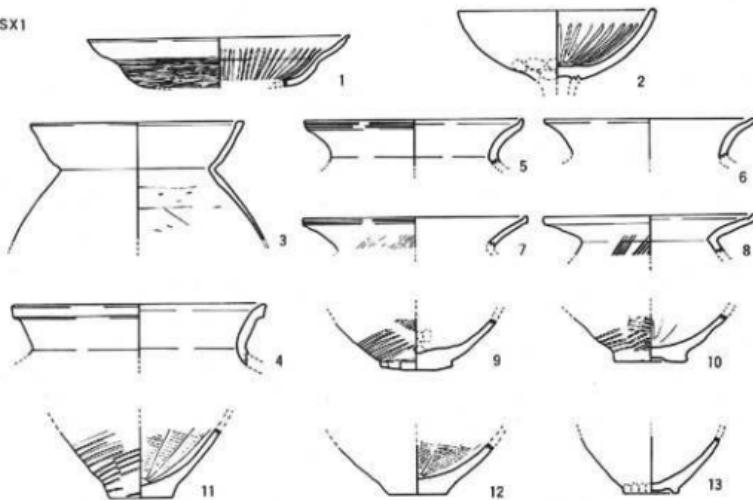
番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL38) 1	壺 (図版30) 83	口縁部 体部	外反する 端部 外に肥厚する	回転ナデ	回転ナデ	口径 24.0cm 淡灰色
(PL38) 2	提瓶 (図版30) 84	口縁部 体部		平行タタキ後 カキメ	同心円タタキ	口径 不明 淡灰色
(PL38) 3	蓋 (図版30) 85	天井部 口縁部	なだらかに下がる 端部 まるい つまみをもつ 垂直に下がる 端部 まるい	回転ナデ 回転ナデ	ユビナデ 回転ナデ	口径 14.8cm 淡灰色

番号	器種 図版番号	部位	形態	外而調整	内面調整	備考
(PL38) 4	坏身	口縁部 受部 底部	内傾する 端部 立ち上がる 水平にのびる 浅く平ら	回転ナデ 回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	口径 12.4cm 青灰色
(PL39) 5	壺坏	大井部 口縁部 (図版30) (86)	浅く内寄ぎみ 内寄ぎみ 端部 まるい	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ 回転ナデ	底径 11.0cm 淡灰色 天井部にヘラ 記号
(PL39) 6	椀	口縁部 体部	内傾ぎみ 端部 まるい 内寄する	回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ 回転ナデ	口径 16.6cm 黄灰色
(PL39) 7	高坏	脚部 (図版30) (87)	外反して下がる 端部 外側に面をもつ 中央部と裾部に沈線 三方に細長い長方形の 二段スカシ	回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ 回転ナデ	底径 14.8cm 淡灰色
(PL39) 8	壺	口縁部	外反する 端部 つまみ上げる	ヨコナデ後 ヘラミガキ	ヨコナデ	口径 13.0cm 淡黄褐色
(PL39) 9	鉢	口縁部 体部 底部	屈曲する 端部 上につまむ 半球形	ヨコナデ ヘラミガキ ヘラナデ	ヨコナデ ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 12.0cm 器高 6.9cm 淡褐色
(PL39) 10	壺	体部 底部	下にすばむ 突出する平底	上部ヘラナデ 下部ヘラミガキ ユビナデ	ヘラナデ ヘラナデ	底径 4.8cm 淡赤褐色
(PL39) 11	鉢	体部 底部	半球形 突出ぎみ平底	ヘラミガキ ヘラミガキ	不明 不明	底径 4.0cm 淡赤褐色
(PL39) 12	鉢	口縁部 体部	まっすぐ 端部 まるい 半球形	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	口径 10.6cm 淡赤褐色
(PL39) 13	鉢	口縁部 体部	外傾する 端部 まるい 偏球形	ナデ ナデ・指輪痕	ナデ	口径 11.4cm 淡赤褐色
(PL39) 14	鉢	口縁部 体部	内寄ぎみ 端部 まるい	ヨコナデ ヘラミガキ	ヨコナデ ヘラミガキ	口径 12.0cm 茶褐色
(PL39) 15	台付鉢	脚台部	ハの字に聞く 端部 平坦	ナデ ユビナデ	ナデ	底径 7.2cm 淡赤褐色
(PL39) 16	高坏	坏部	口縁部 外反する 端部 まるい	ヨコナデ後 ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 24.0cm 黄褐色 煤付着

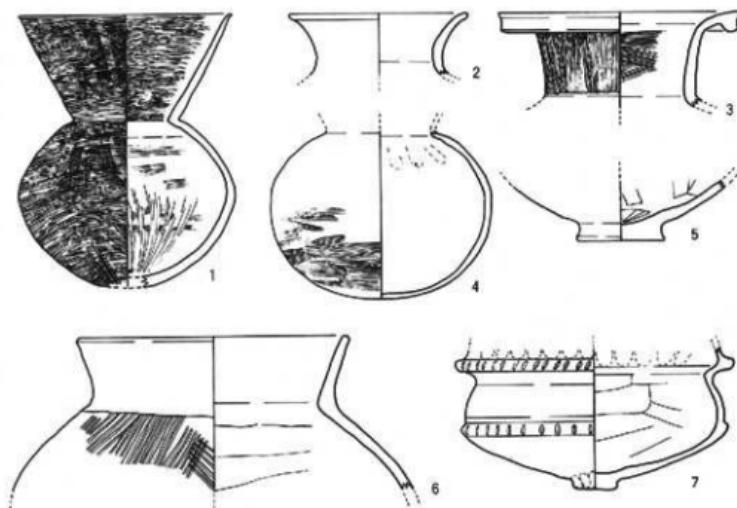
番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL39) 17	高環	环部	口縁部 外反する 端部 まるい 底部 平たい	不明 ヘラミガキ	ヘラミガキ ヘラミガキ	口径 21.0cm 淡茶褐色
(PL39) 18	壺	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ クシによる刺突文	ナデ	ヨコナデ	口径 16.8cm 淡褐色
(PL39) 19	高環	环部	底部 浅く内凹する	ヘラミガキ	ハケナデ後 ヘラミガキ	底径 12.6cm
		脚部	柱部 中空 裾部 なだらか 四方に円孔	ヘラミガキ ヘラミガキ 端部 ナデ	しばり目 ヘラナデ	淡赤褐色
(PL39) 20	高環	脚部	柱部 中空 裾部 凸曲平たい	ハケナデ後 ヘラナデ ナデ	しばり目 ユビナデ	底径 11.0cm 赤褐色
(PL39) 21	甕	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 14.2cm
		体部		タタキ	ヘラナデ	茶褐色
(PL39) 22	甕	口縁部	外反する 端部 外側に面をもつ	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 18.6cm
		体部		タタキ	ナデ	淡赤褐色
(PL39) 23	甕	口縁部	外反する 端部 尖る	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 12.6cm
		体部		ナデ	ナデ	淡赤褐色
(PL39) 24	甕	口縁部	外反する 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 18.8cm
		体部		タタキ後 ヘラナデ	ヘラナデ	暗赤褐色
(PL39) 25	甕	口縁部	まっすぐ 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 12.3cm
		体部		タタキ	ナデ	淡褐色
(PL39) 26	甕	口縁部	短かく外反する 端部 つまみ上げる	ナデ	ナデ	口径 9.0cm
		体部		タタキ後 ハケナデ	ナデ	淡褐色
(PL39) 27	甕	口縁部	まっすぐ 端部 まるい	ヨコナデ	ヨコナデ	口径 23.0cm
		体部				暗茶褐色
(PL39) 28	台付甕	体部	ハの字に開く	タタキ ナデ	ヘラナデ ナデ	底径 6.8cm 淡褐色 煤付着

番号	器種 図版番号	部位	形態	外面調整	内面調整	備考
(PL39) 29	甕	体部 底部	突出するくぼみ底	タタキ後ナデ タタキ	ヘラナデ ヘラナデ	底径 4.4cm 灰褐色 煤付着
(PL39) 30	甕	体部 底部	突出する平底	タタキ後 ヘラナデ タタキ後 ヘラナデ	ヘラナデ ヘラナデ	底径 4.6cm 暗茶褐色
(PL40) 有孔甕 31	有孔甕	体部 底部	突出ぎみ平底 底部に孔をもつ	ナデ ナデ	ヘラナデ ヘラナデ	底径 5.0cm 淡黄褐色
(PL40) 台付甕 32	台付甕	脚内部	ハの字に聞く	タタキ ヨコナデ	ヘラナデ	底径 8.5cm 淡灰褐色
(PL40) 33	鉢	口縁部 体部 底部	内凹する 端部 まるい 半球形 突出するくぼみ底	ナデ ナデ ナデ 指頭痕	ヘラナデ ヘラナデ ヘラナデ	口径 10.6cm 器高 6.0cm 底径 3.2cm
(PL40) 34	甕	底部	突出する平底	ナデ	ヘラナデ	底径 4.0cm 赤褐色
(PL40) 35	小型鉢	口縁部 体部 底部	内凹する 端部 まるい 半球形 突出しないくぼみ底	ナデ ナデ ナデ ナデ	ナデ ナデ ナデ ナデ	口径 10.0cm 器高 5.0cm 底径 2.6cm 淡赤褐色
(PL40) 36	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	ヘラナデ	ヘラナデ	底径 4.2cm 淡赤褐色
(PL40) 37	甕	底部	突出するくぼみ底	ナデ	ヘラナデ	底径 4.0cm 淡灰褐色
(PL40) 38	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.2cm 淡褐色
(PL40) 39	小型壺	体部 底部	不明 突出ぎみ平底	ナデ ナデ	ナデ ナデ	底径 4.0cm 淡赤褐色
(PL40) 40	有孔鉢	底部	とがり底	ナデ	ヘラナデ 指頭痕	底径 1.6cm 赤褐色
(P40) 41	甕	底部	突出ぎみくぼみ底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.4cm 淡褐色
(PL40) 42	甕	底部	突出ぎみ平底	タタキ	ヘラナデ	底径 4.4cm 淡褐色
(PL40) 43	甕	底部	突出するくぼみ底	タタキ 指頭痕	不明	底径 4.2cm 赤褐色

SX1

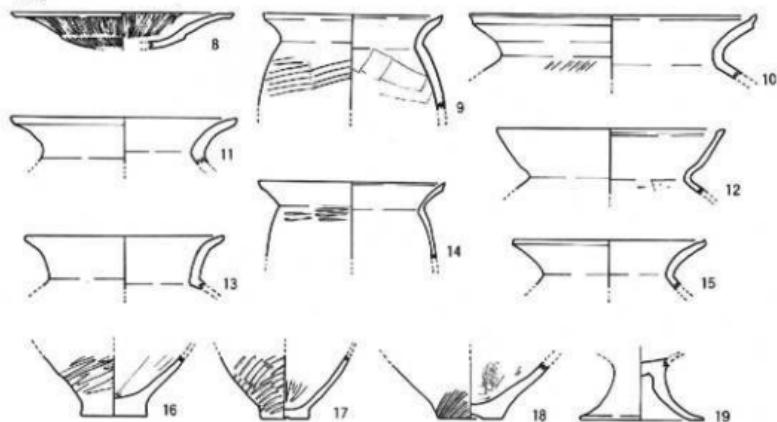


SX2

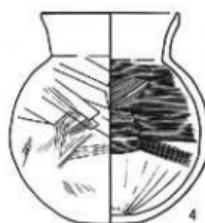
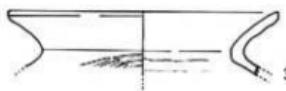
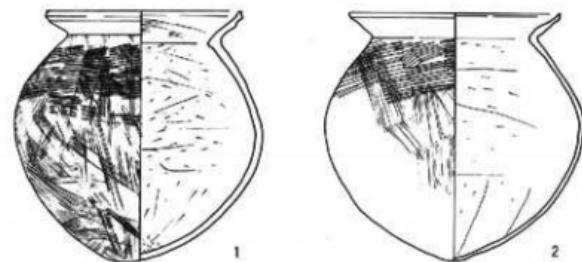


遗物实测图

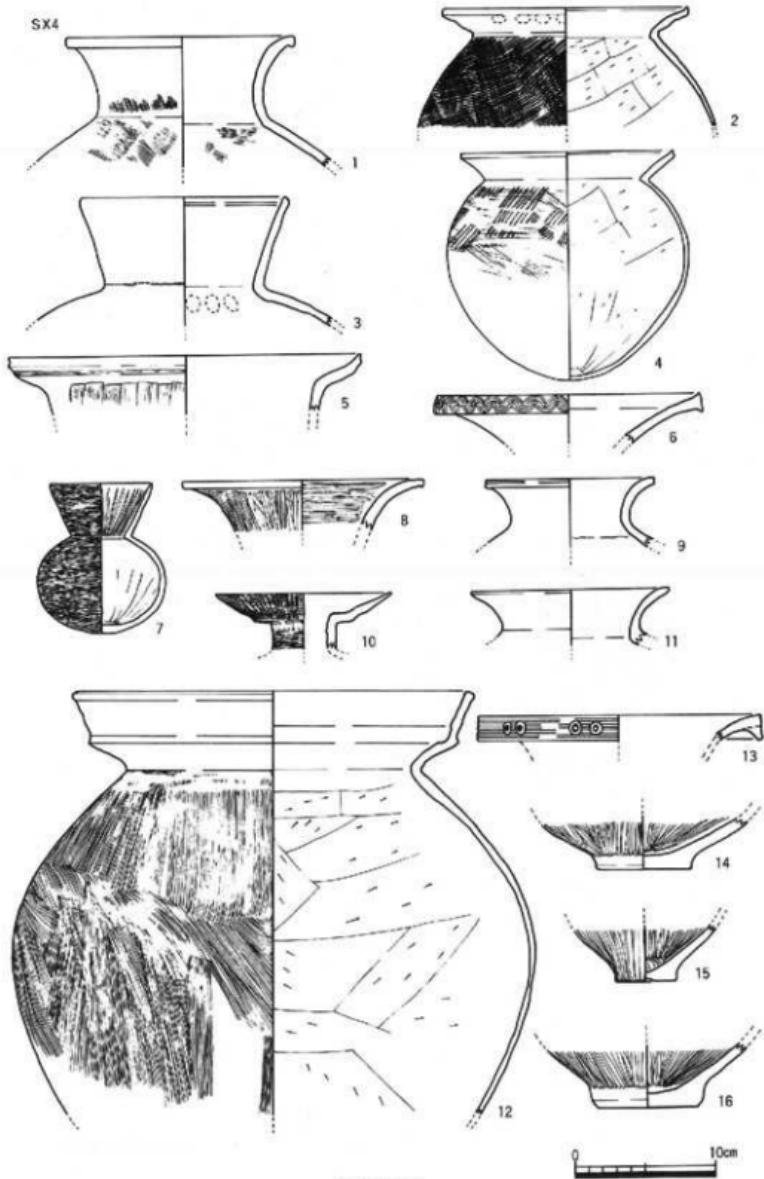
SX2



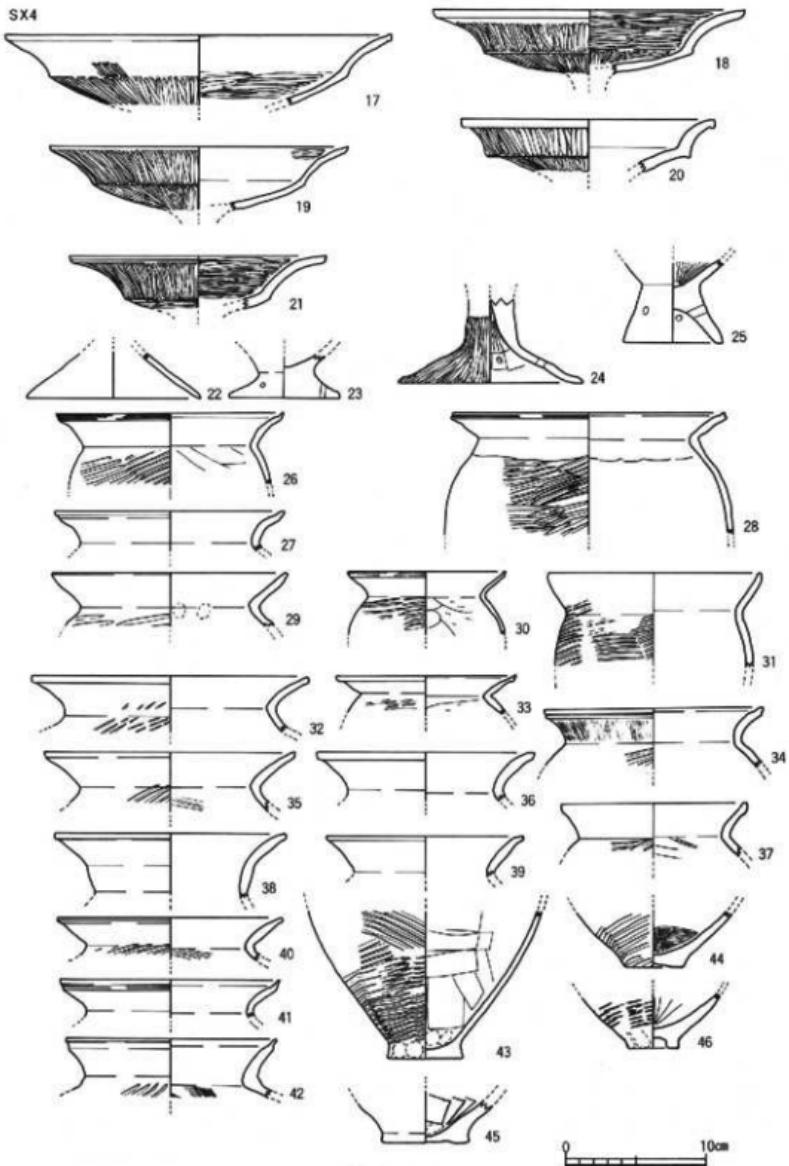
SX3



遺物実測図

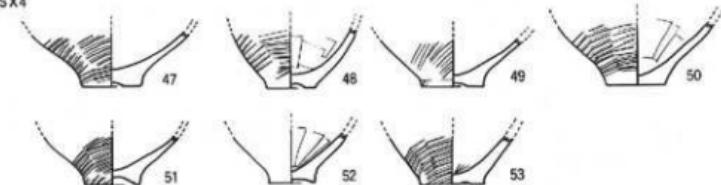


遺物実測図

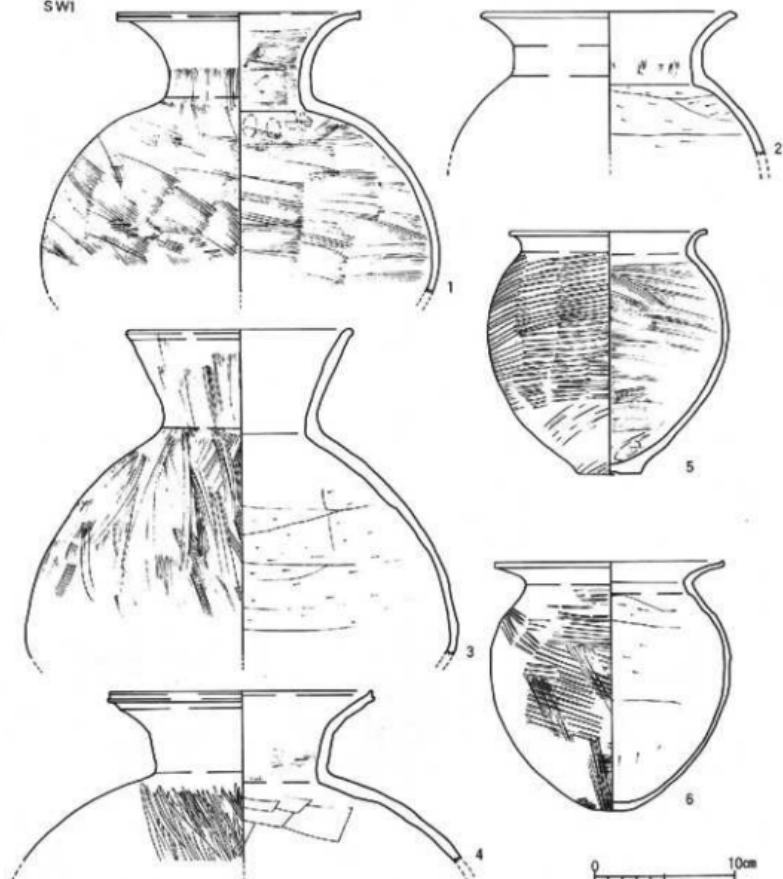


遺物実測図

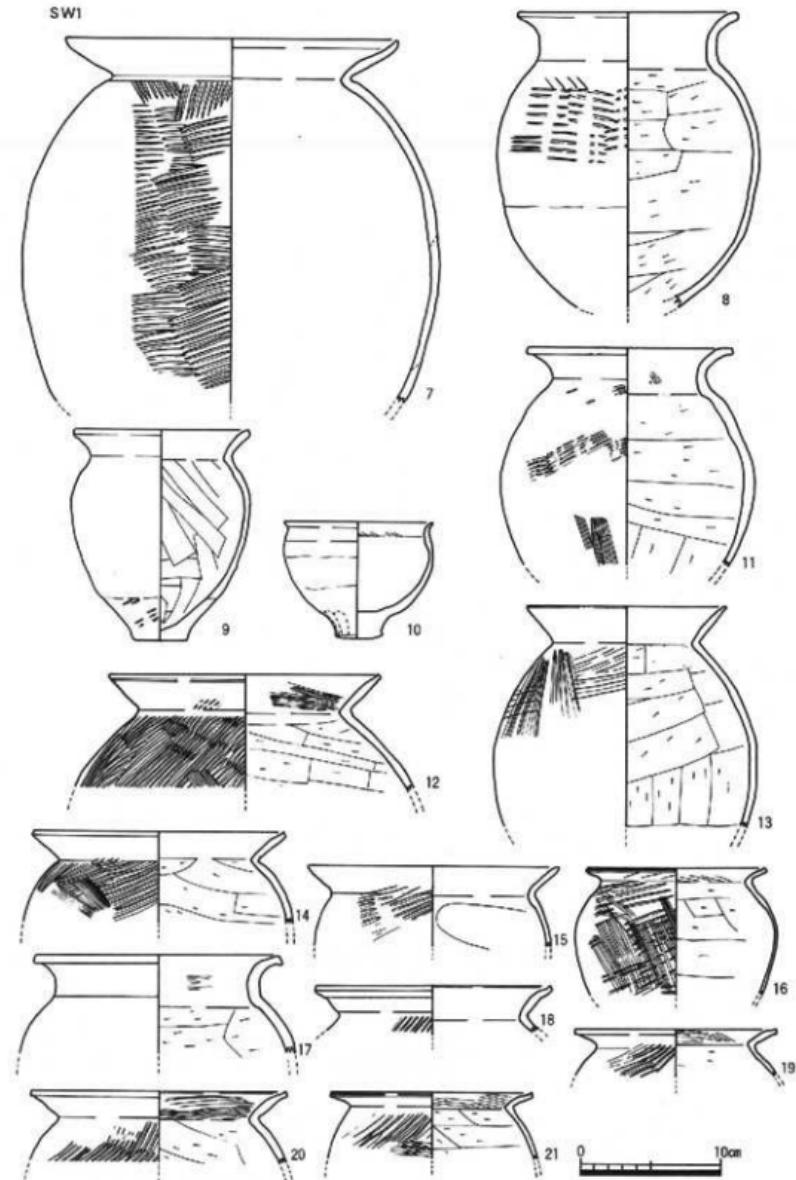
SX4



SW1

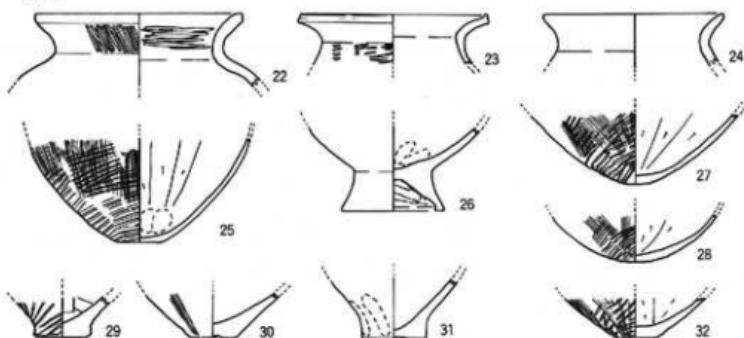


遺物実測図

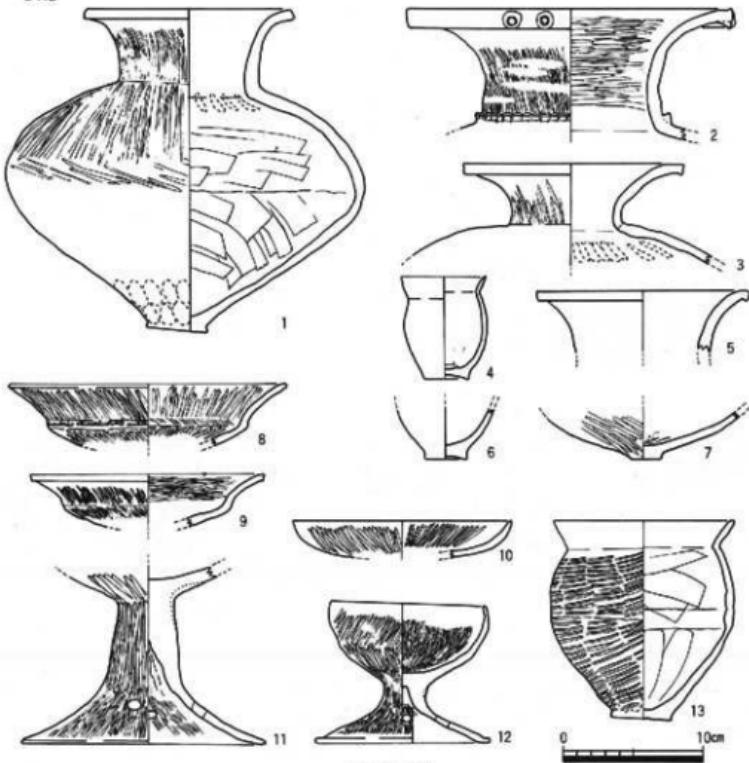


遺物実測図

SW1



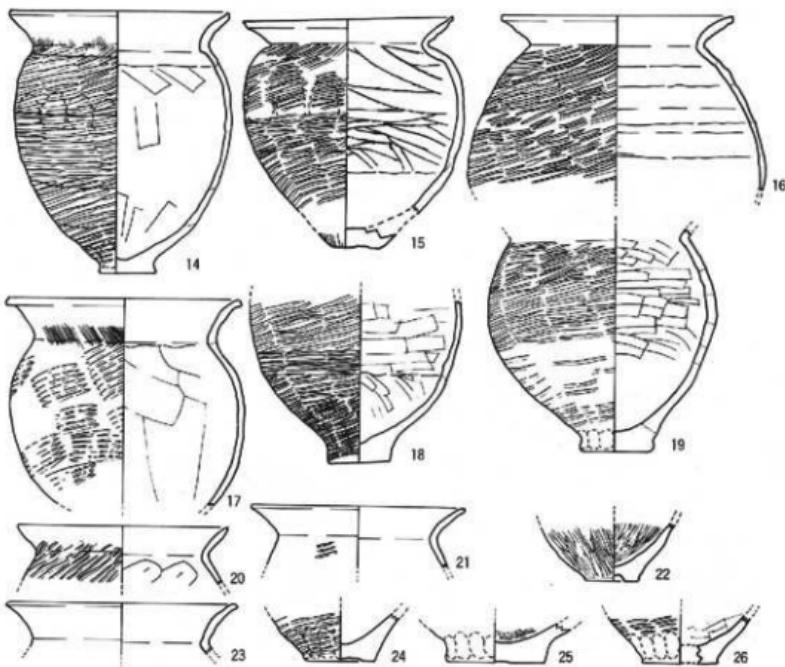
SW2



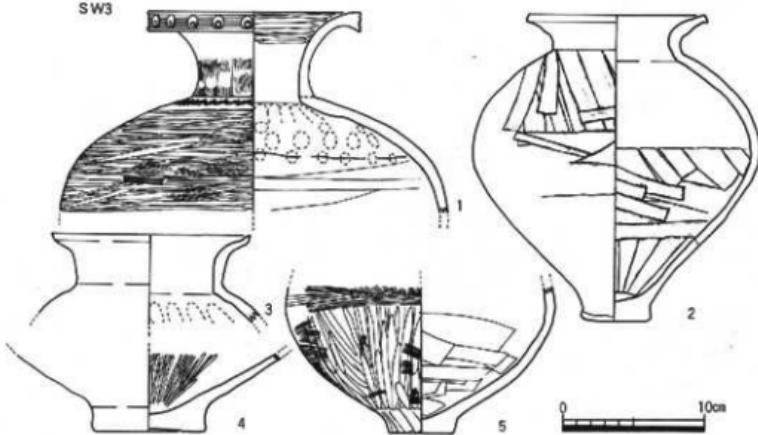
遗物实测图

0 10cm

SW2

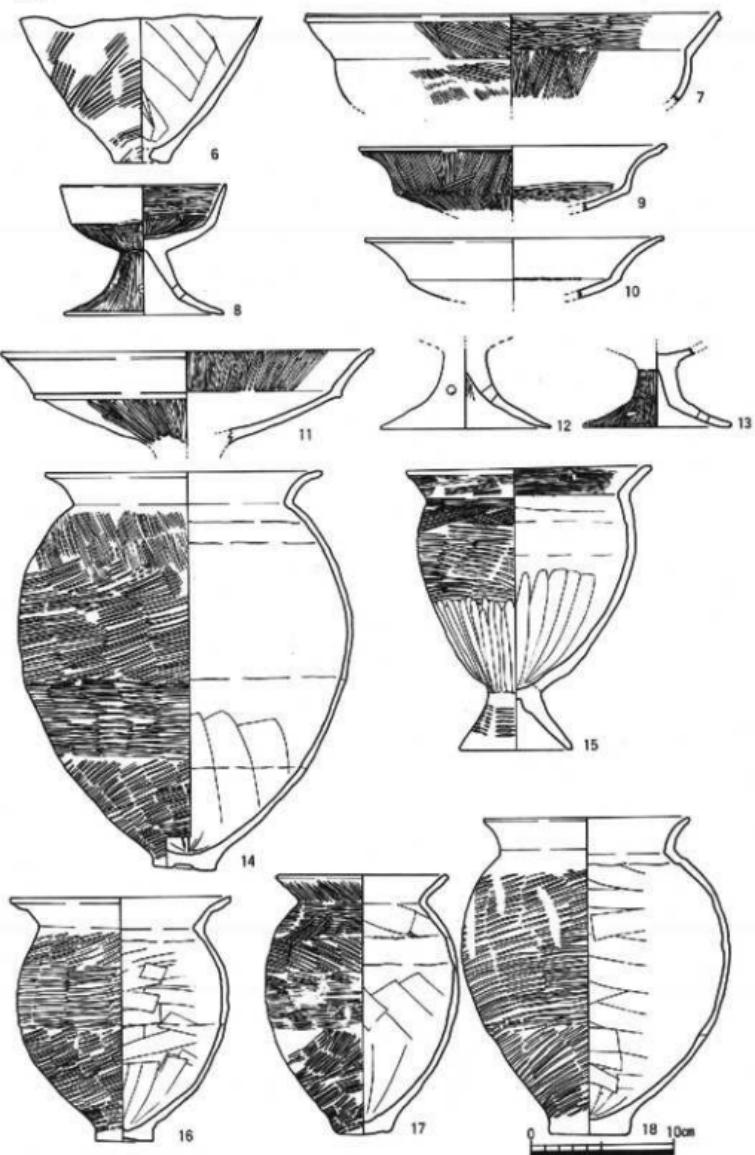


SW3



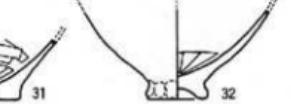
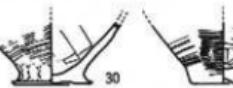
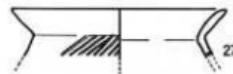
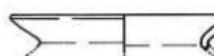
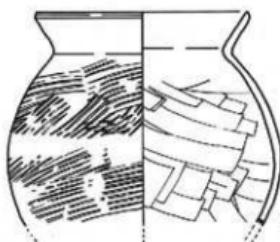
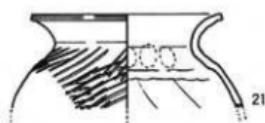
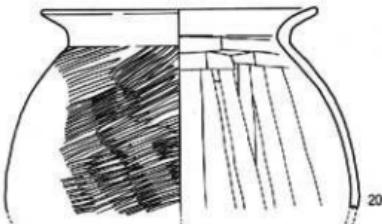
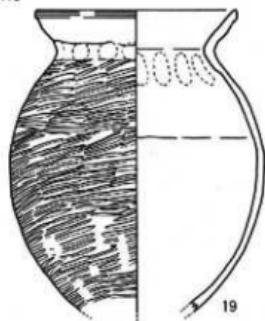
遺物実測図

SW3

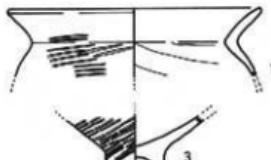


遺物実測図

SW3

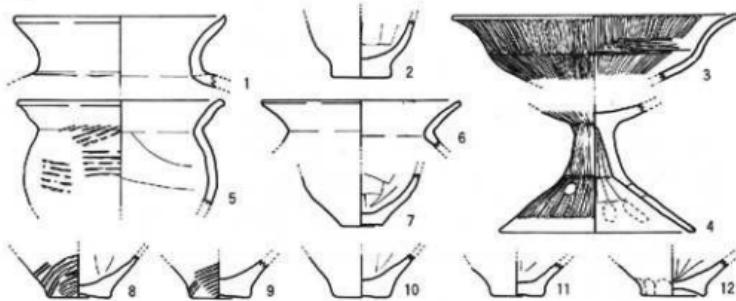


SE1

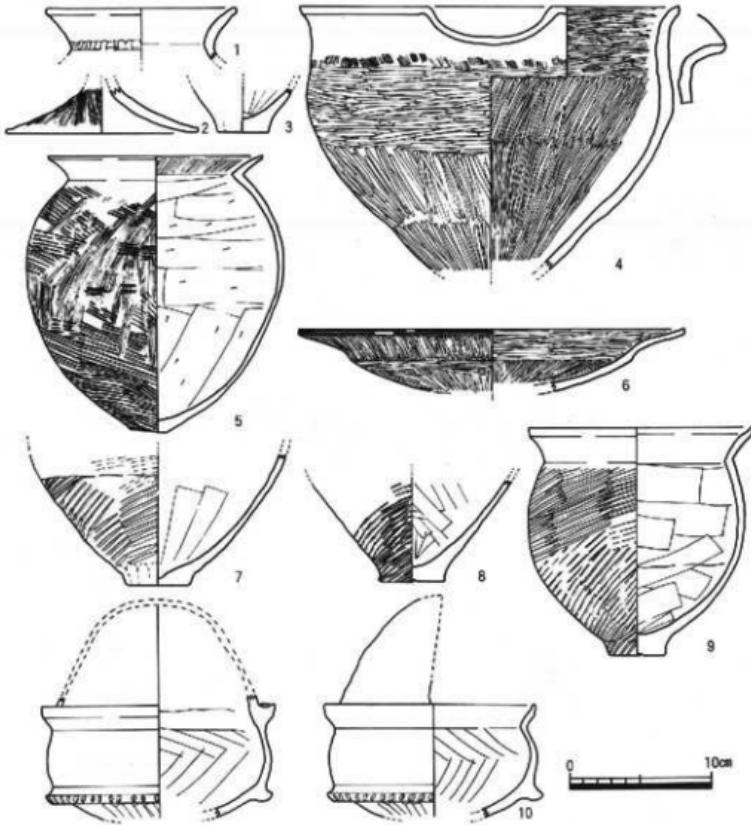


遺物実測図

SK1

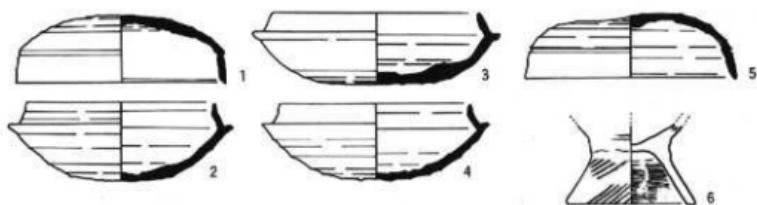


SK3-4-5-7-8

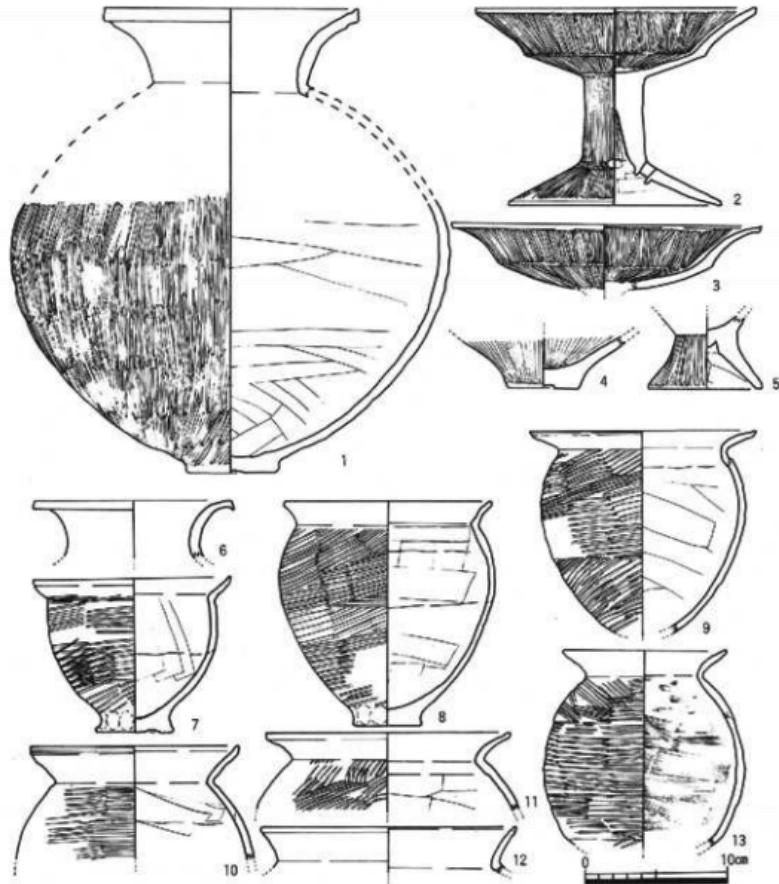


遺物実測図

SK13·14

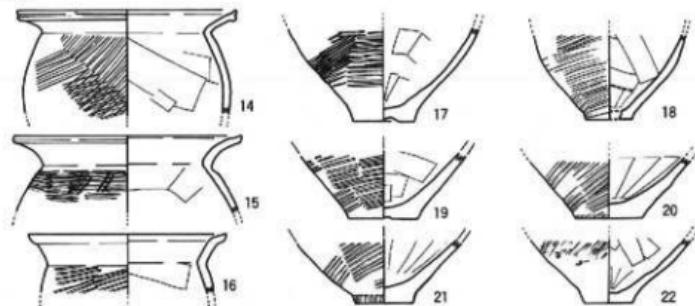


SK15

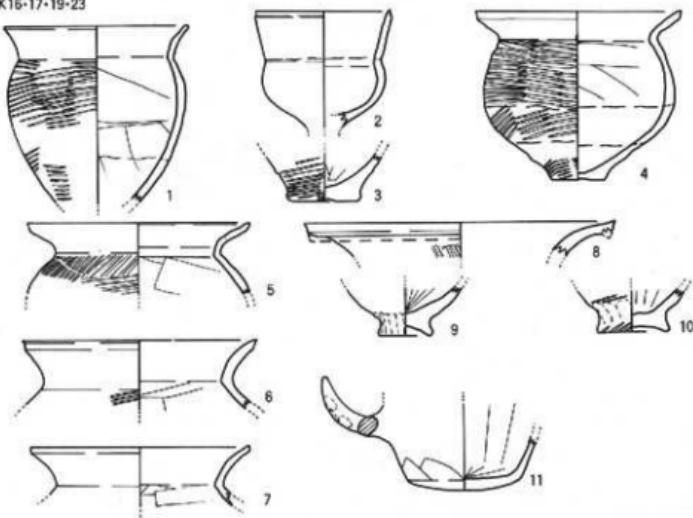


遺物実測図

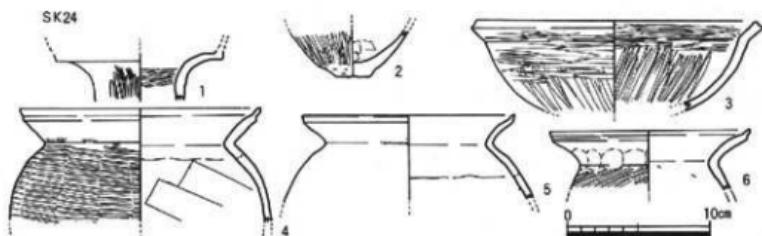
SK15



SK16-17-19-23

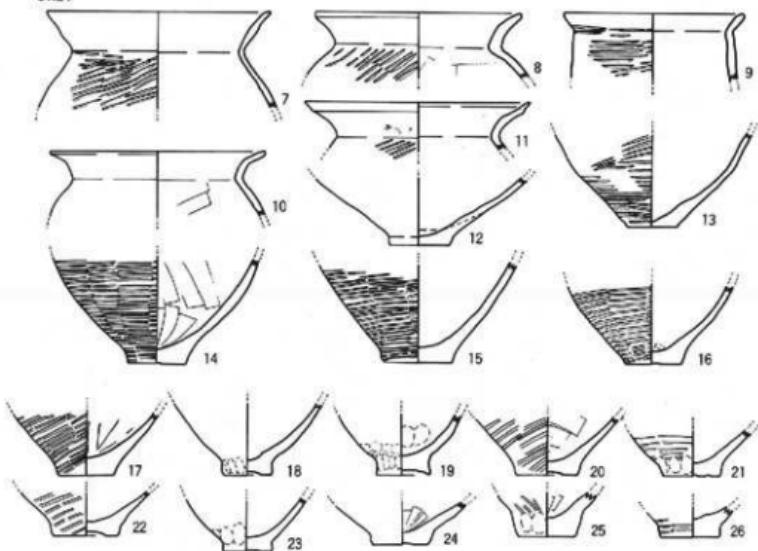


SK24

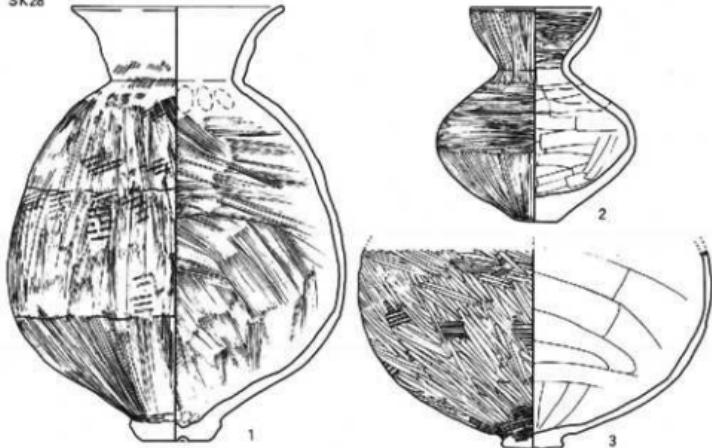


遺物実測図

SK24

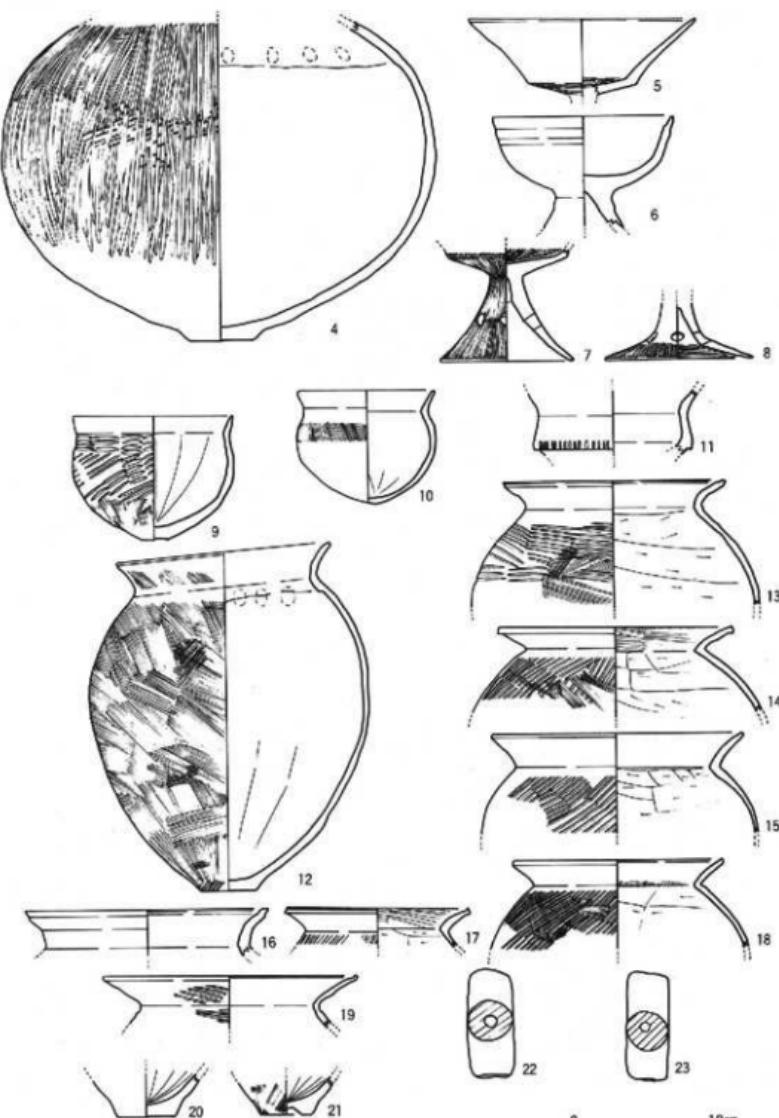


SK28



遺物実測図

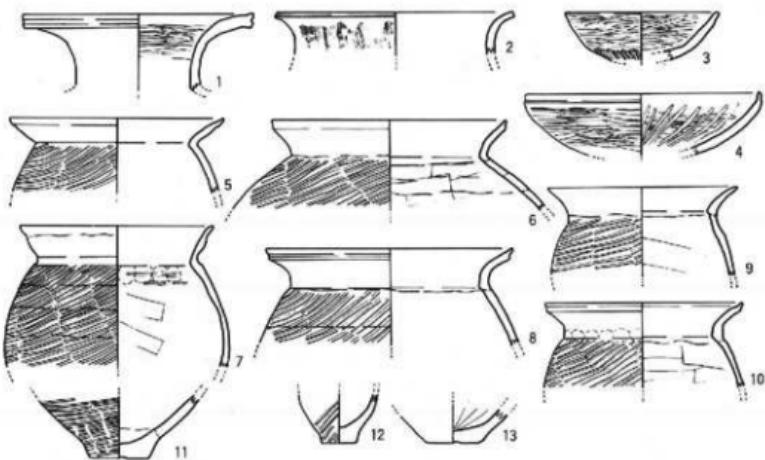
SK28



遗物实测图

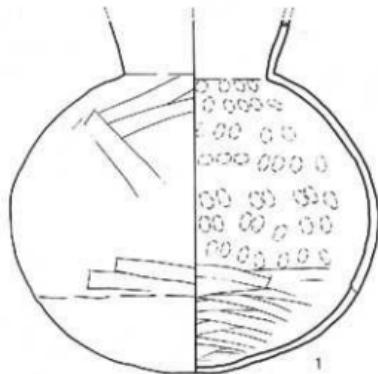


SK29



PL. 33

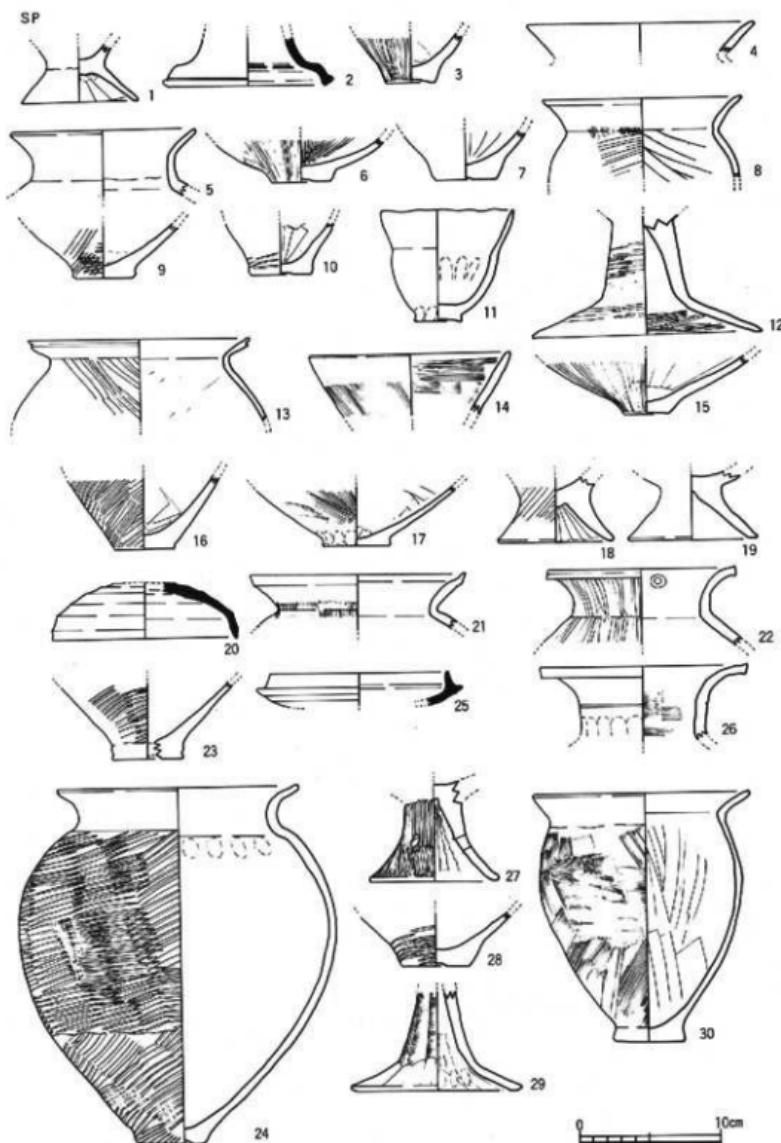
SK32



河道

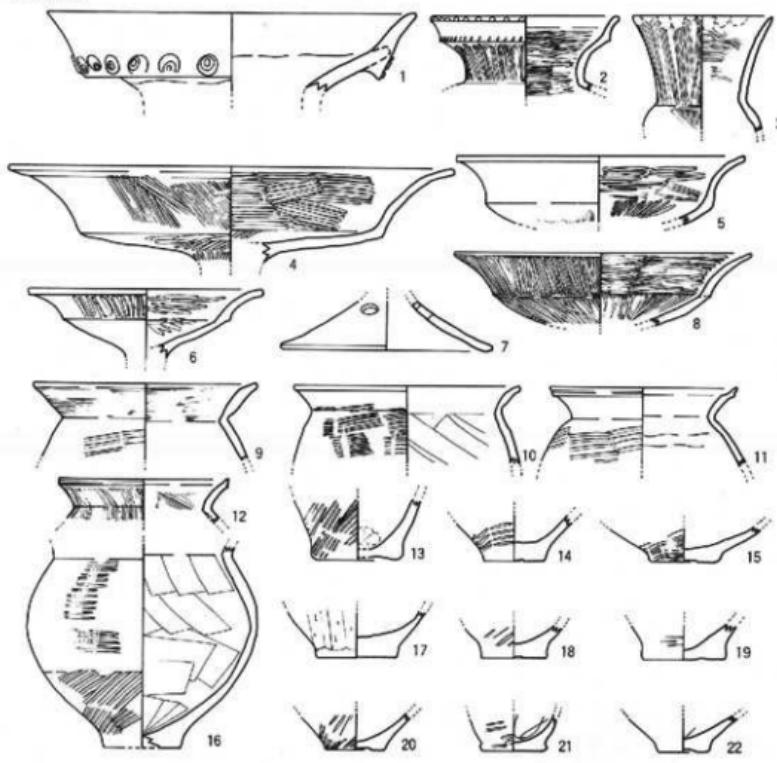


遺物実測図



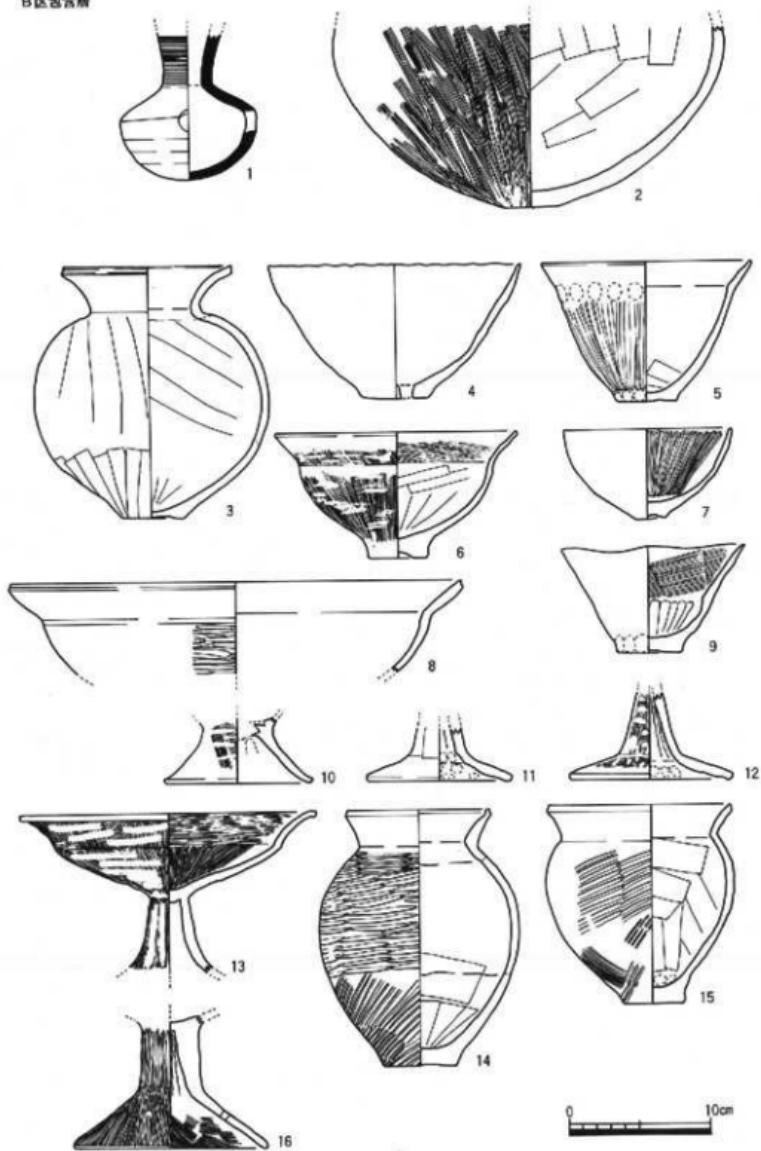
遺物実測図

## A区包含層



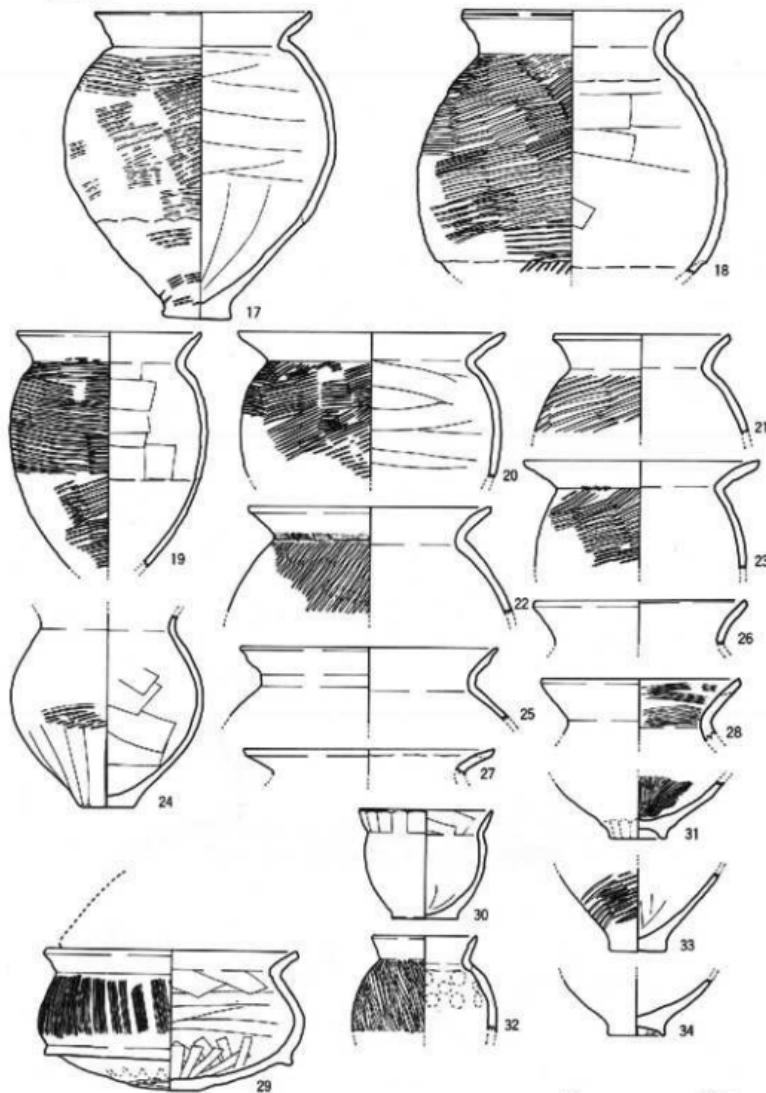
遺物実測図

B区包含层



遺物実測図

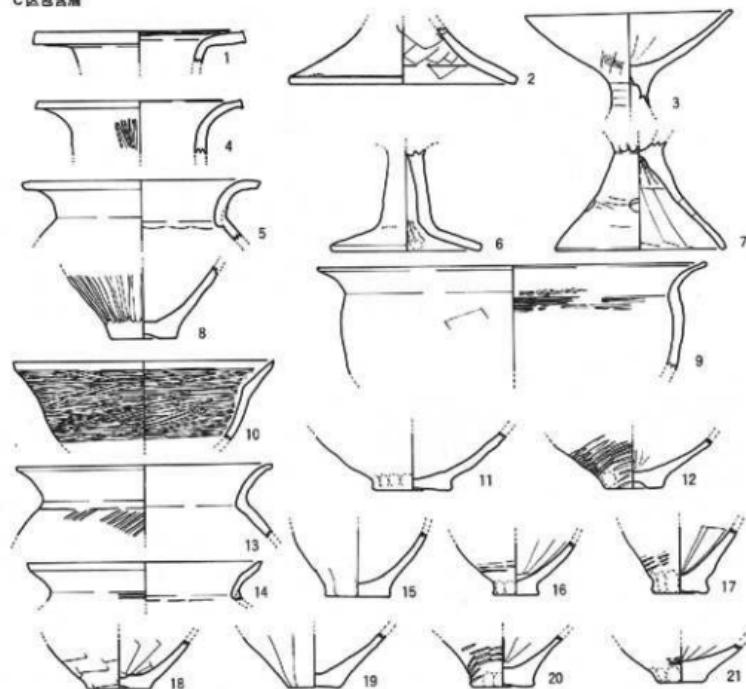
## B区包含層



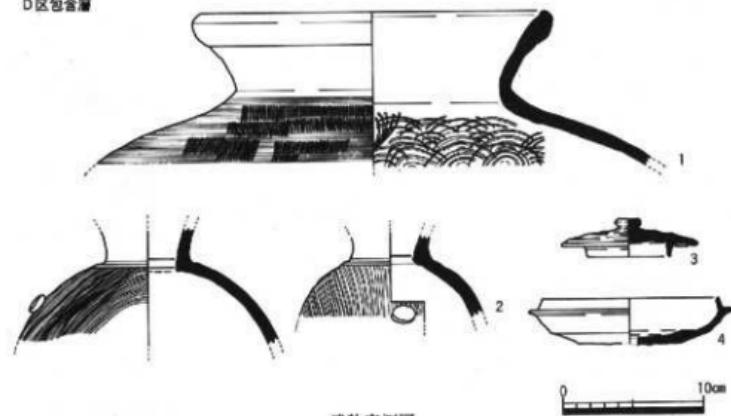
遺物実測図



## C区包含层



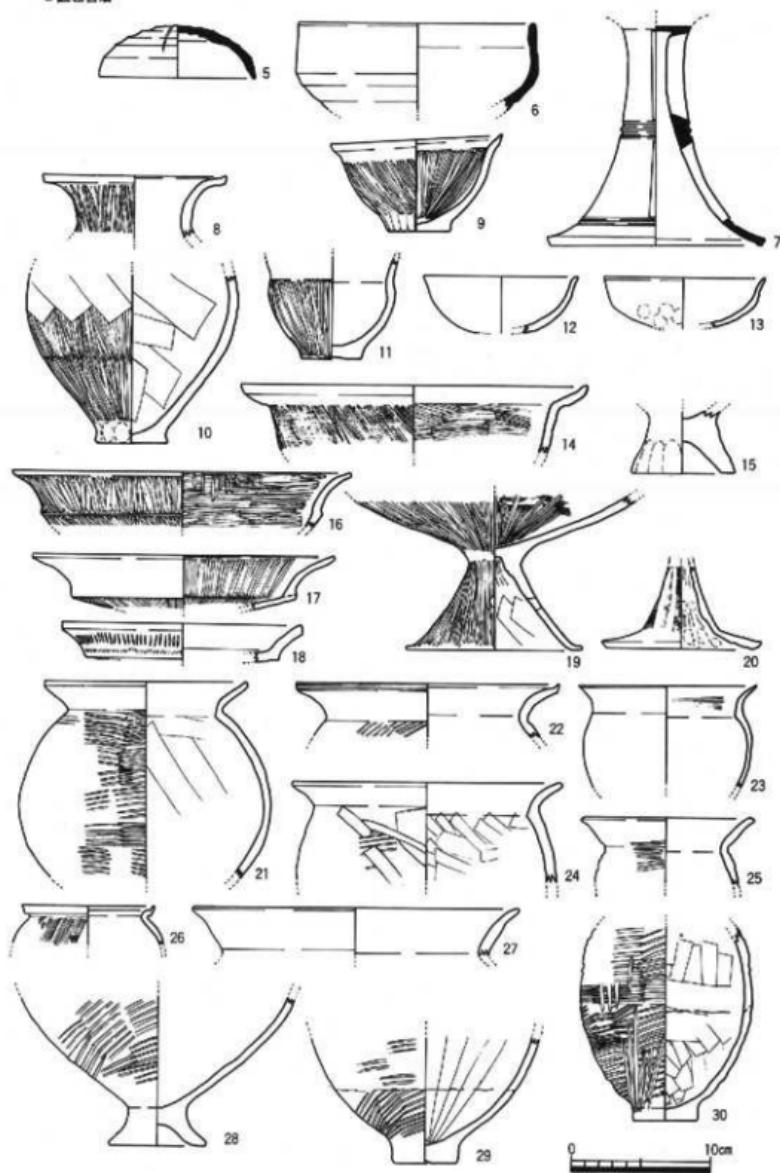
## D区包含层



遗物实测图

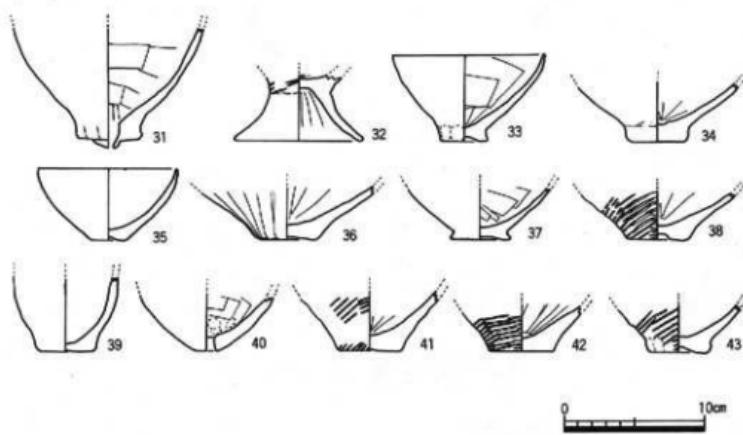


D区包含層

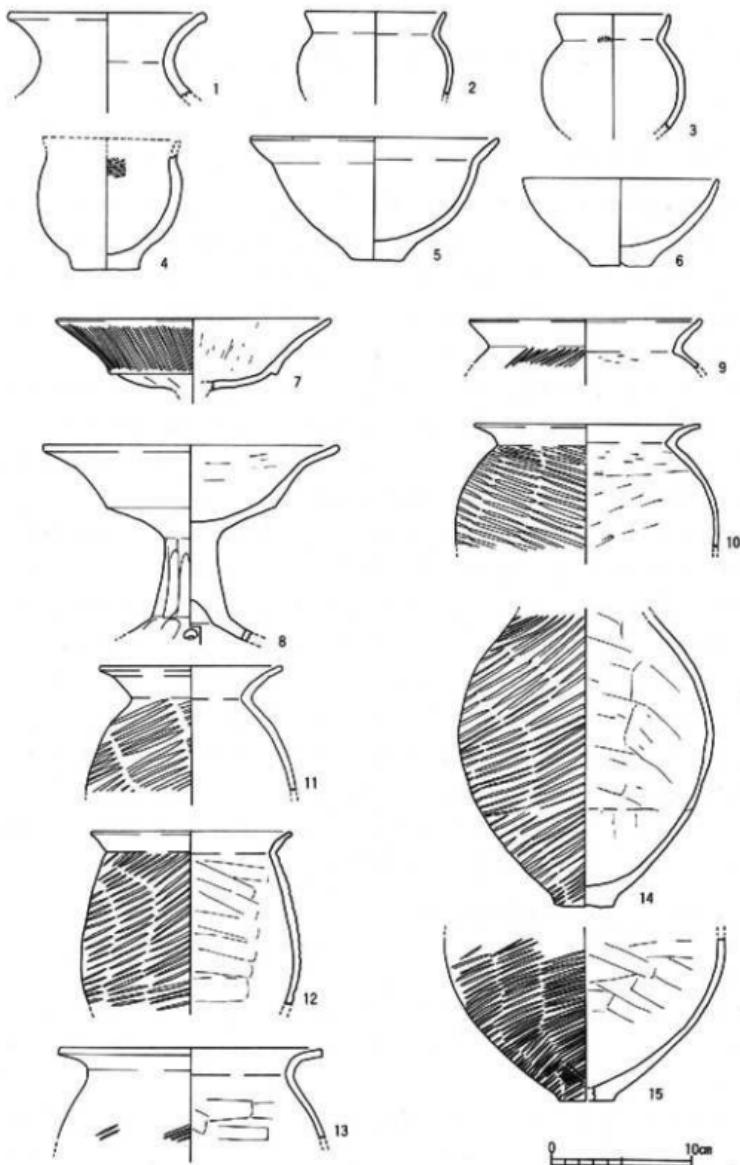


遺物実測図

D 区包含层



造物尖剖面



木の本1丁目83出土資料（八尾南遺跡I期）

## 第5章 土器の胎土観察

### 第1節 はじめに

土器の胎土は砂礫と粘土からなる。粘土鉱物や元素の量比によりその土器の特徴を観察するには、対称物が非常に小さい為、電子顕微鏡・X線粉末法・蛍光X線法等の方法が考えられる。これらの方で観察するには、機械が高価であり、土器を破損することがある。かつ、専門的な知識が必要である。反面、肉眼で砂礫を観察するには経験が必要であるが、より広い範囲を観察できることと、出土土器を破損しない点で有益な方法である。

観察には、土器の移動を推定するために、完形品又は個体数が確認できる口縁部を観察対称物とした。方法は裸眼と実体鏡により土器の表面に見られる砂礫の岩石種・鉱物種・形・量・大きさの観察である。観察は最初裸眼で行い、次に実体鏡30倍で行った。対称とした岩石種は花崗岩・閃緑岩・斑鷹岩・斑岩・玢岩・輝緑岩・流紋岩・安山岩・玄武岩・チャート・泥岩・砂岩・礫岩・石灰岩・片麻岩類・片岩類・ホルンフェンス・蛇紋岩・火山ガラス・凝灰岩類等であり、鉱物種は石英・長石・雲母・角閃石・輝石ザクロ石等である。

砂礫種の採石地を推定するためには、岩石種の分布に差が認められるため岩石種を調べることに意義がある。鉱物種は同じ構造、形を示すが、形と量比によって原岩の推定が可能な場合がある。たとえば、複六方錐の石英であれば、流紋岩・溶結凝灰岩に多く含まれる。輝石が自形であれば、安山岩か玄武岩が原岩と推定される。角ばっていて他形の石英であれば、花崗岩・閃緑岩・片岩・片麻岩等が推定される。以上のこととも考慮して土器中の砂礫種を観察した。

観察の結果、花崗岩・閃緑岩・斑鷹岩・流紋岩・チャート・泥岩・砂岩・結晶片岩・ホルンフェンス・火山ガラス・石英・長石・雲母・角閃石・輝石が認められたため胎土観察表に掲載した。ごくわずかの試料にのみであるが、軽石・片麻岩・ザクロ石が認められる。

### 第2節 各類型の構成砂礫種

構成砂礫の岩石種・鉱物種の組成から7類型に区分される。各類型の特徴について述べる。

I類型：角閃石が裸眼でも明瞭に認められ、量が多い。礫形は角の鋭い角礫が非常に多い。石英は少なく裸眼では認められない。比較的長石が多い。岩石片は花崗岩又は閃緑岩でわずかである。

構成砂礫の岩石種は、花崗岩・閃緑岩・変輝緑岩・火山ガラス、鉱物種は石英・長石・雲母・角閃石である。花崗岩は灰白色で角礫である。最大礫径は4mmで、量はごくわずかで4試料

に認められる。造岩鉱物は石英・長石・黒雲母である。便宜上、石英・長石からなる岩片も花崗岩とした。閃綠岩は暗緑色、暗灰色の角礫である。最大礫径は7mmで、量は非常に多い場合、ごくわずかの場合があり、4試料に認められる。造岩鉱物は角閃石・長石、角閃石・長石・石英である。変輝綠岩は暗緑色の円礫である。礫径は6mmで、わずか1個のみ1試料に認められる。火山ガラスは無色透明で貝殻状である。実体鏡下にて認められる。粒径は中粒で量はわずかである。石英は無色透明で鋭い角がある角礫である。実体鏡下で認められ、粒径は粗粒から細粒まであり、量は多い場合、ごくわずかの場合と試料によって異なる。いずれの試料にも含まれる。長石は白色で角の鋭い角礫である。最大礫径は7mmで、量は多い場合、ごくわずかの場合と試料によって異なる。すべての試料に比較的多く含まれる。雲母は黒色で金属光沢のある黒雲母か、金色で金属光沢のあるバーミキュライトかである。粒形は粒状の場合、板状の場合がある。いずれも周囲はまるみがある。含まれる量・粒径は試料によって異なる。最大粒径は4mmである。1試料にのみ認められない。角閃石は黒色で角の鋭い角礫である。すべて他形である。最大礫径は5mmで、量は多い。裸眼でも明瞭に区分される。試料によって差はあるが実体鏡下でも多く認められる。すべての試料に含まれる。

II類型：角閃石が裸眼でも明瞭に認められ量も多い。礫形はわずかに角にまるみがある角礫か亜角礫である。石英は裸眼で認められる。長石は比較的多い。岩石片は花崗岩・閃綠岩・チャート等である。

構成砂礫の岩石種は花崗岩・閃綠岩・流紋岩・チャート・砂岩・変輝綠岩・ホルンフェルス・火山ガラス、鉱物種は石英・長石・雲母・角閃石である。花崗岩は灰白色で角礫である。最大礫径は7mmで、量はわずかかごくわずかである。実体鏡下でのみ認められる場合もある。約半数の試料には認められる。造岩鉱物は石英・長石・黒雲母、石英・長石、石英・黒雲母の場合がある。後二者は便宜上、花崗岩とした。閃綠岩は暗灰色、暗緑色で角礫である。最大礫径は7mmで、量はわずかかごくわずかである。実体鏡下で認められる場合がある。含まれる試料はわずかである。造岩鉱物は角閃石・長石、黒雲母・角閃石・長石、角閃石・長石・石英の構成からなる場合がある。流紋岩は灰白色で亜円礫である。最大礫径は5mmで、量はわずか1個である。1試料にのみ認められる。造岩鉱物は無色透明で尖形の石英である。石基は灰白色でやや玻璃質である。チャートは暗灰色・灰色・黒色で、角礫・亜角礫・円礫と色、形、共に様々である。最大礫径は3mmで、量はごくわずかである。含まれる試料はわずかである。砂岩は灰色の円礫状でわずか1個である。裸眼にて認められ、粒径は粗粒である。3試料にのみ含まれる。変輝綠岩は暗緑色で円礫である。最大礫径は3mmで、量は1個である。1試料にのみ含まれる。ホルンフェルスは暗灰色で亜角礫状である。実体鏡下で認められる。粒径は粗粒で、量はわずかである。1試料にのみ認められる。火山ガラスは無色透明で貝殻状であ

る。実体鏡下で認められる。粒径は中粒で、量はごくわずかである。1試料にのみ含まれる。石英は無色透明で、角のわずかにまるくなつた角礫か亜角礫である。最大礫径は3mmである。量はわずかかごくわずかの場合が多い。すべての試料に含まれ、裸眼で認められる。長石は白色で、角礫か亜角礫である。最大礫径は5mmである。量は試料によって異なる。すべての試料に含まれ、裸眼で認められる。雲母は黒色・金色で、板状・粒状である。最大粒径は2mmである。量は試料によって異なる。わずかであるが認められない試料がある。角閃石は黒色で、わずかに角のまるくなつた角礫か亜角礫である。最大礫径は5mmである。量は非常に多い場合からわずかの場合まである。すべての試料に含まれ、裸眼で認められる。1試料のみであるが結晶面が認められる。

III類型：角閃石は実体鏡下で認められる。石英・長石はすべての試料に含まれ、チャートは大半の試料にわずかに含まれる。花崗岩の含まれる場合が多い。

構成砂礫の岩石種は花崗岩・閃綠岩・流紋岩・チャート・泥岩・ホルンフェルス・火山ガラス、鉱物種は石英・長石・雲母・角閃石である。花崗岩は灰白色で、角礫・亜角礫である。最大礫径は8mmである。量はわずかかごくわずかである。実体鏡下で認められる場合もある。大半の試料に認められる。造岩鉱物は石英・長石・黒雲母・長石・石英・黒雲母・石英の組み合わせである。後二者は便宜上、花崗岩とした。閃綠岩は暗灰色・暗緑色で、角礫・亜角礫である。最大礫径は7mmで、量はわずかかごくわずかである。含まれる試料はごくわずかである。造岩鉱物は長石・角閃石・石英・角閃石の構成である。流紋岩は灰白色で、亜角礫である。実体鏡下で認められる。粒径は粗粒で、量はわずかである。チャートは灰白色・灰色・暗灰色・黒灰色・暗茶褐色・茶褐色・褐色・赤褐色・黒色と様々な色がある。礫形は角礫・亜角礫・亜円礫である。亜角礫が多い。最大礫径は6mmで、量はわずかかごくわずかである。含まれる試料が多い。泥岩は暗黄土色で、亜円礫である。最大礫径は7mmで、量はごくわずかである。2試料にのみ含まれる。ホルンフェルスは暗灰色・黒色で、亜円礫である。1試料のみ裸眼で認められるが、他の試料はすべて実体鏡下で認められる。最大礫径は2mmで、量はわずかかごくわずかである。含まれる試料はごくわずかである。火山ガラスは無色透明で、貝殻状である。実体鏡下で認められる。粒径は中粒～細粒で量はごくわずかの場合が多く、中程度含まれる場合もある。石英は無色透明で、角礫・亜角礫である。最大礫径は4mmである。量は試料によって異なり、非常に多い場合からごくわずかの場合まである。すべての試料に含まれる。長石は白色で、角礫・亜角礫である。最大礫径は5mmで、量は試料によって異なる。すべての試料に含まれる。雲母は黒色・金色で、粒状・板状である。金色板状の場合が多い。粒状の場合は周縁がまるく磨滅している。最大礫径は4mmである。粒径と含まれる量は試料によって大きな差がある。実体鏡下で細粒でわずかに認められる場合もある。ごくわずかの試料に認められない。

角閃石は黒色で、角のわずかにまるくなつた角礫状か亜角礫状である。実体鏡下で認められる。粒径は粗粒から微粒まで様々であり、量も試料によって異なる。すべての試料に含まれる。2試料にのみわずか1個ずつ裸眼で認められる角閃石が含まれているが、他の岩石種、鉱物種の組成からみればこの類型に属すると考えられる為、この類型に加えた。

**IV類型**：結晶片岩を含み、チャート等の碎屑岩片を含む。雲母は無色透明の白雲母の微粒が含まれる場合が多い。輝石は認められない。

構成砂礫の岩石種は花崗岩・閃緑岩・チャート・砂岩・結晶片岩・ホルンフェルス・火山ガラス。鉱物種は石英・長石・雲母・角閃石である。花崗岩は灰白色で、角礫である。最大礫径は4mmで、量は中程度かわずかである。認められない試料もある。造岩鉱物は石英・長石である。閃緑岩は暗灰色で、亜角礫状である。実体鏡によって認められる。粒径は粗粒で、量はわずかである。2試料にのみ認められる。チャートは灰色・茶褐色・赤褐色で、亜角礫・亜円礫である。最大礫径は6mmで、量は多い場合、ごくわずかの場合がある。1試料を除いて他にはすべて含まれる。砂岩は暗灰色で、亜角礫状である。実体鏡下で認められる。粒径は中粒で、量はわずかである。1試料にのみ含まれる。結晶片岩は黒雲母石英片岩・石英片岩・綿雲母片岩である。色は灰色・暗灰色である。礫形は亜角礫で、最大礫径は4mmである。すべての試料に含まれる。ホルンフェルスは暗灰色で、亜角礫である。礫径は2mmで、量はごくわずかである。1試料にのみ含まれる。火山ガラスは無色透明で、貝殻状である。実体鏡下で認められる。粒径は細粒で、量はわずかである。1試料にのみ含まれる。石英は無色透明で、亜角礫である。最大礫径は5mmである。試料により含まれる礫径、量に差がある。すべての試料に含まれる。長石は白色で、亜角礫である。最大礫径は5mmである。礫径は試料により差があり、量も異なる。すべての試料に含まれる。雲母は黒色・金色・無色透明である。無色透明の雲母は白雲母か綿雲母である。最大礫径は2mmで、量は試料によって異なる。含まれない試料もある。白雲母は3試料に認められる。角閃石は黒色で、亜角礫である。すべての試料に含まれるが、実体鏡によってのみ確認される。粒径は粗粒～細粒で、量は多い場合、わずかの場合がある。

**V類型**：輝石が含まれ、結晶片岩が含まれる場合がある。輝石は自形である場合がある。火山ガラスが比較的多く含まれる場合がある。

構成砂礫の岩石種は花崗岩・閃緑岩・チャート・結晶片岩・火山ガラス・凝灰岩、鉱物種は石英・長石・雲母・角閃石・輝石である。花崗岩は灰白色で、角礫である。最大礫径は6mmで、量はわずかかごくわずかである。3試料に含まれる。造岩鉱物は石英・長石である。閃緑岩は暗灰色で、角礫である。最大礫径は6mmである。量はごくわずかである。2試料に含まれる。造岩鉱物は角閃石・長石、角閃石・石英である。チャートは暗灰色・黒色で、角礫・亜角礫である。最大礫径は4mmで、量はわずかである。4試料に認められる。結晶片岩は石英片岩であ

る。無色透明・灰白色透明で、角礫・亜角礫である。最大礫径は5mmで、量はごくわずかである。2試料に含まれる。火山ガラスは無色透明で、貝殻状である。実体鏡下で認められる。粒径は中粒で、量は中程度である。2試料に認められる。凝灰岩は淡黄土色で、円礫状である。実体鏡にて認められる。粒径は粗粒で、量はごくわずかである。1試料にのみ含まれる。石英は無色透明で、角礫・亜角礫である。最大礫径は6mmで、量は多い。すべての試料に含まれる。長石は白色で、角礫・亜角礫である。最大礫径は3mmで、量は多い。すべての試料に含まれる。雲母は金色・黒色で、粒状・板状である。粒状の雲母は周囲がまるくなっている。最大礫径は5mmで、量はわずかかごくわずかである。3試料に含まれる。角閃石は黒色で、角礫状である。実体鏡にて認められる。粒径は細粒で、量はわずかである。2試料に含まれる。輝石は黒色で、角礫状または自形である。実体鏡下で認められる。粒径は細粒で、量はわずかかごくわずかである。すべての試料に含まれる。自形の認められるのは3試料である。

**VII類型：**角閃石の自形結晶を多く含む。角閃石は実体鏡下で認められる。チャート等の碎屑岩が含まれる。

構成砂礫の岩石種は花崗岩・閃綠岩・チャート・火山ガラス、鉱物種は石英・長石・雲母・角閃石である。花崗岩は灰白色で、角礫である。最大礫径は4mmで、量はわずかかごくわずかである。2試料に含まれる。閃綠岩は灰白色で、角礫である。最大礫径は6mmで、量はごくわずかである。2試料に含まれる。造岩鉱物は長石・角閃石である。チャートは灰白色・茶褐色・灰色の亜円礫・円礫である。最大礫径は2mmで、量はごくわずかである。2試料に含まれる。火山ガラスは灰黒色透明で、貝殻状である。実体鏡下で認められる。粒径は中粒で、量はごくわずかである。1試料に認められる。石英は無色透明で、角礫状である。粒径は1mmで、量はごくわずかなものから多いものと変化がある。すべての試料に含まれる。長石は白色で、亜角礫である。最大礫径は2mmで、量はわずかである。すべての試料に含まれる。雲母は黒色・金色で板状である。粒径は1.5mmで、量はわずかかごくわずかである。3試料に含まれる。角閃石は黒色で、角礫状か自形である。実体鏡下で認められる。粒径は中粒～細粒である。自形の結晶が多く認められる。すべての試料に含まれる。

**VIII類型：**ホルンフェルスが比較的多く含まれる。また、チャート等の砂屑岩が多い。

構成砂礫の岩石種は閃綠岩・チャート・砂岩・ホルンフェルス、鉱物種は石英・長石・角閃石である。閃綠岩は暗灰色で、亜角礫である。実体鏡下で認められる。粒径は粗粒で、量はわずかである。1試料に含まれる。チャートは灰色で、亜角礫である。最大礫径は8mmで、量は多い。2試料に含まれる。砂岩は亜円礫である。実体鏡下で認められる。粒径は細粒で1個である。1試料に含まれる。ホルンフェルスは実体鏡下で認められ、暗灰色で亜角礫である。粒径は中粒～粗粒で、量はわずかである。石英は無色透明で、亜角礫である。最大礫径は2mmで、

量が多い。2試料に含まれる。長石は白色で、亜角礫状である。最大粒径は1mmで、量は多い。2試料に含まれる。角閃石は黒色で、角礫状である。実体鏡下で認められる。粒径は微粒～細粒で、量はわずかである。1試料にはごくわずかであるが自形をなす場合がある。2試料に含まれる。

**VII類型：**I～VIIの類型に含まれない砂礫構成である。砂礫の含まれる量が少ない場合、同じ構成砂礫のものが認められない場合のものである。

以上の結果を表にすれば、胎土観察表・表6のようになる。類型からみればIII類型が非常に多く、II類型・I類型の順に少なくなる。

胎土による区分	時期	V様式			庄内式			布留式			合計	
		甕	壺	高环	鉢	甕	壺	高环	鉢	甕	壺	
I類型	6	4		1		7						18
II類型	11	3	5	4		7	3		2			35
III類型	75	15	20	8		21	13	2	1	6	3	166
IV類型	1	1				2	1				1	6
V類型	2	1				1						5
VI類型		1	1									2
VII類型	1			1								2
	7	4	1	2		3		1				18

表6 土器の胎土・器種・時期

### 第3節 砂礫の採取地

各類型の構成砂礫の岩石種・鉱物種から、砂礫の採取地について推定する。

**I類型：**長石・角閃石が多く石英が少ないとから、閃緑岩や斑禿岩の分布地域の砂礫である。八尾を中心にして、この条件に適する場所は生駒山地西麓である。生駒山地西麓であってもチャートや砂岩等の旧大和川等の砂礫が認められず、石英が少なく、礫形は鋭い角がある角礫であることから、旧大和川の砂礫のまったく影響のない山手が推定される。生駒山地の閃緑岩・斑禿岩・変輝緑岩には角閃石が含まれることから採取地を限定しがたい。

**II類型：**I類型の構成砂礫種と比べれば、石英が多くチャート等が含まれ、角閃石をはじめ構成砂礫は角がわずかにまるくなつた角礫か亜角礫である。採取地としては角閃石を多く含まれることから、I類型と同じように生駒山地西麓が推定される。しかし、角閃石・石英・長石にまるみがあることから、I類型の採取地よりもより遠くへ砂礫が流されたと推定される。また、石英が多くチャート等が含まれることから、旧大和川の砂礫の影響がある場所が推定される。すなわち、生駒山地から流出した川が旧大和川と合流する付近の砂礫を採取したと推定される。

**III類型：花崗岩・チャートが大半の試料に含まれ、石英・長石が多く含まれる。角閃石は裸眼で認められないが含まれる。このような岩石種・鉱物種を含む砂礫は弥生時代の遺構面での砂礫で、八尾市中田・八尾南・南木ノ本・本町・山賀・萱振などI・II・III・IV大和川の沖積地と推定される範囲に広く分布する。八尾市本町付近でも同様の砂礫種の構成を示すことから、III類型の土器は当遺跡付近で製作されたと推定される。**

**IV類型：結晶片岩が含まれ、細粒～微粒の白雲母を含む場合があることから、結晶片岩の分布する地域の砂礫を採取して製作された土器である。結晶片岩は三波川帯や三都變成帯に広く分布する。距離的にみれば紀ノ川流域が推定される。結晶片岩は遺跡一帯の砂礫層中にも含まれるが、量的に非常に少ない。また、チャートの量も少ないとから遺跡付近の砂礫とは明らかに異なる。**

**V類型・VI類型・VII類型の構成砂礫とIII類型の砂礫構成とは明瞭な差異がある。よってIII類型の土器を製作した地域の砂礫を採取して製作された土器ではない。砂礫の採取地を推定するには試料がわずかであり、十分な傾向が認められないため推定しがたい。**

#### 第4節 おわりに

当遺跡出土の土器の胎土観察の結果、次のようなことが言える。出土した大半の土器はV様式の土器であるが、この時期には主として在地の砂礫を使用して土器が製作され、約20%は他地域の砂礫を使用して製作された土器である。庄内式の土器試料は個数的にわずかであるため予察的なことしか言えないが、約40%の土器は他地域の砂礫を使用して製作された土器である。

砂礫の採取地が土器の製作地であるとすれば当遺跡へV様式の土器を使用した時期に生駒山地西麓、紀ノ川流域から何らかの目的で土器が搬入されたと言える。また、庄内式の土器が使用された時期にはV様式の時期よりもより活発な土器の搬入があったと予察的であると言える。

## 土器胎土の観察表

分類種 別 番号	岩								石								玻								
	花崗岩	閃綠岩	斑 岩	流紋岩	チャート	泥 岩	砂 岩	安輝綠岩	結晶片岩	輝	30倍	裸眼	30倍												
SP-26																									
SK1-1																									
SK8-9	L-X																								
SK28-7	L-X	L-△																							
SK28-18																									
SK28-19																									
SX1-7																									
SX1-8																									
SX3-2																									
SX4-9																									
I	SX4-27	M△																							
	SX4-33																								
	SW1-6																								
	SW3-2																								
	SW3-6																								
	SW3-15	L-X																							
	SW3-27																								
C区包含層4	L-○																								
D区亜包含層	L-X	L-X																							
II	SP-4	M△																							
	SK1-3	L-△																							
	SK1-5																								
	SK8-6																								
	SK15-9	L-△																							
	SK16-23-2	L-○ L△	L△																						
	SK24-1	L△ L-X																							
	SK24-8	L△ L-X	L-X																						
	SK28-6																								
	SK28-9																								
	SK28-13	L-X																							
	SK28-14	L-X	L-X S△																						
	SK28-15	SX																							
	SK29-3	L△	L-X																						
	SX3-1																								
	SX4-2	L△																							
	SX4-3	L△																							
	SX4-4																								
	SX4-7																								
	SX4-31																								
	Sd-11		L-X L-△																						

裸眼での観察L = 2mm以上。M = 2mm未満1mm以上。S = 1mm未満0.5mm以上。SS = 0.5mm未満。◎ = 非常に多い。○ = 多い。□ = 中程度。△ = わずか。× = ごくわずか。E = 自形。

片		鉱物破片										器種	時期		
ホルンフェルス	火山ガラス	石英		長石		透閃石		角閃石		輝石					
輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍				
		M-X	L-△	L-△	SS□	M-□	S-△	L-○				立	V様式		
		M-△	L-△	S-△		L-□	S-△	M-○				立	V様式		
		S-△	M-△	S-△	L-○	L-□	M-△	L-○				立	V様式		
		M-X	L-□	L-△		M-△	L-○	L-○				立	V様式		
		M-△	S-△	SS△		S-X	SS△	L-○				立	庄内式		
M-△	S-X		S-X			S-O	M-○					立	庄内式		
	S-A	S-△	S-△	S-△	M-○	SSO	M-○					立	庄内式		
	S-△	S-△	S-△		M-△	SS	S-○	L-○				立	庄内式		
	S-△	L-○	L-△		M-△	L-○	L-○					立	庄内式		
	L-○	L-△	S-△	SO	L-○	S-△	-○					立	V様式		
	L-△	M-O	SSO	S-△	M-□	S-△	M-○					立	V様式		
	S-X	L-X	S-X		S-X	L-○	L-○					立	庄内式		
	S-X	L-X	M-X	L-○	S-X	M-△	L-○					立	庄内式		
	M-X	L-○		M-△	L-○	M-X	M-□					立	V様式		
	M-□	L-○	L-□	SSX	S-X	L-○	-○					立	V様式		
	M-X	L-△		L-△	L-△	L-○	L-○					立	V様式		
	S-X	L-△	L-△	M-O	M-△	M-△	L-○					立	V様式		
	L-□	L-□	M-△	M-O	L-○	L-○	L-○					立	不明		
	L-△	L-△	M-X	L-X	S-X	L-○	L-○					立	V様式		
S-□	S-□	L-△	L-○	L-△		M-O	L-△					立	庄内式		
	S-□	L-□	S-□	L-△		S-△	SS△	M-○				立	V様式		
	L-△	L-○	L-□	S-△	SS△	L-○	M-△	L-○				立	V様式		
	L-X	L-△	M-△	M-X	S-X	L-X	L-□	L-○				立	V様式		
	L-□	L-△	L-□	M-X		L-X	M-X	S-X				立	V様式		
	L-○	L-○	M-O	M-O	SSA	S-△	M-△	L-□				立	V様式		
	M-X	L-X	L-△	L-X	S-△	S-□	M-△	L-○				立	V様式		
	M-X	L-○	L-△	M-△	S-X	M-X	L-X	S-△				立	V様式		
	L-□	L-□	L-X	L-X	S-X	M-△	L-○					立	庄内式		
	M-X	L-X	M-X	L-X	M-△	L-△	L-X	SS□	S-○			立	庄内式		
	M-X	M-O	L-□	M-△	M-△	SSX	M-X	S-△				立	庄内式		
	L-△	L-△	L-△	L-△		S-X	S-O	M-○				立	庄内式		
	L-X	L-○	L-△	S-△	S-X	M-O	SS○	L-○				立	庄内式		
	L-△	L-○	L-△	S-△	M-X	M-△	L-X	S-○				立	V様式		
MX	L-X	M-X	L-X	M-△	L-△	L-X	SS□	S-○				立	庄内式		
	M-X	M-O	L-□	M-△	M-△	SSX	M-X	S-△				立	庄内式		
	L-△	L-△	L-△	L-△		S-X	S-O	M-○				立	庄内式		
	L-X	L-○	L-△	S-△	S-X	M-O	SS○	L-○				立	庄内式		
	L-△	L-○	L-△	S-△	M-X	M-△	L-X	S-○				立	V様式		
	L-X	M-X	L-△	M-X		S-X	L-□	L-○				立	庄内式		
	L-X	M-X	L-△	M-X		S-X	L-□	L-○				立	庄内式		
	L-X	L-X	L-△	L-△		L-X	L-○	L-○				立	庄内式		
	L-△	S-△	L-△	S-△	S-X	SS△	S-○					立	庄内式		
	L-X	S-X	M-△	S-X	SS△	SS○	S-○					立	庄内式		
	L-X	M-△	L-△	M-△	SS○	M-△	SS○	L-○				立	V様式		
	M-X	M-△	L-□	M-X		S-X	L-X	L-○				立?	V様式		

実体鏡30倍での観察 L=輝眼での1mm以上に相当。M=輝眼での1mm未満0.5mm以上に相当。S=輝眼での0.5mm未満0.1mm以上に相当。SS=輝眼での0.1mm未満に相当。

◎、○、□、△、×については鏡下にて輝眼と同様の量を判断した。量については数的な扱いをした。面的・体積的な取り扱いではない。

類型 試料 番号	岩 石 破 片										結晶片狀 標記						
	花崗岩		閃綠岩		斑 麻 岩		流紋岩		チャート		泥 岩		砂 岩		变質斜岩		
	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	
SP-24																	
SW3-17	-△																
SW3-18	-X	S-X			-△												
SW3-22	M△																
A区包含带8	-△																
A区包含带10	-△																
II	B区包含带5	-△							L X								
	B区包含带13																
	B区包含带15																
	B区包含带18	L △							L-△ L △								
	C区包含带5	-△															
	D区包含带14		L-△							L-X			L-X				
	D区包含带16	X												M X			
	D区包含带27																
SP-5	L X L △									M-△							
SP-8	-△																
SP-14									M-△								
SP-21	-X L-X																
SP-30	-△								L-△ L-X								
SK3-8-4	-△																
SK3-8-6																	
SK3-8-10	L-X																
SK15-7									L-X								
SK15-8	-△																
SK15-10									L-X								
SK15-11	-□								M-△								
SK15-12	L △								M □ -□								
SK15-13	-△								M-X L △								
SK15-14	-△								M-△ L △								
SK15-15	L △								L △ L △								
SK15-16									S X								
SK15-0	-△								-△								
SK15-1	-△ L-X								L-X								
SK17-4	L-X L-□								-X								
SK17-8	-△								-X								
SK17-6	L X L-△	L X							-X L-△			M△					
SK23-11																	
SK24-23-27																	
SK24-4	L-△ L-△ L-X								L-X								
SK24-5									L-X								
SK24-6	L X								-△								
SK24-8	-△																
SK24-10	L △																
SK24-11									L X								
SK28-2	L X																
SK28-5									-△								
SK28-10									-△								
SK28-11									L X								
SK28-12									-X								
SK28-16									-△								

鉱物成分												器種	時期
カルシウムス		火山ガラス		石英		長石		雲母		角閃石		輝石	
輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍
		M-X		△ M-△	M-X	-◎	-◎	-△	M-△				普通
		L-X		-△ -△	L-△	-□	-△	M-△	L-◎				V級式
		L-X		M-X	L-△	S△	L-X	L-◎	L-◎				V級式
		M-△		M-△	M-△	S△	M-◎	-△ S△	-△				V級式
		M-X		L-□	-△	M-△	L-O	L-O	L-X	L-O			高杯
		L-△		M-△	L-□	M-△	L-□	L-△	L-O	L-○			普通
		L-X		S X	-□	L-X	M-X	L-X	L-□	-◎			普通
		L-△		L-□	-△	M-△	SS△	L-O	SS△	L-○			高杯
		M-X		L-△	L-△	L-□	L-△	M-△	M-△	L-O			普通
		L-O		L-○	S □	S □				S△			普通
		-X		L-□	L-□	L-△	M-△	L-□	L-X	L-□			普通
		L-X		L-△	M-△	L-□	M-△	L-△	M-O	L-O			普通
		L-X		M-□	M-△	S X		M△	L-O	L-○			庄内式
		M-△		M-O	S □	S△		S△	M-O	M-○			普通
		L-△		L-○	M-□	S O				SS X			普通
		L-△		L-△	L-△	M-△	L-△	L-△		-△			普通
		L-△		L-△	M-△	M-△	M-X	SS X	SS X				庄内式
		M-X		L-△	-△	L-△	M-△	L-△	M-△				普通
		L-X		L-△	L-X	S-X	SS X	S-X	S-X				普通
		L-X		S □	L-X	S □	SS△	S△	S△				普通
		L-□		L-○	L-△	L-□	M-X		S6 X				普通
		L-□		L-○	M-△	M-X			S6 X				普通
		S □		L-△	L-△	M-△	M-X	S-X	SS X				庄内式
		S □		L-□	M-□	S □	M-X		S△				普通
		L-O		L-○	M-△	L-○		L△	S△				普通
		S X		M-△	L-○	M-△		S X	SS△				普通
		L-O		L-O	L-X	S-X	M-X		S X				普通
		M-△		L△	L-△	M-□	SS X	S-△	S-△				普通
		L-□		L-△	L-○	M-△	L-X	M-X	S-△				普通
		M-△		M-□	M-X	S-△	M-X		S-X				不明
		L-△		L-○	M-X	S □		M△	SS△				普通
		S X		S □	L-X	S X		SS X	S-△				こしき 6億紀
		L-□		L □	M-O	M-O		S△	S△				普通
		S X		L-△	M-O	L-△	M-△	SS X	SS X	S△			普通
		L-X		L-○	L-□	M-X	M-X	M-△	L-△				普通
		M-△		L-□	M-△	L-○	M-X	L-X	S△				普通
		L-X		L-△	L-△	L-△	L-X	M-△	M-△				普通
		L-X		S O	L-△	L-○	M-△		L-X	S X			普通
		L-△		L-△	L-△	L-△	L-△	I-△	M-○				普通
		M-△		M-O	L-△	M-△	M-△	S-△	S-X				庄内式
		L-△		L-○	M-X	M-△	S-X		S-△				高杯
		M-□		L-X	S-X			S-X	S-△				庄内式
		L-△		L-○	S-△	S O			S△				庄内式
		M-X		L-□	M-△	L-□	S □	SS X					庄内式
		L-O		L-□	M-△	S □			L-△				庄内式

試料番号	種類	岩										破			片	
		花崗岩	閃綠岩	斑巖岩	流紋岩	チャート	泥岩	砂岩	実験綠岩	結晶片岩						
		輝眼 30倍														
SX2-17		M△	L△													
SX2-22		L-X														
SX2-23		L-X						L-X								
SX2-1		L-X	L△			L△										
SX2-2							L-X	L-X								
SX2-4							L-X									
SX2-5		M△					L-X									
SX2-6		L-X														
SX2-7		L-X							M-X							
SX2-9		L-X	L-X				M-X									
SX1-1																
SX1-2																
SX1-3								L△								
SX1-5							M-X	M△								
SX1-6																
SX2-2		M-X														
SX2-4			X				L-X									
SX2-7		L-X														
SX2-8			□					X								
SX2-9			-X				L△									
SX2-10		L-X														
SX2-11		L-X														
SX2-12								M△								
SX2-13			△				L-X	-△								
SX2-14		SO						S△								
SX2-15																
SX3-4								L-X	M-X							
SX4-5			-△					M△								
SX4-10																
SX4-11		L-△			X											
SX4-13				L-X			L-X									
SX4-17		L-△	△					-△								
SX4-18		L-X					M-X									
SX4-19		L△														
SX4-21								M△								
SX4-26		M-X					L-X									
SX4-28		L-□					L-X									
SX4-30		L-X	△				M-X									
SX4-32			L-X				L-△									
SX4-34		L-X	L-X													
SX4-35																
SX4-36		L△					M X									
SX4-37			△													
SX4-38		L-X														
SX4-40		L-△	X													
SX4-41				L△												
SX4-42		L-X					L-X									
SX4番外		M X	△				L△									
SW1-1		L-X														
SW1-2		L-△	L-X				L△									

試 物 破 片												器 種	時 期		
ホルンフェルス		大理ガラス		石 英		長 石		雲 母		角 閃 石		輝 石			
輝眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍		
S△	-△	M-△	M△	S-○	M-△				M-○					重	庄内式
L-X	M-△	M-△	M-□		SS△				S-X					上重	庄内式
M-X	S-X	M-△	M-□		SS-X				S-X					土番	庄内式
M-△	-○	S-△	M△						S△					重	V様式
L-○	-○	M-□	S△						SS△					重	V様式
L-△	M-△	L-△	M-□	M-X	S-X				M-○					重	V様式
L-○	L-○	S-△	M-△		SS-X				S△					重	V様式
M-△	L-□	L-△	M-□	M-X					S-△					重	V様式
L-○	L-○	S-△	S-○	S-○	M△				SS△					重	V様式
M-△	L-○	S-○	M-○	L△				S○					重	V様式	
S△	-○	SS△	M△						M-△					脉	带脈式
SS△	M-○	SS○	M-□	L△				SS□					脉	帶脈式	
M-△	L-○	SS○	M△						S-△					重	帶脈式
M-△	M△	M-△	M X		SS X				SS△					重	V様式
S△	-○	S○	M-○	L△				S○					重	V様式	
M-X	L-X	-△	S-X	M-□	M-□				M-□					重	V様式
MX	L-△	L-△	L-△	S-X					S-△					重	庄内式
L-△	S-△	M-X	M-X	M-X	M-○				S-△					下重	庄内式
S△	L-○	-○	S○	S	S△				S-△					脉	V様式
L-△	L△	L-X	X	M X	L-X				S-△					重	V様式
M-X	L-○	L-△	L-X	L-○	M-△				M-△					重	V様式
L-△	M-△	M-X	M-X	SS	SS X				S X					重	V様式
M-○	L-○	S-○	S△	SS△	M△				S-△					重	帶脈式
S○	L-○	S○	S○	○M-□				SS△					重	V様式	
M-△	L-○	S△	S□						S△					重	V様式
M-X	L-X	M-△	S-○		SS X				S△					重	V様式
M-X	M-○	M-X	S X						S△					重	V様式
M-□	L○	SS△	S△	M X	SS△				S△					脉	不明
L-X	S-○		S-X		SS X				M-□					重	庄内式
L-X	L-X	L-△	S X		S-△				S-△					重	V様式
L-X	M-○	M-△	L-△		S-X				S-X					重	V様式
M-△	L-○	S△	S□						S△					重	庄内式
L-X	M-X	M-△	M-X		SS△				S△					脉	V様式
M-○	L-○	M-○	M-△	L-△	SS X	S-△			S○					脉	V様式
MA	M△	-□	M△	L○					S-△					高脉	V様式
L-△	M-□	L-△	S-X	L-X	L-X				S-X					重	V様式
L-△	L-△	L-△	M-□						S-X					重	V様式
L-X	L-△	M-X	S X	M-X	S X				S△					重	庄内式
L-○	○M○	S□	S△						L△E					重	V様式
L-△	M-△	M-X	L-□	M-△	SS X	S-△			S-△					重	V様式
SS△	L-□	L-△	S△	S△	S△	S△			SS○					重	V様式
M-△	L-△	M-△	S X	M-X					S-X					重	V様式
S△	M-△	L-○	M-△	L△					S△					重	V様式
M-X	M-X	M-△	M-X	L-○	M-○				S○					重	V様式
L-△	L-△	L-△	M-△	L-△	S-X				SS△					重	V様式
L-○	S△	L-△	S△	S△	S△				S-△					重	V様式
L-□	M-△	M-X	S X		SS X	S△			S△					重	V様式
L△	M-△	L-○	M-△		SS△	S△			S△					重	庄内式
L-X	L-△	L-△	M-△	L-X	S-X				S-X					重	庄内式

砂礫 類 試 料 番 号 型	岩						石						破			片	
	花 崗 岩	閃 綠 岩	層 狀 岩	流 紋 岩	千 手 岩	泥 岩	砂 岩	安 蘇 綠 岩	結 晶 片 岩	揮 眼 30倍							
SW1-3	-△	△					-□										
SW1-5	-X					-X	X										
SW1-7	-X																
SW1-8	L△					-△											
SW1-9	L△					-△											
SW1-12	-X					-X											
SW1-13	△	-△				-△											
SW1-14																	
SW1-15	-△																
SW1-16	-X																
SW1-17	△	X				-△											
SW1-18																	
SW1-19																	
SW1-20																	
SW1-21	M△																
SW1-23																	
SW1-24						M X											
SW1-25						M△											
SW2-1						L△ S X											
SW2-2	-△					M-X											
SW2-3						L△ M△											
SW2-4	L X					L X											
SW2-5						L X											
SW2-6																	
III	M△					M X S △											
SW2-11	L X																
SW2-12	L □					L X											
SW2-13	L△					L△											
SW2-14	-△																
SW2-15	L△					S△											
SW2-16						L△											
SW2-17	L □					M△ L△											
SW2-20	L△ -X L X																
SW2-21	L△ -L△ M△																
SW3-1						M△											
SW3-7						L△											
SW3-8																	
SW3-9	L△																
SW3-11						L△ S△											
SW3-14						M X											
SW3-19						M△ M X											
SW3-21	L-X					L X L X											
SW3-22	L△																
SW3-24						L X											
SW3-25	L△ L△					M△											
SW3-26																	
SW3-28						L X											
A区20号带-1																	
A区3号带-2																	
A区1号带-3																	

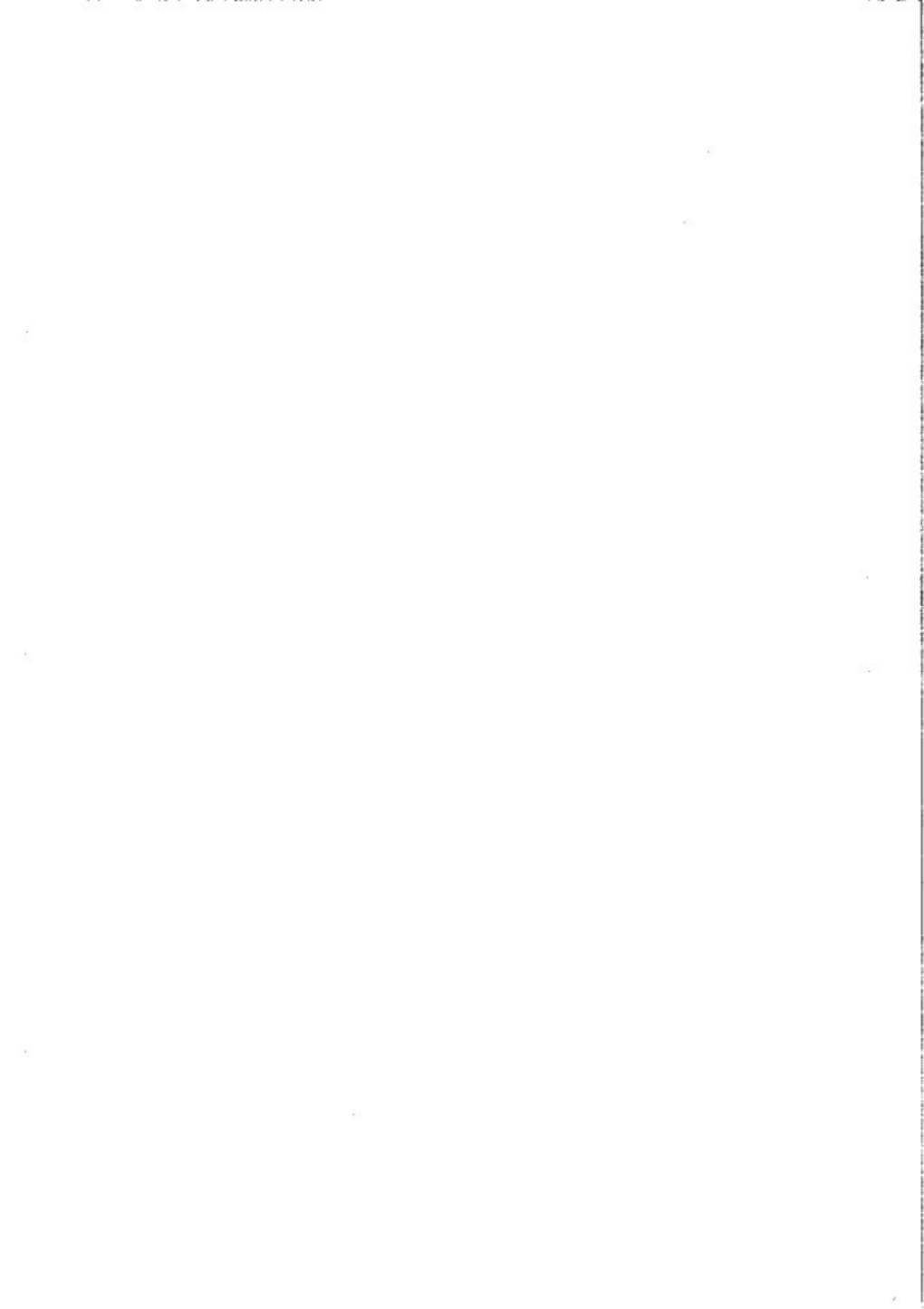
		鉱物破片						器種	時期
ホルンフェルス	火山ガラス	石英	長石	雲母	角閃石	輝石			
輝眼	輝眼	輝眼 30倍							
M-O L □ S A S □						SS △		亞	庄内式
L-□ M-□ L-△ M-△				S-X		S-X		亞	庄内式
L-X L-□ L-X M-X M-O M-○				M-△				亞	庄内式
L-△ L-△ L-○ L-@ S △ SS △				SS△E				東	庄内式
L-□ L-△ M-△ L-X M-X				S-X				東	庄内式
L-△ M-O M-□ M-O M-□ M-X				S-X				東	庄内式
M-O L-○ L-○ L-△				M-△				東	庄内式
L-△ L-○ SS△ M-□				S-X				東	庄内式
L-△ L-△ L-○ L-△				S-X				東	庄内式
L-X M-□ M-O				S-X				東	庄内式
M-△ L-△ L-X L-□ L-X S-X				S-△				東	庄内式
L-□ SS△ M-□				S-△				東	庄内式
S O SS△ S O				S-X				東	庄内式
L-△ M-O M-O S △ S-△ S-X				S-△				東	庄内式
S O SS△ O				M△				東	庄内式
L-X L-X L-□ L-□ M-O M-O				L-X				東	庄内式
M-△ L-□ M-△ S △				S-△				東	庄内式
M-△ L-○ S △ S △				L-△				東	庄内式
L-X L-@ L-X M-X				S-X				東	V様式
M-X L-△ L-□ M-X M-X SS X				SS X				東	V様式
L-○ L-○ L-X M-A				L-X				東	V様式
L-△ L-□ M-X S-X				SS X				東	V様式
S △ L-□ SS X L-△				M△				高杯	V様式
M-△ L-□ SS△ L-○				S-△				高杯	V様式
L-△ L-○ S △ L-△				S-△				高杯	V様式
L-△ M-□ M-O M-O S △ S △				S □				高杯	V様式
L-△ L-△ L-△ S-X M-X S-△				S-△				高杯	V様式
L-X L-△ L-△ S-△ L-X SS X				S-X				東	V様式
L-△ L-△ M-X S-X				SS X				東	V様式
MX L-○ S △ M-□				S-△				東	V様式
L-□ L-@ L-○ L-△ M-△ L-△				SS△				東	V様式
L-○ L-△ S □ S □				S-△				東	V様式
L-△ L-△ M-△ M-X L-X				SS X				東	V様式
S △ L-△ L-△ M-□				S-△				東	V様式
M-△ S O M-△ S O SS O L-○				S-△				東	V様式
L-△ L-○ L-△ M-△				S-△				東	V様式
L-X L-△ SS X L-□ L-○				M-□				高杯	V様式
L-X L-△ M-□ M-○ L-@				S-△				高杯	V様式
M-△ L-○ M-O S-□				S X				高杯	V様式
L-△ M-O				S-○				東	V様式
M-△ S-○ M-△ S-○				S-△				東	V様式
M-X M-□ L-X S-□				SS X				東	V様式
M-□ M-○ M-O S-○				SS△				東	V様式
M-X M-O M-X M-△ SS△ S-X				S-X				東	V様式
L-□ L-○ M-□ S-○				S-△				東	V様式
S-X M-△ SS△ S-□				M-△				東	V様式
SS△ L-○ M-O S-○ SS△ SS X				M-O				東	V様式
L-○ L-○				L-△				東	V様式
M-△ L-△ M-X M-X				S-△				東	庄内式
L-○ L-○ M-△ L-○ M-△ M-△				S-△				東	V様式

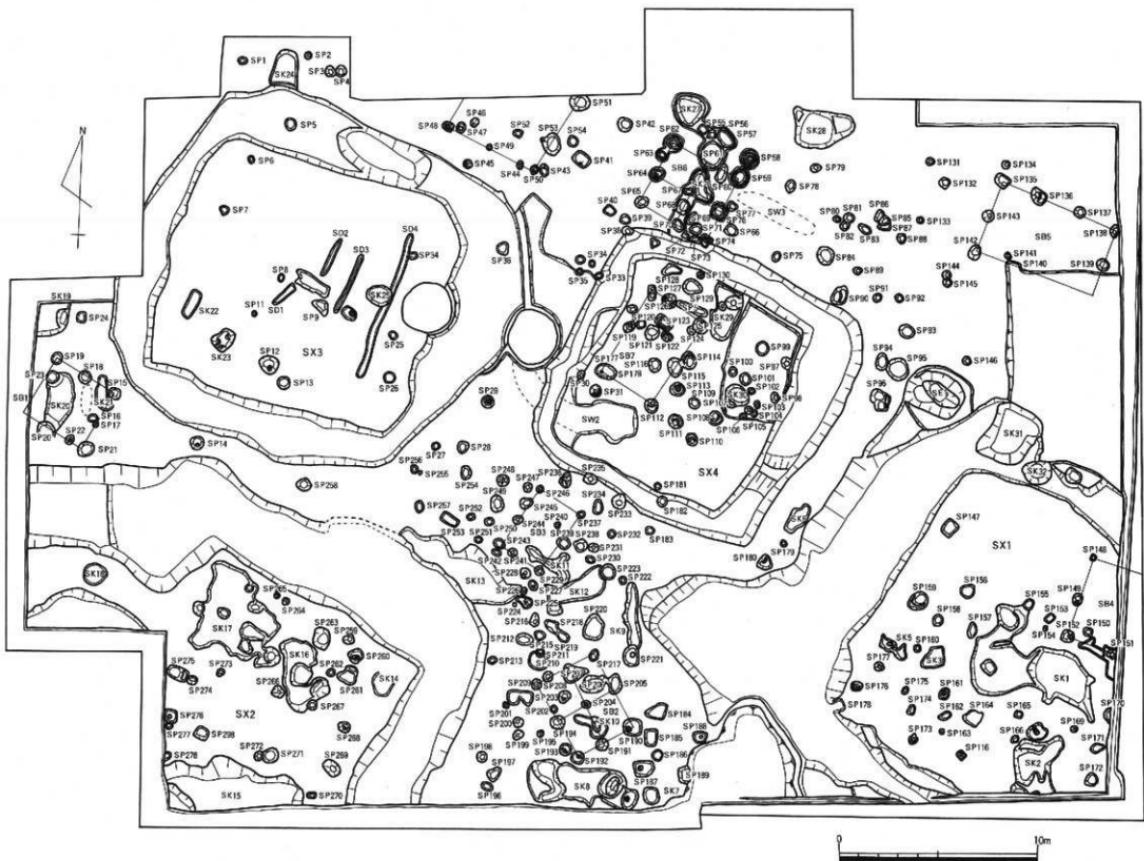
類別 試料番号	砂礫種 標本名	岩										石					破		
		花崗岩		閃綠岩		斑頸岩		流紋岩		チャート		泥岩		矽岩		変輝綠岩		結晶片岩	
		輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍
A区北端-4										L-△		L-X							
A区北端-5										L-X									
A区北端-6		-X								M-X									
A区北端-9		L○								S△									
A区北端-11	M□									S△S△									
A区北端-12	L-X		L-X							MXL△									
B区北端-6	M△									SSX	L-X								
B区北端-7			L△							M△M△									
B区北端-8	M△									L-X									
B区北端-9										L-X									
B区北端-10										L-△									
B区北端-13		L△																	
B区北端-14	L△									SS△M△									
B区北端-17	L△									L△SA									
B区北端-19	L△																		
B区北端-20	-△	-X								L-X									
B区北端-31	L-X									L-X									
H区北端-23	L△																		
B区北端-25	L△																		
B区北端-26	L△																		
B区北端-27	-X	L△	L△							M□L△									
B区北端-28	-△	-X								L-X									
B区北端-29										L△									
B区北端-30		L△																	
B区北端-32		-△								L-XL-X									
C区北端-3	-△									L-X									
D区北端-6																			
D区北端-12																			
D区北端-13																			
D区北端-18																			
D区北端-17																			
D区北端-21	-X																		
D区北端-22	-X																		
D区北端-25	L-X									L-XL-X									
D区北端-26	L△																		
D区北端-28	-X																		
SK2-1										L-X									
SK15-2	L-X	L□	L-X							M○L-X		L-X							
SK15-6	L□		L△							L○L△		L-X							
SK1-4	..X	-X																	
SK2-1																			
SK2-3	-△																		
SK2-9	L-X																		
SK4-12	-△																		
SW1-23	-△	-△	L-X																
SW3-15																			
b区北端-2			L-X																
SV-15	L△		L-X																
SW3-3	L-X																		
SW3-10																			

		鉱物破片								器種	時期
ホルンフェルス	火山ガラス	石英	長石	雲母	角閃石	輝石					
輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍
		L-O	-◎	L-□	-△			M-X		高杯	V様式
		L-△	M-◎	M-△	M-△	ss X		S-△		高杯	V様式
		M-O	L-O	M△				S-△		高杯	V様式
S△	L-△	-○	ss X	S □	ss △	L X	ss △			斐	V様式
		L-△	L-O	M-△	S O	S △	S □			斐	V様式
		L-△	L-□	L-A	S △	ss △ S O	S △			斐	V様式
		L-□	L-◎	M-□	M-□	ss △	S △			斐	V様式
		L-△	S □	S △ S △		L X	S-X			斐、V	V様式
		L-O	-○	S O	S △	M△	S △			斐	V様式
		M-X	S O	ss S O	M△	S △	S △			斐	V様式
		L-△	-○	L X S □	ss △ L-△	S □				斐内式	
		L-O	L-○	M-△ M-O		ss X				斐	V様式
		M-△	M □	ss △ S △		ss X	ss X			斐	V様式
		L-X	L-○	M-□	M△	L-X	M△			斐	V様式
		L-X	M □	L-□	M-□	M-X	M-X			斐	V様式
		L-X	L-□	L-□	M-O	M-O-S-X	S-△			斐	V様式
S-X	-□	L-○	M-△ S-△	L-△		S-X				斐	V様式
		L-△	L-△	L X S △	M-X	MX	S-△			斐	V様式
		-△	M □	M-O S O		MX	SSO			斐	古銅式
		L-△	M-○	S △ M-□		S X	S △			斐	V様式
		M-O	L-□	M-X S △		S △				斐	V様式
		L-△	L-□	L-△ M-△	M-X S-□	S-X				斐	V様式
		L-X	L-○	M-△ L-△		S-X				斐	古銅式 斐内式
		L-O	L-○	M □	S □	M-△	S △			斐	V様式
		L-O	L-○	M-X		M-X	S-X			斐	古銅式
		L-△	M-○	L-□ M-△	S-△	S-△	S-△			斐	V様式
LX		L-□	M-□	L-X S △	L X ss X	S-X	S-X			高杯	古内式
		S □	M-X	ss △		MX	ss □			重	V様式
S△		M □	S △ S △		ss X	ss △				斐	古銅式
		L-△	-□	M-X L-X		ss X	S-X			高杯	V様式
S△	-□	L-O	M-△ S △		S △	S O				高杯	V様式
		L-X	S-O M-X M-□		ss X	S-□				斐	不明
		L-□	L-○ M-△ M-△			S-X				斐	V様式
		L-O	-○ S △ L-O M □ M-△		S-△					斐	V様式
		M-X	X L-△	ss O S-O L X	M-△					斐	V様式
		L-X	L-○ L-△ M-△	L-△	S-○	S-X	S-X			斐	V様式
		L-△	M-O L-△ L-□		S-□					斐	古内式
LX	S△	L-O	L-O L-□ L-○ L X S X		S △					高杯	V様式
		L-O	L-○ M-□ M-□ L X L X		S △					斐	V様式
		M-X	S-X L-△	M-△ L-△	L-X					斐	V様式
		S △	S-X	ss X	S □					斐	古銅式
		L-□	L-O L-X L-X		L-△					斐	古内式
		M-△	M-△ M-□ M □ M-X	S-X						斐	V様式
MA		L-O	M-O M-△ M X							斐	古内式
		L-△	S-△ M-△ M-X L-△		S-X	SXE				斐	古内式
		M □	L-△ M-□ M-△ S △							斐	V様式
		L-△	L-△ L-△ M-△ L-△		S X					斐	V様式
		M O	L-□ L-△ S X M-△ M O		SAE					斐	古内式
		M X	L-X L-X L-△	M-X ss △	SAE					斐	V様式
		M-X	L-△	M □	ss X	MAE				高杯	V様式

試 料 類 型	砂礫種 類 別 分 合	岩						石						玻 片		
		花 崗 岩	閃 綠 岩	斑 鵝 岩	流 紋 岩	チャート	泥 岩	砂 岩	玄 輝 鉱	結 晶 片 岩						
		揮 眼 30倍														
VIII	SX2-6			△			□ ○									
	日立港山層-35						M△ M△			L X						
	SI-22						M△ L△									
	SK16-23975		□				-△ -△									
	BK29-1	M△					L○									
	SK15-3	X														
	SK7-5	-△					L X L-X									
	SK28-4		△											I-X		
	SK29-8						MX									
	SK29-9						-○ -□									
	BK12-22層-1						L△ L X							I-X		
	BK12-22層-22	M△	M△				SX									
	D'京港九層-9	M△					-○ M△									
	C'京港層-1	-X														
	河底-1						-□									
	SX3-3	△					M△									
	SX4-1	-△ S△					M□ L△									
	SX4-6	L○														
	SW1-10	MX														
	SW1-11						M□ L△									
	SW2-5															
	SW2-20	-X					L○			L-X						

鉱物破片										器種	時期
カルシウム	六山ガラス	石英	長石	雲母	角閃石	輝石	橄欖石	輝眼	輝眼		
30倍	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	30倍	輝眼	V様式
L△		L-O L-C	M-O S O			SSAE					斐
M△		M-△ L-△	SS X M△		S△					新	V様式
SX	S△	L-□ L-O	SS△ S△	S△	SS X					正	V様式
L-X		M-△ L-O	L-△ M-△	L-△	S-X					斐	V様式
MO		L-O M-△	MX	L X S△ M-△						庄	庄内式
		L-□ M-□ M-△								高林	V様式
L-△		L-△ M-△ L-△	M-X L-X SS X		SS△					林	平暗
MO		M-□			S-△					正	庄内式
		L-O L-O M-△ M-△ S△ L-X			S X					斐	V様式
M△		L-O L-O S△ S O	SS△	S△						新	V様式
		L-O L-□ M-△ S O M-X M-△			S X					林	V様式
M□		L△ L-△ S△ S O			SSAE					斐	V様式
L-△		L-O L-O M-□ S O	S O	SS△						新	V様式
		S-△ L-△	SS O L-O L X	S-△						庄	V様式
L-△	M△	L-△ M-□ M-X M-X			S-X					高林	庄内式
M△		M-□ L-□ S O M @			SS△					斐	V様式
		M-O L-O S-O S O			S O					正	庄内式
		M-X L X L-O L△ L-△ L△			M-△F					斐	V様式
		L-□ S O			S△					林	庄内式
		M-O L-□ SS△ S O	M△							斐	V様式
		L-X L-△ L-△ M-X	SS X	SS X						正	V様式
										斐	V様式





# 図 版



1 現地説明会風景



2 現地説明会風景



1 全 景 (北より)



2 全 景 (西より)



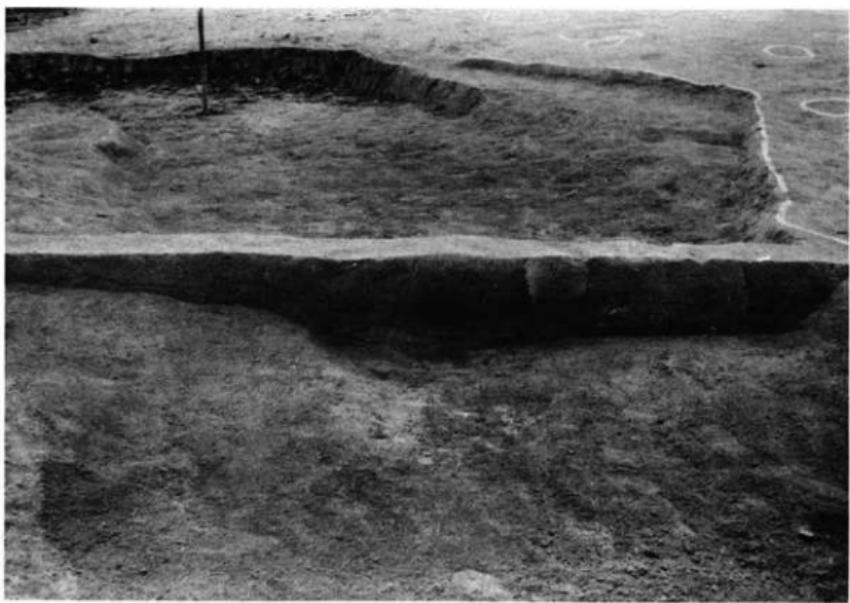
1 SX I 検出状況（西より）



2 SX I 南溝断面状況（西より）



1 SX 2 検出状況（東より）



2 SX 2 北溝断面状況（東より）



1 SX 3 検出状況（東より）



2 SX 3 南溝断面状況（東より）



1 SX3 東溝土器出土状況



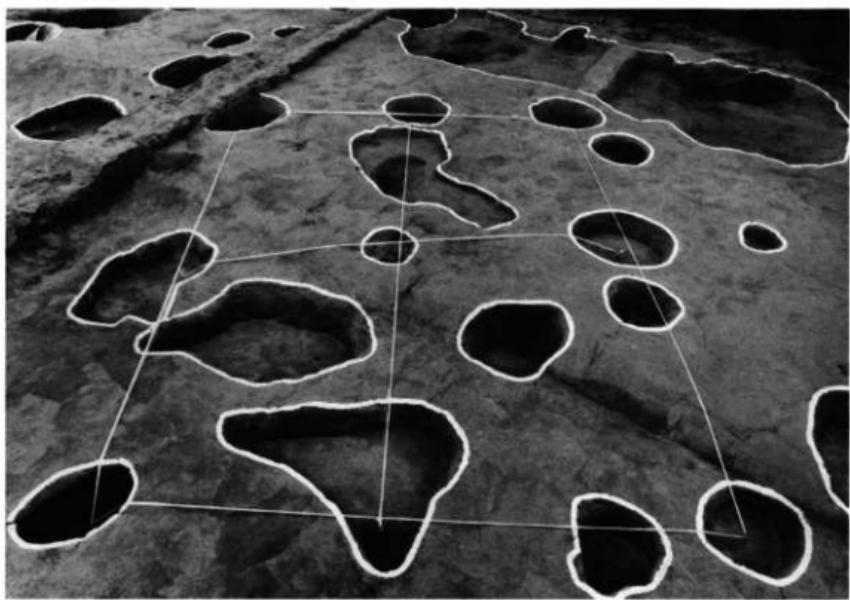
2 SX4 検出状況（南より）



1 SX 4 西溝断面状況（北より）



2 SX 4 東溝土器出土状況（南より）



1 SB 2 検出状況（北より）



2 SB 3 検出状況（南より）



1 SB 5 検出状況（西より）



2 SB 5 柱根検出状況（南より）



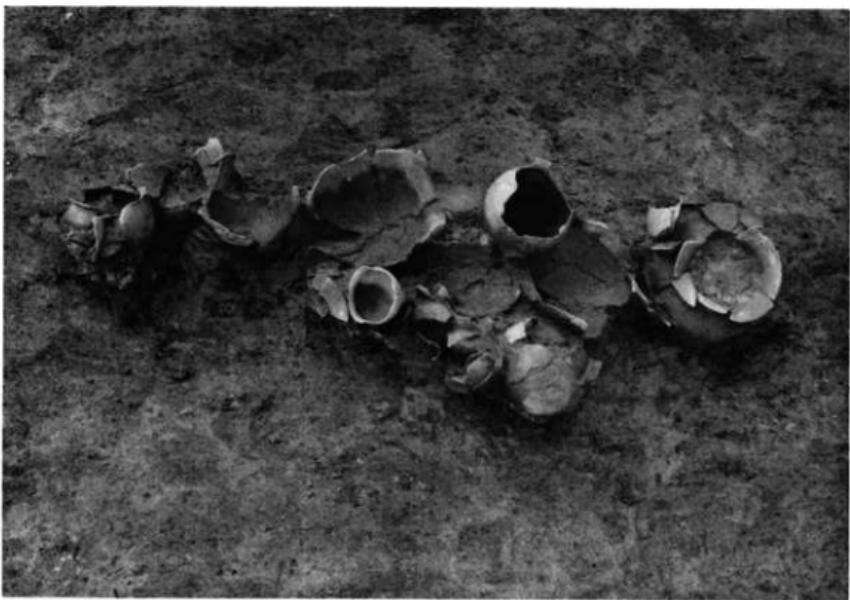
1 SB 6 検出状況（北より）



2 SB 7 検出状況（南より）



1 SB 4 根石検出状況（南より）



2 SW1 土器出土状況（東より）



1 SW2 土器出土状況（南より）



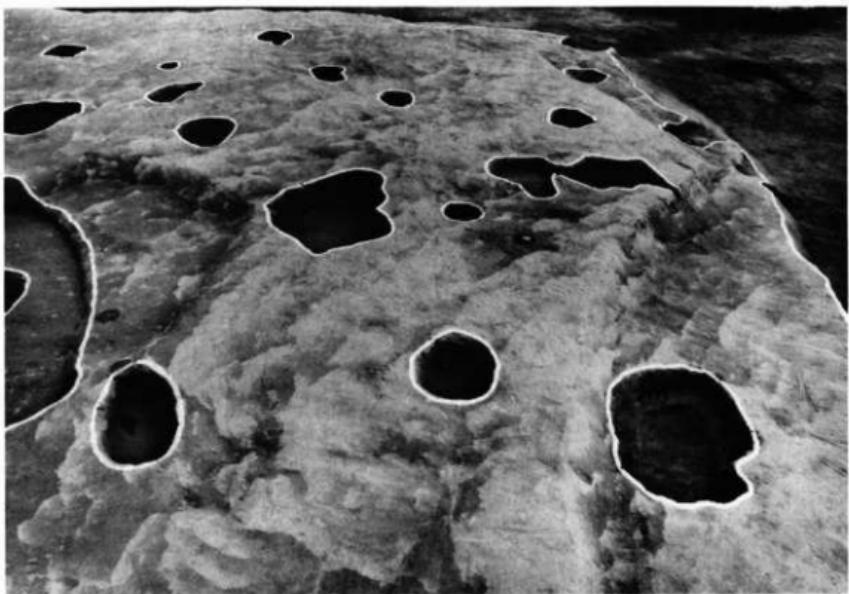
2 SW2 土器出土状況（東より）



1 SK 1 検出状況（北より）



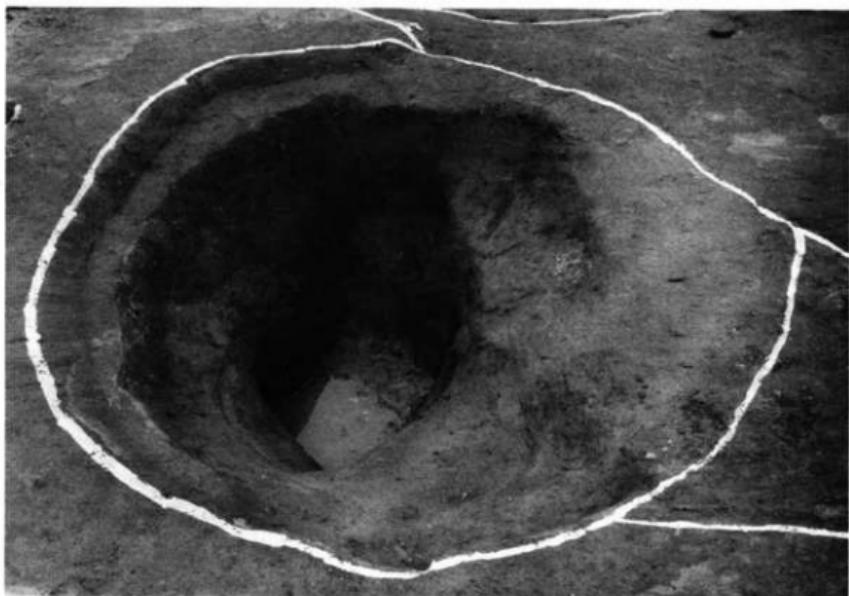
2 SK 2 検出状況（西より）



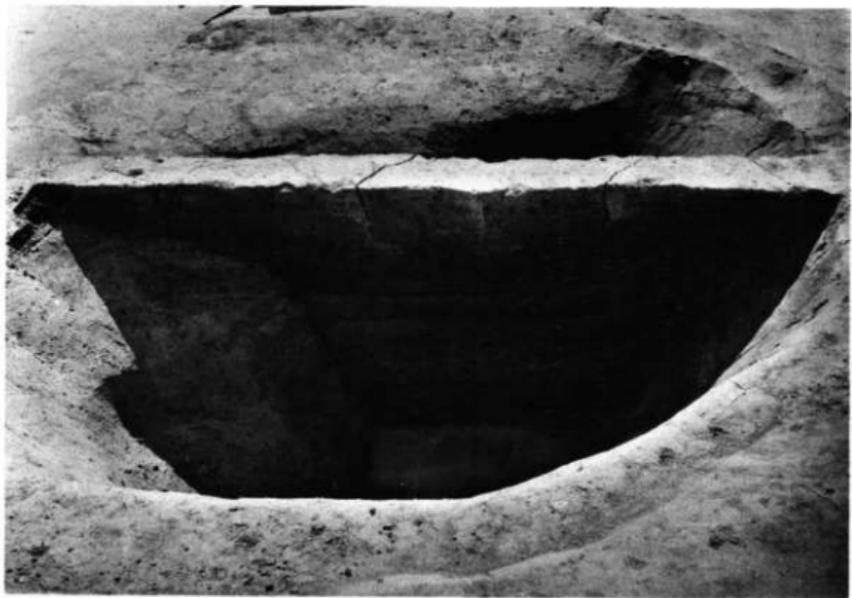
1 C地区 遺構検出状況（北より）



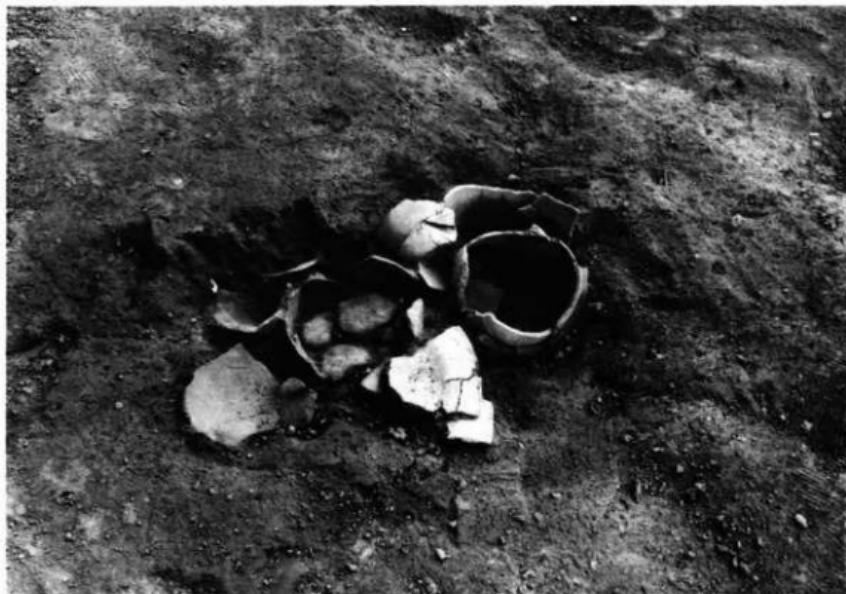
2 SE1, SK31, SK32 検出状況（西より）



1 SE 1 完掘状況（東より）



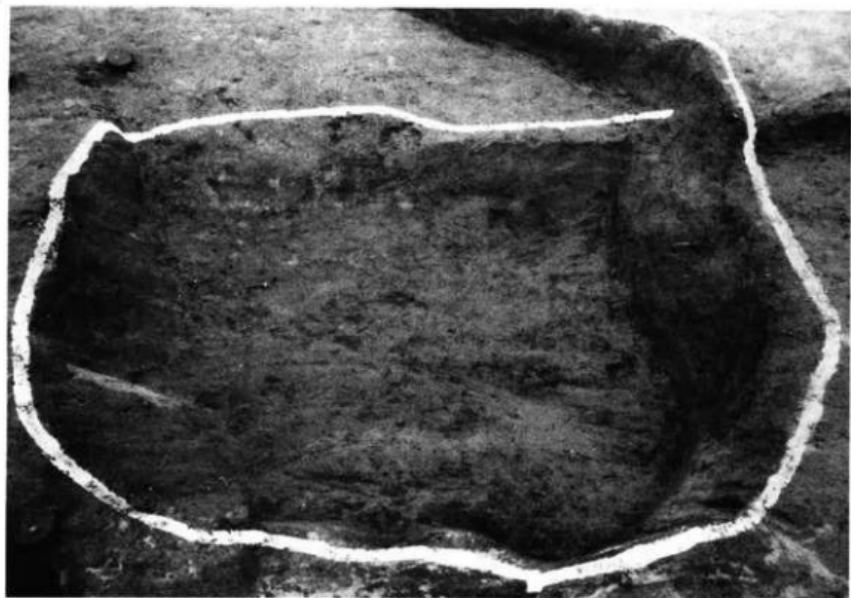
2 SE 1 断面検出状況（北より）



1 SK 8 土器出土状況（東より）



2 SK 15 土器出土状況（北より）



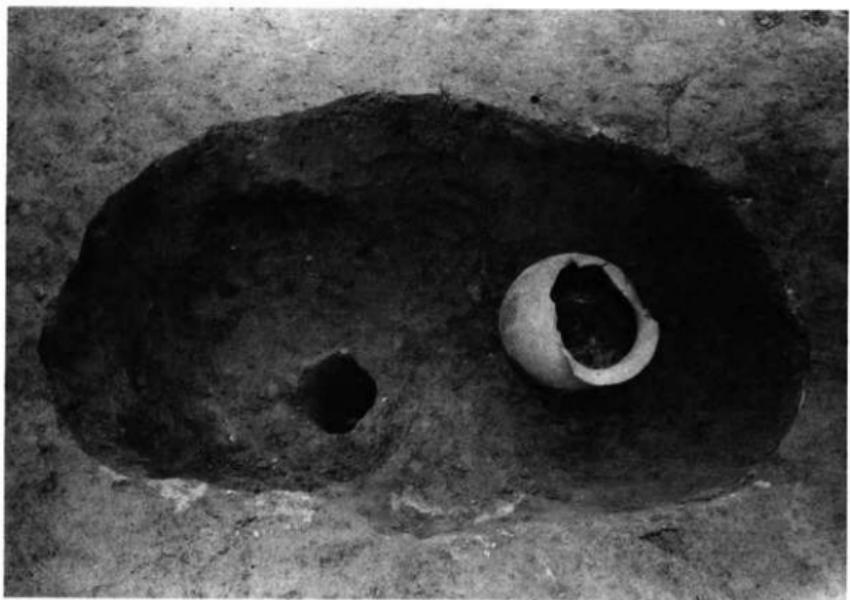
1 SK31 完掘状況（西より）



2 SK31 断面検出状況（東より）



1 SK32 検出状況（南より）



2 SP178 土器出土状況（南より）



1



2



3



4



5



6



7

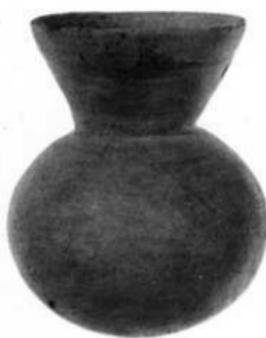
1~3 SX 2      7 SX 4  
4~6 SX 3



8



9



10



12



11



13

8~11 SX 4 12.13 SW 1



14



17



15



18



16



19



20

14~20 SWI



21



24



22



26



27



23



25



28

21.22 SW1 23~28 SW2



29



32



30



33



31



34



35

29~31 SW 2      32~35 SW 3



36



39



37



40



38



41

36~41 SW3



42



43



44



45



46



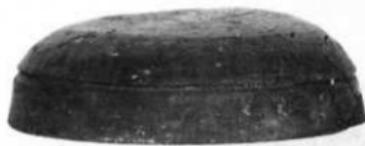
47



48



49



50

42 SK 5      44.45 SK 8  
43 SK 7      46~50 SK 13



51



53



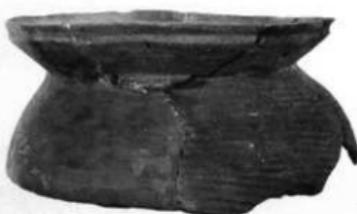
52



54



55



56



57

51~53 SK15 56 SK24  
54 SK16 57 SK28  
55 SK17



58



62



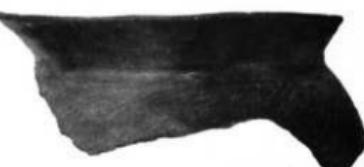
59



63



60



64



61



65



66



69



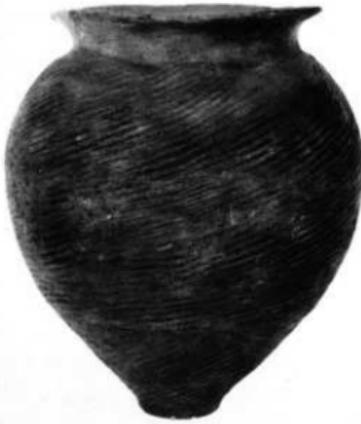
70



67



71



68



72

66 SK32 69~71 A區包含層  
67 SP140 72 B區包含層  
68 SP178



75



73



76



78



74



77



79

73~79 B区包含層



80



81



82



83



84



85



86



87

80~82 B区包含层 83~87 D区包含层

成法寺遺跡  
—八尾市光南町1丁目29番地の調査—

発行日 1983. 8

発行 勧八尾市文化財調査研究会

印刷 真陽社  
京都市下京区油小路仏光寺上ル

